

2020 2021  
令和2年度～令和3年度

# 酒田市美術館年報

## Sakata City Museum of Art

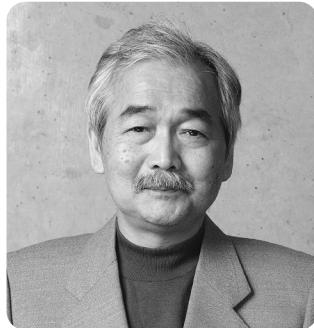


2020 2021  
令和2年度～令和3年度

# 酒田市美術館年報

Sakata City Museum of Art

酒田市美術館



## より親しまれる 美術館を目指して

酒田市美術館 館長 石川 好

酒田市美術館は、平成9年に開館して以来市民の皆様に優れた美術展を提供し、日常の生活において喜び、安らぎを享受していただけるよう努めてまいりました。そして、平成27年7月、入館者はついに100万人の大台を突破するに至りました。

これまで当館に賜りました酒田市をはじめとする多くの方々のご支援に、心から感謝申し上げます。

このたび、令和2年度～3年度までの事業活動をまとめた年報を刊行いたします。これにより、当館がどのような事業体であり、これまでどう役割を果たしてきたか、ご理解いただけるものと思います。

各年度の展覧会活動は、常設展として酒田市で所蔵する高橋剛氏・斎藤長三氏・佐藤昌祐氏の作品、そして平成24年に寄贈された國領經郎氏の作品、並びに本財団名譽理事長 新田嘉一氏・岸田隆氏のコレクションを中心に、酒田市ゆかりの作家等の作品を、また特別企画展として年6回、国内外の著名作家の手による高い芸術性をもつ作品を紹介してまいりました。その根底にあるのは、市民に親しまれる市民のための美術館という理念、そして、芸術表現の多様性と感動を市民に伝える、この一点に尽きます。

また、市民ギャラリーでは市民の創作活動の発表、教育普及活動では講演会、作品解説会、子どもを対象としたワークショップや絵画展などを毎年開催し、ここに多くの市民が参加していることは、ご承知のとおりです。

このような当館の活動状況を取りまとめた年報をご高覧いただき、なお、ご指導ご助言を賜りたく存じます。

今後とも市民の皆様とともに芸術文化を振興していく施設を目指し、当館の諸活動を充実させる所存であります。次なる目標は200万人目の入館者を迎えることです。皆様のご支援とご協力を賜りますよう、重ねてお願い申し上げます。

# 基本理念

酒田市美術館は、市の南西部、飯森山地区の小高い丘陵地に広がる約3万1千平方メートルの広大な敷地に、酒田市の芸術文化振興の一翼を担う施設として建設されました。

酒田市の教育文化ゾーンであるこの地には、東北公益文科大学、土門拳記念館、国体記念体育館、出羽遊心館があり、多くの方々が集い親しんでおります。

本美術館の基本コンセプトは、大きく三つに分けることができます。

第一には、酒田市のみならず庄内地域全体の美術館として、文化勲章を受章された洋画家の森田茂の作品、郷土出身の彫刻家 高橋剛、洋画家 斎藤長三、佐藤昌祐や國領經郎の作品など、酒田市が所蔵する多くの美術作品を良好な環境のもとで収蔵するとともに、日本の近・現代作品や本市にゆかりの深い芸術家の作品を収集していくことです。

第二には、上記の作家らによる作品を中心とした収蔵品の常設展示と、年6回の特別展示を開催し、地方においても国内外の優れた美術品に接する機会を提供していくことです。加えて、市民の旺盛な創作活動の成果を発表する場として、市民ギャラリーの活用を図ることです。

第三は、ワークショップやギャラリートークの開催、また、ミュージアムコンサートなどの教育普及活動を推進することであり、これらのコンセプトに基づき、将来にわたり本市の芸術文化の向上に寄与し、市民の生活に喜びと潤いの機会を提供することを目的にしています。

美術館の設計は、周囲の自然環境と建築の調和を特徴とし、日本芸術院会員の建築家 池原義郎氏の手によるものです。

最上川、酒田市街、鳥海山、そして遠く出羽三山を一望できる美術館は、市民の憩いの場として愛され、親しまれています。

はじめに	02
より親しまれる美術館を目指して	
基本理念	03

# 2020

令和2年度

1. 展覧会事業	06
(1) 企画展示	
生誕100年 國領經郎展 —静寂なる砂の景—	
酒田市美術館収蔵品展 生誕110年 斎藤長三展	
高砂淳二写真展 —Dear Earth—	
二つの東海道五拾三次 歌川広重展	
オードリー・ヘプバーン写真展	
いわさきちひろ ピエゾグラフ展	
(2) 連携企画	
サカタアートマルシェ 「いいいろいろいろ展」	
(3) 常設展示	
2. 教育普及事業	18
ワークショップ	
ギャラリートーク	
その他企画	
3. 市民ギャラリー利用状況	19
4. 入館状況	20

# 2021

令和3年度

1. 展覧会事業	21
(1) 企画展示	
アンティークドールの夢展 —児玉幸雄コレクション—	
酒田市美術館・土門拳記念館共同企画 今森光彦「自然と暮らす切り紙の世界」展	
つくる展 —TASKOファクトリーのひらめきをかたちに—	
魔女がやってきた 角野栄子展	
第76回県美展酒田巡回展	
第63回こども県展	
令和2・3年度市町村立美術館活性化事業 第21回共同巡回展	
板橋区立美術館・豊島区所蔵 池袋モンパルナスー画家たちの交差点—	
(2) 連携企画	
サカタアートマルシェ 「佐藤タカヒロ漫画原画展 ～デビュー作品からバチバチシリーズ 『鮫島、最後の十五日』まで～」	
サカタアートマルシェ 「いいいろいろいろ展」	
(3) 常設展示	

2. 教育普及事業 .....	38
ワークショップ	
ギャラリートーク	
その他企画	
スクールプログラム	
3. 市民ギャラリー利用状況 .....	41
4. 入館状況 .....	42

展覧会ポスター .....	43
令和2年度 特別展 .....	44
令和2年度 収蔵品展 .....	45
令和3年度 特別展 .....	46
令和3年度 収蔵品展 .....	47
学芸員研究紀要 .....	49
國領經郎の制作過程を探って 学芸員　武内　治子 .....	50
庄内の画家たちと 池袋モンパルナスの繋がり 学芸主任　武内　治子 .....	52
参考資料 .....	55
沿革 .....	56
施設概要 .....	57
各室別面積表 .....	58
組織・職員 .....	59
特別企画展一覧 .....	60
年度別入館状況 .....	65
利用案内 .....	66

# 生誕100年 国領經郎展 ～静寂なる砂の景～

会 期／令和2年3月7日(土)～4月12日(日)

※4月8日(水)より新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言  
により臨時休館

主 催／公益財団法人酒田市美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会

共 催／酒田市・酒田市教育委員会

協 賛／ライオン、大日本印刷、損保ジャパン日本興亜

特別協力／横浜美術館、國領經郎顕彰会

担 当／学芸員 武内 治子

入場者数／1,669人

## ◎展覧会趣旨

洋画家・國領經郎（こくりょう・つねろう 1919年～1999年）は、日本芸術院会員で日展を中心に活躍し、砂丘や砂浜を舞台とした情感豊かな絵画作品を数多く描いたことで知られています。

「砂丘」は、國領がかつて「むきだしの自然」と語ったように、訪れた人々の詩的感覚や人生観を搖さぶり、孤独な瞑想の時へと導いていくような、自然に由来する神秘的な力を湛えた場所です。砂丘に魅了された國領は、鳥取県鳥取市の鳥取砂丘や酒田市の庄内砂丘、神奈川県茅ヶ崎市の砂浜など日本各地の砂丘地や砂浜への取材を重ね、砂丘の風景の中に、若者たちの群像、飛翔する鳥、水溜りなどのモチーフを描き、國領独特の作品世界を構築していきます。

本展は、生誕100年を記念し、出身地である横浜市の横浜美術館と、鳥取県立博物館、そして酒田市美術館が収蔵する作品を中心に、初期から晩年までの油彩作品やスケッチ等の資料を含む約100点で國領の画業を振り返ります。國領がその生涯で表現しようとしたもの、砂のイメージに託そうとしていたものとは何かを探りました。

## ◎関連企画 ※コロナウイルス感染症対策により関連企画すべて中止

### 国領經郎展開会式

日時 3月7日(土) 午前10時～10時30分

### 片岡世喜氏によるギャラリートーク

日時 3月7日(土) 午前10時30分・午後2時

会場 展示室

講師 片岡世喜氏(日展会員、國領經郎顕彰会会長)

### 学芸員によるギャラリートーク

日時 3月20日(金・祝)、21日(土)、4月12日(日) 午後2時

会場 展示室

講師 当館学芸員

### アートシアター「砂の女」

(1964年、原作・脚本：安部公房、監督：勅使河原宏、147分、DVD上映)

日時 3月20日(金・祝) 午後5時～7時30分

会場 展示ホール



生誕100年

## 國領經郎展 ～静寂なる砂の景～

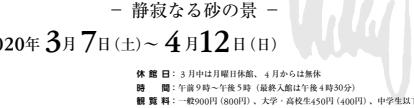
2020年 3月 7日(土)～4月12日(日)

休館日：3月中は月曜日休館、4月からは無休  
時 間：午前9時～午後4時30分  
料 金：一般900円(800円)、小学生・高校生450円(400円)、中学生以下無料  
※（）内は会員料の料金。  
※お子様会員料：2歳以下ご家族まで1名無料でご利用できます。(1名まで購入)  
※お車の場合は料金を支払ってご利用ください。  
主 催：公益財団法人酒田市美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会  
主 劇：酒田市立博物館、鳥取県立博物館  
協 賛：ライオン、大日本印刷、損保ジャパン日本興亜  
特別協力：横浜美術館、國領經郎顕彰会  
主 催：公益財団法人酒田市美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会  
主 劇：酒田市立博物館、鳥取県立博物館  
協 賛：ライオン、大日本印刷、損保ジャパン日本興亜  
特別協力：横浜美術館、國領經郎顕彰会  
KOKURYŌ Tsunerō : Commemorating the 100th Anniversary of His Birth ~ The Quiet Scenery with Sand ~

砂  
上  
の  
旅  
人

生誕100年

## 國領經郎展



2020年 3月 7日(土)～4月12日(日)

休館日：3月中は月曜日休館、4月からは無休  
時 間：午前9時～午後4時30分  
料 金：一般900円(800円)、小学生・高校生450円(400円)、中学生以下無料  
※（）内は会員料の料金。  
※お子様会員料：2歳以下ご家族まで1名無料でご利用できます。(1名まで購入)  
※お車の場合は料金を支払ってご利用ください。  
主 催：公益財団法人酒田市美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会  
主 劇：酒田市立博物館、鳥取県立博物館  
協 賛：ライオン、大日本印刷、損保ジャパン日本興亜  
特別協力：横浜美術館、國領經郎顕彰会  
KOKURYŌ Tsunerō : Commemorating the 100th Anniversary of His Birth ~ The Quiet Scenery with Sand ~

生誕100年

## 國領經郎展

～静寂なる砂の景～

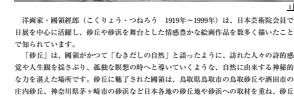
開道全般

主 催：酒田市立博物館、鳥取県立博物館会員会（こみ）

主 劇：酒田市立博物館、鳥取県立博物館

協 賛：ライオン、大日本印刷、損保ジャパン日本興亜

特別協力：横浜美術館、國領經郎顕彰会



洋画家・國領經郎（こくりょう・つねろう 1919年～1999年）は、日本芸術院会員で日展を中心に活動し、砂丘や砂浜舞台とした自然感豊かな絵画作品を数多く描いたことで知られています。

「砂丘」は、國領がかつて「むきだしの自然」と語ったように、洋画の人の詩的感覚や人生観を搖さぶり、孤独な瞑想の時へと導いていくような、自然に由来する神秘的な力を湛えた場所です。砂丘に魅了された國領は、鳥取県鳥取市の鳥取砂丘や酒田市の庄内砂丘、神奈川県茅ヶ崎市の砂浜など日本各地の砂丘地や砂浜への取材を重ね、砂丘の風景の中に、若者たちの群像、飛翔する鳥、水溜りなどのモチーフを描き、國領独特の作品世界を構築していきます。

本展は、生誕100年を記念し、出身地である横浜市の横浜美術館と、鳥取県立博物館、そして酒田市立博物館が収蔵する作品を中心に、初期から晩年までの油彩作品やスケッチ等の資料を含む約100点で國領の画業を振り返ります。國領がこの砂の世界を表現しようとしたもの、砂のイメージに託そうとしていたものには何かを探りました。

開道会員会（こみ）

# 生誕100年 國領經郎展 一静寂なる砂の景ー 作品リスト

## ■ 第一展示室

第1章 初期の仕事					酒田展のみ展示
1 風	1981年	油彩、カンヴァス	130.5×193.5	愛知県美術館	
2 白い蔵(上大岡)	1937年	油彩、カンヴァス	53.0×41.0	酒田市美術館	
3 山手風景	1937年	油彩、カンヴァス	51.0×64.8	横浜美術館(國領經郎氏寄贈)	
4 自画像	1940年	油彩、カンヴァス	53.0×45.5	酒田市美術館	
5 枇杷(仮題)	1939年	墨、岩絵具、紙	44.2×65.5	個人蔵	
6 花菖蒲(仮題)	1939年	墨、岩絵具、紙	63.1×43.3	個人蔵	
7 東中野風景	1940年	油彩、カンヴァス	53.2×65.4	横浜美術館(國領經郎氏寄贈)	
8 背戸(柏崎) (せど・かしわざき)	1946年	油彩、カンヴァス	41.0×53.3	横浜美術館(國領經郎氏寄贈)	
9 中国風俗図(仮題)	1951年頃	墨、岩絵具、紙	58.3×142.8	個人蔵	
10 女の肖像(仮題)	1949年	鉛筆、紙	29.2×25.0	横浜美術館(國領昭子氏寄贈)	
11 画室	1951年	油彩、カンヴァス	91.0×65.5	酒田市美術館(國領昭子氏寄贈)	
12 絵のある坐像	1953年	油彩、カンヴァス	130.5×97.5	鳥取県立博物館(國領昭子氏寄贈)	
13 青海川駅にて袖ヶ浦を望む	1948年	インク、水彩、紙	9.2×14.2	個人蔵	
14 市内スケッチ、郵便本局附近	1948年	インク、水彩、紙	9.2×14.2	個人蔵	
15 柏崎の浜より米山を望む	1948年	鉛筆、水彩、紙	9.1×14.2	個人蔵	
16 海岸風景 出航前	1948年	鉛筆、水彩、紙	9.2×14.3	個人蔵	
17 柏崎の海岸	1948年	鉛筆、水彩、紙	9.3×14.2	個人蔵	
18 本町通り中心街	1948年	インク、水彩、紙	9.3×14.2	個人蔵	
19 マーケット風景	1948年	インク、水彩、紙	9.2×14.2	個人蔵	
20 岬館	1948年	インク、水彩、紙	9.2×14.2	個人蔵	
21 岬より柏崎を望む	1948年	インク、水彩、紙	9.2×14.1	個人蔵	
22 岬館より第六港	1948年	インク、水彩、紙	9.2×14.2	個人蔵	
23 宿の奥座敷より	1948年	インク、水彩、紙	9.2×14.2	個人蔵	
24 宿前より見た本町通り	1948年	インク、水彩、紙	9.2×14.1	個人蔵	
25 商店街裏	1948年	インク、水彩、紙	9.3×14.1	個人蔵	
26 日石工場	1948年	インク、水彩、紙	9.2×14.0	個人蔵	
27 テニスコート	1948年	インク、水彩、紙	9.2×14.2	個人蔵	
28 貯水池	1948年	インク、水彩、紙	9.3×14.3	個人蔵	
29 大杉さんのお宅より見た海	1948年	インク、鉛筆、水彩、紙	9.0×14.2	個人蔵	
30 大杉さんの窓より	1948年	鉛筆、水彩、紙	9.2×14.2	個人蔵	
31 水源地	1948年	インク、水彩、紙	9.2×14.2	個人蔵	
32 駅前通り	1948年	インク、水彩、紙	9.2×14.2	個人蔵	
33 鶴川	1948年	インク、鉛筆、水彩、紙	9.2×14.2	個人蔵	
34 柏崎駅	1948年	インク、水彩、紙	9.2×14.3	個人蔵	
35 柏崎高等学校玄関	1948年	インク、水彩、紙	14.2×9.3	個人蔵	
36 貯水池	1948年	インク、水彩、紙	14.2×9.3	個人蔵	
37 総合公認グランド風景	1948年	インク、水彩、紙	14.2×9.3	個人蔵	

酒田展のみ展示

第2章 点描の表現					酒田展のみ展示
38 赤い服のA子	1954年	油彩、カンヴァス	145.0×112.0	酒田市美術館(國領昭子氏寄贈)	
39 布のある椅子に座る裸婦(仮題)	1940年	鉛筆、紙	36.0×27.5	横浜美術館(國領昭子氏寄贈)	
40 東京の海	1957年	油彩、カンヴァス	65.1×130.3	鳥取県立博物館(國領昭子氏寄贈)	
41 《港の風景》のための習作	1958年頃	クレヨン、紙	31.8×40.7	横浜美術館(國領昭子氏寄贈)	
42 港の風景	1958年	油彩、カンヴァス	65.2×90.9	酒田市美術館(國領昭子氏寄贈)	
43 船二隻(仮題)	不詳	鉛筆、紙	31.6×40.9	横浜美術館(國領昭子氏寄贈)	
44 空港への路	1958年	油彩、カンヴァス	97.0×162.1	横浜美術館(國領經郎氏寄贈)	
45 游漁船建造中 (しゅんせつせんけんぞうちゅう)	1959年	油彩、カンヴァス	97.0×162.1	横浜美術館(國領經郎氏寄贈)	
46 終着駅	1961年	油彩、カンヴァス	89.4×130.3	鳥取県立博物館(國領昭子氏寄贈)	
47 船のある風景	1962年	油彩、カンヴァス	112.1×162.1	横浜美術館(國領經郎氏寄贈)	
48 埠頭の工場	1964年	油彩、カンヴァス	91.0×116.7	酒田市美術館	◎
49 外人墓地	1963年	油彩、カンヴァス	112.1×162.1	横浜美術館(國領經郎氏寄贈)	
50 高速道路	1964年	油彩、カンヴァス	112.0×162.0	酒田市美術館(國領昭子氏寄贈)	
51 ヨットハーバー	1967年	油彩、カンヴァス	90.0×116.0	横浜美術館	
52 砂上の風景	1969年	油彩、カンヴァス	130.3×162.1	横浜美術館(國領經郎氏寄贈)	

## ■ エントランス

53 椅子に座る男(仮題)	1936年頃	鉛筆、紙	28.0×23.0	個人蔵	
54 椅 (仮題)	不詳	鉛筆、紙	39.7×27.5	個人蔵	
55 《干潮》のためのスケッチ	1955年頃	鉛筆、紙	24.9×35.0	個人蔵	
56 《飛行場風景》のためのスケッチ	1954年頃	鉛筆、紙	24.3×35.2	個人蔵	
57 弓ヶ浜(鳥取)	1972年	鉛筆、紙	22.7×37.8	鳥取県立博物館(國領昭子氏寄贈)	
58 材木のある砂丘(仮題)	1973年	鉛筆、紙	21.5×36.9	個人蔵	
59 《電車の駅》のデッサン	不詳	鉛筆、紙	13.0×36.0	個人蔵	◎
60 國領經郎オリジナルスケッチブック	不詳	紙	10.5×13.0	個人蔵	◎
61 《静止の空間》の習作	1983年頃	鉛筆、紙	10.2×11.9	横浜美術館(國領昭子氏寄贈)	
62 横たわる裸婦のスケッチ	不詳	鉛筆、紙	13.0×36.0	個人蔵	◎
63 福良港	1970年	鉛筆、紙	24.1×32.8	横浜美術館(國領昭子氏寄贈)	
64 船のスケッチ	不詳	鉛筆、紙	13.0×36.0	個人蔵	◎
65 鳥三羽、萩にて(仮題)	不詳	鉛筆、紙	10.2×24.2	横浜美術館(國領昭子氏寄贈)	
66 《鳥瞰》の習作	1977年頃	パステル、紙	38.7×53.0	個人蔵	
67 港(仮題)	不詳	鉛筆、水彩、紙	23.2×32.1	個人蔵	
68 横浜港(仮題)	1982年頃	鉛筆、水彩、紙	26.8×37.2	個人蔵	
69 スコットランド、スカイ島風景	1982年	鉛筆、水彩、紙	23.2×26.2	横浜美術館(國領昭子氏寄贈)	
70 壁彫レリーフ《希望》の下絵	1984年頃	鉛筆、紙	53.0×73.3	個人蔵	

## ■ 第二展示室

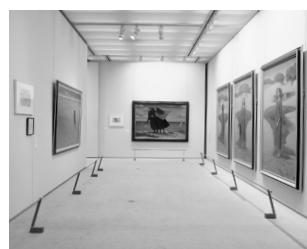
第3章 砂の景 I : 群像表現を中心					酒田展のみ展示
71 横臥する裸婦(仮題)	1987年頃	パステル、紙	37.4×55.2	横浜美術館(國領昭子氏寄贈)	
72 横臥する着衣の女(仮題)	1987年頃	パステル、紙	37.5×55.3	横浜美術館(國領昭子氏寄贈)	
73 裸婦座像(仮題)	不詳	パステル、紙	54.8×37.3	横浜美術館(國領昭子氏寄贈)	
74 海浜の風景	1971年	油彩、カンヴァス	130.3×162.1	個人蔵	
75 砂の上の群像	1974年	油彩、カンヴァス	130.3×162.1	京都国立近代美術館	
76 女二人	1979年	リトグラフ	65.2×53.0	酒田市美術館	◎
77 歩む男女(仮題)	1970年代	鉛筆、紙	24.7×33.6	横浜美術館(國領昭子氏寄贈)	
78 遠い海	1977年	油彩、カンヴァス	112.5×145.5	鳥取県立博物館(國領昭子氏寄贈)	
79 真夏の空間	1977年	油彩、カンヴァス	110.1×72.7	横浜美術館(國領經郎氏寄贈)	
80 《暁の月》の習作	1978年頃	鉛筆、紙	39.5×27.3	横浜美術館(國領昭子氏寄贈)	
81 暁の月	1978年	油彩、カンヴァス	116.7×72.7	酒田市美術館	
82 群像	1983年	ブロンズ	45.0×23.0×19.0	個人蔵	
83 砂の岬 (すなのはざま)	1978年	油彩、カンヴァス	90.9×116.7	横浜美術館(國領經郎氏寄贈)	
84 遙 (よう)	1980年	油彩、カンヴァス	90.0×116.7	横浜市市民文化会館関内ホール	
85 若ものたち	1980年	油彩、カンヴァス	130.5×194.0	横浜美術館	
86 跪 (きよ)	1983年	油彩、カンヴァス	112.0×145.0	鳥取県立博物館(國領昭子氏寄贈)	
87 《海風の風景》の習作	1988年	鉛筆、水彩、紙	21.3×31.8	横浜美術館(國領昭子氏寄贈)	
88 海風の風景	1988年	油彩、カンヴァス	129.0×192.0	横浜美術館	
89 想(3部作「連」のうち)	1987年	油彩、カンヴァス	194.0×130.5	横浜美術館(國領經郎氏寄贈)	
90 希(3部作「連」のうち)	1994年	油彩、カンヴァス	194.1×130.7	横浜美術館(國領經郎氏寄贈)	
91 望(3部作「連」のうち)	1991年	油彩、カンヴァス	194.0×130.5	横浜美術館(國領經郎氏寄贈)	
92 輓 (わだち)	1982年	油彩、カンヴァス	129.0×192.0	横浜美術館(國領經郎氏寄贈)	
93 《手・手・手》の習作	1993年頃	鉛筆、紙	27.1×39.6	横浜美術館(國領昭子氏寄贈)	
94 《兆》の習作	1996年頃	鉛筆、紙	12.1×9.2	個人蔵	
95 手・手・手 II (3部作「韻」のうち)	1996年	油彩、カンヴァス	162.3×194.3	横浜美術館(國領經郎氏寄贈)	
96 兆(3部作「韻」のうち)	1996年	油彩、カンヴァス	162.1×112.3	横浜美術館(國領經郎氏寄贈)	
97 手・手・手(3部作「韻」のうち)	1993年	油彩、カンヴァス	162.2×194.4	横浜美術館(國領經郎氏寄贈)	
98 《暁色》のためのスケッチ	1985年頃	鉛筆、紙	30.0×40.0	酒田市美術館	
99 暁色 (ぎょうしょく)	1986年	油彩、カンヴァス	145.0×112.5	酒田市美術館(國領昭子氏寄贈)	
100 遙眺 (ようぢょう)	1992年	油彩、カンヴァス	130.3×193.9	鳥取県立博物館(國領昭子氏寄贈)	
101 二つの溜水 (ふたつのたまりみず)	1992年	油彩、カンヴァス	130.3×193.9	鳥取県立博物館(國領昭子氏寄贈)	

## ■ 第三展示室

102 卷貝(仮題)	不詳	鉛筆、紙	23.8×19.0	個人蔵	
103 真暁の対話	1977年	油彩、カンヴァス	116.7×72.7	酒田市美術館(國領昭子氏寄贈)	◎
104 鳥取砂丘	1975年	鉛筆、紙	19.7×31.8	鳥取県立博物館(國領昭子氏寄贈)	
105 浜村(鳥取)	1989年	鉛筆、紙	27.8×37.4	鳥取県立博物館(國領昭子氏寄贈)	
106 枯木の散る砂の丘	1993年	油彩、カンヴァス	130.3×193.9	酒田市美術館(國領昭子氏寄贈)	
107 海風に撫む (うみかぜにたわむ)	1995年	油彩、カンヴァス	128.5×192.7	鳥取県立博物館(國領昭子氏寄贈)	
108 潮溜 (しおだまり)	1996年	油彩、カンヴァス	162.3×194.4	酒田市美術館(國領昭子氏寄贈)	
109 現々の景 (いげんげんのけい)	1996年	油彩、カンヴァス	130.5×194.0	鳥取県立博物館(國領昭子氏寄贈)	
110 砂丘(仮題)	不詳	鉛筆、紙	26.8×36.6	個人蔵	
111 《寥寥》のためのスケッチ	1996年	鉛筆、紙	26.1×38.5	個人蔵	
112 船(仮題)	不詳	鉛筆、紙	19.4×30.5	個人蔵	
113 砂の壁	1979年	油彩、カンヴァス	72.5×116.5	横浜美術館(國領經郎氏寄贈)	

## ■ 第四展示室

第4章 砂の景 II : 人の消えた風景					
114 《寥寥》の習作	1996年頃	鉛筆、紙	36.1×51.0	横浜美術館(國領昭子氏寄贈)	
115 潮溜(仮題)	不詳	鉛筆、紙	28.0×38.2	横浜美術館(國領昭子氏寄贈)	
116 静止の空間	1983年	油彩、カンヴァス	130.3×193.0	横浜美術館	
117 飛行船の浮ぶ港の風景	1993年	油彩、カンヴァス	162.3×194.0	横浜美術館(國領經郎氏寄贈)	
118 悠	1994年	油彩、カンヴァス	162.3×194.4	酒田市美術館	◎
119 悠々	1995年	油彩、カンヴァス	162.1×194.4	鳥取県立博物館(國領昭子氏寄贈)	
120 碧 (へき)	1994年	油彩、カンヴァス	162.0×194.0	鳥取県立博物館(國領昭子氏寄贈)	
121 杜を映す溜水 (もりをうつすたまりみず)	1993年	油彩、カンヴァス	193.9×130.3	鳥取県立博物館(國領昭子氏寄贈)	
122 呼 (こ)	1997年	油彩、カンヴァス	145.5×97.0	酒田市美術館	
123 薄ら陽の砂洲	1998年	油彩、カンヴァス	130.3×193.9	鳥取県立博物館(國領昭子氏寄贈)	
124 海の風景(絶筆)	1999年	油彩、カンヴァス	90.9×116.7	酒田市美術館	



# 酒田市美術館収蔵品展 生誕110年 斎藤長三展

会 期／令和2年5月18日(月)～7月12日(日)  
 主 催／公益財団法人 酒田市美術館  
 担 当／学芸員 武内 治子  
 入場者数／1,005人

## ◎展覧会趣旨

斎藤長三は、1910年に酒田市漆曽根に生まれ、1929年に東京高等工芸学校工芸图案科に入学しました。在学中から1930年協会展や独立美術協会に入選し、卒業後、独立美術研究所にて里見勝蔵や福沢一郎から油彩画を学びました。山村や村落を生涯のテーマとし、描き続けた郷土作家・斎藤長三の生誕110年を記念し、その画業を振り返りました。



『山水曲堤』 1991年

## 酒田市美術館収蔵品展 I

# 生誕110年 斎藤長三展

会期 5月18日(月)～7月12日(日) 会期中休無

時間 9:00～17:00(最終入館は16:30)

観覧料 一般700円、高校生350円、中学生以下無料

公益財団法人  
**酒田市美術館**  
 〒998-0055  
 山形県酒田市飯森山3丁目17-95  
 電話0234(31)0095

山村・村落を描いたふる里の画家

R  
2

## 酒田市美術館収蔵品展 生誕110年 斎藤長三展 作品リスト

No	作品名	作者	制作年	サイズ、号数等	材質等
<b>■ エントランス</b>					
1	白い道	斎藤 長三	1964	60.6×72.6	油彩・キャンバス
<b>■ 企画展示室</b>					
2	山ふとごろ	斎藤 長三	1942	100×80.3	油彩・キャンバス
3	冬景色	斎藤 長三	1942	145.5×111.8	油彩・キャンバス
4	秋・収穫	斎藤 長三	1944	89.4×145.5	油彩・キャンバス
5	秋・野の食事	斎藤 長三	1944	89.4×145.5	油彩・キャンバス
6	酒田港口	斎藤 長三	1951	100×72.7	油彩・キャンバス
7	千倉港	斎藤 長三	1953	89.4×145.5	油彩・キャンバス
8	国電池袋駅	斎藤 長三	1953	89.4×145.5	油彩・キャンバス
9	鼠ヶ関	斎藤 長三	1954	89.4×145.5	油彩・キャンバス
10	伊豆稻取港	斎藤 長三	1955	89.4×145.5	油彩・キャンバス
11	山村(赤)	斎藤 長三	1960	100×80.3	油彩・キャンバス
12	山畠	斎藤 長三	1961	130.3×98	油彩・キャンバス
13	山村(茶)	斎藤 長三	1961	130.3×98	油彩・キャンバス
<b>■ 展示ホール</b>					
14	最上川	斎藤 長三	1974	80.3×130.3	油彩・キャンバス
15	河沿いの山村	斎藤 長三	1976	112.4×145.7	油彩・キャンバス
16	果樹園水辺	斎藤 長三	1982	130.5×194.1	油彩・キャンバス
17	芦ヶ窪	斎藤 長三	1984	130.5×194.1	油彩・キャンバス
18	北信濃Y村	斎藤 長三	1981	130.3×97	油彩・キャンバス
19	丘の上の林檎 (紅玉)	斎藤 長三	1978	91×91	油彩・キャンバス
20	桃の丘(桃園)	斎藤 長三	1984	112×145.5	油彩・キャンバス
<b>■ 常設I展示室</b>					
21	桃花	斎藤 長三	1988	102.5×151	油彩・キャンバス
22	山寺	斎藤 長三	1986	194×162	油彩・キャンバス

No	作品名	作者	制作年	サイズ、号数等	材質等
23	丘陵秋色	斎藤 長三	1991	194×130.3	油彩・キャンバス
24	山水曲堤	斎藤 長三	1990	94×145.5	油彩・キャンバス
25	白糸の滝	斎藤 長三	1989	145.5×89.4	油彩・キャンバス
26	浅春の瀧	斎藤 長三	1990	129.2×129	油彩・キャンバス
27	麓の林	斎藤 長三	1992	103×130	油彩・キャンバス
<b>■ 廊下(彫刻)</b>					
28	渚にて	高橋 剛	1964頃	半等身	ブロンズ
29	踊り子	高橋 剛	1980頃	等身	ブロンズ
30	裸婦立像	高橋 剛	1966	半等身	ブロンズ
31	静なるブリマ	高橋 剛	-	半等身	ブロンズ
32	稽古場の踊り子	高橋 剛	1985	半等身	ブロンズ
33	くつろぎ	高橋 剛	1977頃	半等身	ブロンズ
34	浴	高橋 剛	1977	半等身	ブロンズ
35	鳩を抱く	高橋 剛	1968頃	半等身	ブロンズ
36	二十の女	高橋 剛	1973	小品	ブロンズ
37	スカーフの女	高橋 剛	1980	小品	ブロンズ
<b>■ 常設II展示室(新田嘉一コレクション)</b>					
38	黒川能(知盛)	森田 茂	1995	100	油彩・キャンバス
39	花	福沢 一郎	-	6	油彩・板
40	山形の春	大内田茂士	-	8	油彩・キャンバス
41	春のよろこび	元宿 仁	-	F20	油彩・キャンバス
42	マドモアゼル秋の女	鶴岡 義雄	-	F20	油彩・キャンバス
43	鳥海 五月	小林 功	2017	100	油彩・キャンバス
44	黒川能(猩々)	森田 茂	1984	100	油彩・キャンバス
45	黒川能(石橋)	森田 茂	1993	100	油彩・キャンバス
46	松林富士	森田 茂	1996	100	油彩・キャンバス
47	城	森田 茂	1989	100	油彩・キャンバス
48	バンコックの寺院と僧	森田 茂	-	80	油彩・キャンバス
49	上高地の山々	森田 茂	-	60	油彩・

# 高砂淳二 写真展 —Dear Earth—

会 期／令和2年7月18日(土)～8月30日(日)  
主 催／公益財団法人 酒田市美術館  
共 催／酒田市・酒田市教育委員会  
協 力／高砂写真事務所  
企画協力／M&M Color  
担 当／学芸員 武内 治子  
入場者数／5,191人

## ◎展覧会趣旨

海の中から生き物、風景まで、地球全体をフィールドに、自然全体の繋がりや人とのかかわり合いなどをテーマに撮影活動を行い、「ナイトレインボー」を世界で初めて写真集としてまとめた自然写真家、高砂淳二。

ハワイ先住民の智慧を学び、自然写真とともに、自然全体の繋がりや、人と自然との関係、人間の役割などを、さまざまなメディアを通して伝え続けています。

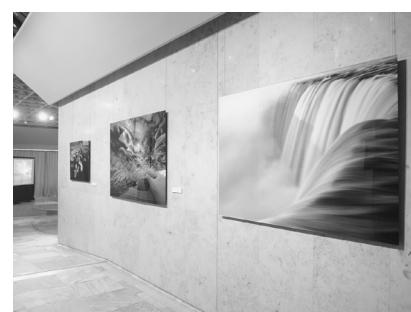
地球各地で撮り下ろした 虹、海、山、空、滝、波、動物、植物、星々など、あらゆる地球自然界の魅力を写した、自然写真界の第一人者、高砂淳二の作品を約80点で紹介しました。

## ◎関連企画

酒田市美術館YouTubeチャンネル  
「作品解説動画」全3回

- ① 作品解説01 視聴回数 407回(3)
  - ② 作品解説02 視聴回数 270回(3)
  - ③ 作品解説03 視聴回数 276回(9)
- 合計 953回(15)  
※( )内は高評価

出演者 高砂淳二氏(自然写真家)



# 二つの東海道五拾三次 歌川広重展

会 期／令和2年9月5日(土)～10月18日(日)  
主 催／公益財団法人 酒田市美術館  
共 催／酒田市・酒田市教育委員会  
協 力／公益財団法人日動美術財団、日本美術商事株式会社  
担 当／学芸主幹 热海 热  
入場者数／4,432人

## ◎展覧会趣旨

江戸時代、幕府の街道整備によって江戸の日本橋から京都の三条大橋まで東海道が開かれ、往来盛んな大動脈が誕生しました。そうした状況の中で東海道の様子を紹介した「東海道名所図会」などの名所絵や旅案内などの出版が相繼ぐとともに、十返舎一九の「東海道中膝栗毛」が江戸の世に大流行し、空前の旅ブームを生み出しました。

歌川広重（1797-1858）は浮世絵でその旅の様子を大胆かつ克明に描き出し、「東海道五拾三次」を刊行。江戸っ子の憧憬をかきたて、大ヒットを記録しました。

その後も広重は幾度となく東海道を題材として描きましたが、「保永堂版」「丸清版」は、16年ほどの期間をおいて描かれたシリーズです。同じ宿場町を描いていても、構図や色数、登場人物が異なり、出版元の個性や時代の雰囲気が色濃く反映されています。本展では、「東海道五拾三次」の保永堂版と丸清版計110点を同時に展示し、2つの異なる構図で表現された東海道をめぐりました。また、大正時代に撮影された宿場町の様子も併せて紹介しました。

## ◎関連企画

### 学芸員による臨時ギャラリートーク

日時 9月19日(土) 午後2時  
9月20日(日) 午前11時、午後2時  
9月21日(月・祝) 午前11時  
9月22日(火・祝) 午前11時、午後2時  
9月26日(土)、29日(火) 午後2時

会場 展示室

講師 当館学芸員



R2



## 歌川広重 二つの東海道五拾三次 保永堂版×丸清版 作品リスト

歌川広重	保永堂版		丸清版		技法
1	日本橋「朝之景」	Nihonbashi	日本橋	Nihonbashi	木版多色刷・紙
2	品川「日之出」	Shinagawa	品川	Shinagawa	木版多色刷・紙
3	川崎「六郷渡舟」	Kawasaki	川崎	Kawasaki	木版多色刷・紙
4	神奈川「臺之景」	Kanagawa	加奈川	Kanagawa	木版多色刷・紙
5	保土ヶ谷「新町橋」	Hodogaya	程ヶ谷	Hodogaya	木版多色刷・紙
6	戸塚「元町別道」	Totsuka	戸塚	Totsuka	木版多色刷・紙
7	藤澤「遊行寺」	Fujisawa	藤澤	Fujisawa	木版多色刷・紙
8	平塚「繩手道」	Hiratsuka	平塚	Hiratsuka	木版多色刷・紙
9	大磯「虎ヶ雨」	Ōiso	大磯	Ōiso	木版多色刷・紙
10	小田原「酒匂川」	Odawara	小田原	Odawara	木版多色刷・紙
11	箱根「湖水図」	Hakone	箱根	Hakone	木版多色刷・紙
12	三島「朝霧」	Mishima	三嶋	Mishima	木版多色刷・紙
13	沼津「黄昏図」	Numazu	沼津	Numazu	木版多色刷・紙
14	原「朝之富士」	Hara	原	Hara	木版多色刷・紙
15	吉原「左富士」	Yoshiwara	吉原	Yoshiwara	木版多色刷・紙
16	蒲原「夜之雪」	Kambara	蒲原	Kambara	木版多色刷・紙
17	由井「薩摩嶺」	Yui	由井	Yui	木版多色刷・紙
18	奥津「興津川」	Okitsu	興津	Okitsu	木版多色刷・紙
19	江尻「三保遠望」	Ejiri	江尻	Ejiri	木版多色刷・紙
20	府中「安部川」	Fuchū	府中	Fuchū	木版多色刷・紙
21	鞠子「名物茶店」	Mariko	鞠子	Mariko	木版多色刷・紙
22	岡部「宇津之山」	Okabe	岡部	Okabe	木版多色刷・紙
23	藤枝「人馬継立」	Fujieda	藤枝	Fujieda	木版多色刷・紙
24	島田「大井川駿岸」	Shimada	島田	Shimada	木版多色刷・紙
25	金谷「大井川遠岸」	Kanaya	金谷	Kanaya	木版多色刷・紙
26	日坂「佐夜ノ中山」	Nissaka	日坂	Nissaka	木版多色刷・紙
27	掛川「秋葉山遠望」	Kakegawa	懸川	Kakegawa	木版多色刷・紙
28	袋井「出茶屋ノ図」	Fukuroi	袋井	Fukuroi	木版多色刷・紙
29	見附「天龍川図」	Mitsuke	見附	Mitsuke	木版多色刷・紙
30	浜松「冬枯ノ図」	Hamamatsu	はま冬	Hamamatsu	木版多色刷・紙
31	舞坂「今切真景」	Maisaka	舞坂	Maisaka	木版多色刷・紙
32	荒井「渡舟ノ図」	Arai	荒井	Arai	木版多色刷・紙
33	白須賀「汐見阪図」	Shirasuka	白須賀	Shirasuka	木版多色刷・紙
34	二川「猿ヶ馬場」	Futagawa	二川	Futagawa	木版多色刷・紙
35	吉田「豊川橋」	Yoshida	吉田	Yoshida	木版多色刷・紙
36	御油「旅人留女」	Goyu	御油	Goyu	木版多色刷・紙
37	赤坂「旅舍招婦ノ図」	Akasaka	赤坂	Akasaka	木版多色刷・紙
38	藤川「棒鼻ノ図」	Fujikawa	藤川	Fujikawa	木版多色刷・紙
39	岡崎「矢矧之橋」	Okazaki	岡崎	Okazaki	木版多色刷・紙
40	池鯉鮒「首夏馬市」	Chiryu	池鯉鮒	Chiryu	木版多色刷・紙
41	鳴海「名物有松綾」	Narumi	鳴海	Narumi	木版多色刷・紙
42	宮「熱田神事」	Miya	宮	Miya	木版多色刷・紙
43	桑名「七里渡口」	Kuwana	桑名	Kuwana	木版多色刷・紙
44	四日市「三重川」	Yokkaichi	四日市	Yokkaichi	木版多色刷・紙
45	石薬師「石薬師寺」	Ishiyakushi	石薬師	Ishiyakushi	木版多色刷・紙
46	庄野「白雨」	Shōno	庄野	Shōno	木版多色刷・紙
47	龜山「雪晴」	Kameyama	龜山	Kameyama	木版多色刷・紙
48	関「本陣早立」	Seki	関	Seki	木版多色刷・紙
49	阪之下「筆捨嶺」	Sakanoshita	坂の下	Sakanoshita	木版多色刷・紙
50	土山「春之雨」	Tsuchiyama	土山	Tsuchiyama	木版多色刷・紙
51	水口「名物干瓢」	Minakuchi	水口	Minakuchi	木版多色刷・紙
52	石部「日川ノ里」	Ishibe	石部	Ishibe	木版多色刷・紙
53	草津「名物立場」	Kusatsu	草津	Kusatsu	木版多色刷・紙
54	大津「走井茶店」	Ōtsu	大津	Ōtsu	木版多色刷・紙
55	京師「三条大橋」	Keishi	京	Kyo	木版多色刷・紙

# オードリー・ヘプバーン写真展

会 期／令和2年11月28日(土)～令和3年1月22日(金)  
主 催／公益財団法人 酒田市美術館  
共 催／酒田市、酒田市教育委員会  
協 力／mptv images  
企画制作／クレヴィス  
担 当／学芸主幹 热海 热  
入場者数／4,378人

## ◎展覧会趣旨

オードリー・ヘプバーン (1929-1993) は1953年、「ローマの休日」で銀幕デビューし、アカデミー主演女優賞を獲得しました。その後「ティファニーで朝食を」、「マイ・フェア・レディ」などで、絶大な人気と女優としての確固たる地位を得ました。その活躍は映画のみならず、同時代のファッションアイコンとしても注目を集めました。

オードリーが亡くなったのは1993年、すでに四半世紀を経ましたが、今なおその姿は人々の記憶に焼き付けられ、その妖精のような美貌は輝きを失っていません。本展では、「ファッション」、「映画」、「プライベート」をテーマとした3部構成で展覧いたします。紹介する写真作品は、カリフォルニアのmptv社の全面的な協力を得て、同社が所蔵するオードリーのフォトコレクションから、約150点を厳選しました。

## ◎関連企画 新型コロナウイルス感染防止対策により関連イベントなし



# いわさきちひろ ピエゾグラフ展

会 期／令和3年1月30日(土)～3月14日(日)  
主 催／公益財団法人 酒田市美術館、ちひろ美術館  
共 催／酒田市、酒田市教育委員会  
担 当／学芸員 武内 治子  
入場者数／5,002人

## ◎展覧会趣旨

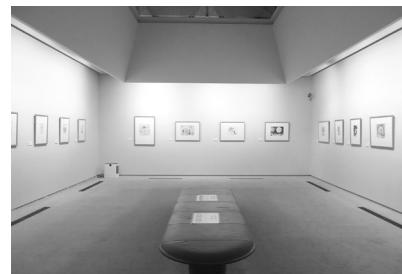
大正から昭和にかけての激動の時代を生きたちひろは、戦後、絵本や絵雑誌、教科書などの印刷美術の世界で活躍しました。

「母性の画家」とも呼ばれたちひろは、母親ならではの觀察力と、卓越したデッサン力を駆使し、モデルなしで10ヶ月と1歳のあかちゃんを描き分けたといいます。魅力あふれる子どもの姿を描いたちひろの作品は、没後46年を経た今でも、多くの人々の心のなかに生き、愛され続けています。

本展では、ちひろの代表作の他、絵本『おにたのぼうし』や『おやゆび姫』『戦火のなかの子どもたち』など、精巧な画像表現により再現された「ピエゾグラフ」約100点を展示し、ちひろの画業の全貌を紹介しました。

## ◎関連企画

新型コロナウイルス感染防止対策により関連イベントなし



# いわさきちひろ ピエゾグラフ展 作品リスト

No.	タイトル	制作年 (原画)	制作年 (ピエゾグラフ)	初出	出版社
<b>■ エントランス</b>					
1	小犬と雨の日の子どもたち	1967年	2016年	「こどものせかい」 1967年7月号	至光社
2	チューリップのなかのあかちゃん	1971年	2006年		
3	母の日	1972年	2004年	「こどものせかい」 1972年5月号	至光社
<b>■ 第一展示室</b>					
<b>絵本の仕事</b>					
4	顔を洗う男の子	1956年	2008年	『ひとりで できるよ』	福音館書店
5	そうじをするぼくとおねえさん	1956年	2008年		
6	大きな時計をくる子どもたち	1956年	2012年	『みんなで しようよ』	福音館書店
7	楽器を鳴らす子どもたち	1957年	2004年		
8	龍に乗る男の子	1965年	2008年		
9	木の下で眠る男の子	1965年	2014年	『りゅうのめの なみだ』	偕成社
10	山道を行く男の子	1965年	2007年		
11	涙を流すりゅうと男の子	1965年	2007年		
12	麦わら帽子をかぶったおにた	1969年	2010年		
13	洗面器を持つ女の子	1969年	2012年	『おにたの ぼうし』	ポプラ社
14	戸口に立つおにた	1969年	2012年		
15	赤飯を差し出したおにたと少女	1969年	2010年		
16	インドの少女	1966年	2008年		
17	玉座で死んだ少年	1966年	2007年	『絵のない 絵本』	童心社
18	墓地に腰をおろす道化	1966年	2015年		
19	ベットでお祈りする女の子とおあさん	1966年	2015年		
20	花のなかから生まれたおやゆび姫	1966年	2009年		
21	花びらの舟に乗るおやゆび姫	1966年	2007年	『世界名作絵本 全集14 おやゆび姫』	ひかりのくに 昭和出版/ 改訂版:講談社
22	もぐらがいたひめをひいたおやゆび姫	1966年	2014年		
23	花の国の王子とおやゆび姫	1966年	2009年		
24	王子を想う人魚姫	1967年	2004年		
25	魔女と人魚姫	1967年	2004年	『にんぎよひめ』	偕成社
26	王子の城についた人魚姫	1967年	2014年		
27	花嫁のベールを持つ人魚姫	1967年	2011年		
28	風船を持つ女の子とネコ	1968年	2011年		
29	おもちゃのピアノ	1968年	2010年		
30	くちもとに指をそえた少女	1968年	2004年		
31	あやめ	1968年	2017年	『あめのひの おるすばん』	至光社
32	カーテンにかくれる少女	1968年	2004年		
33	雨がさとさかなの親子	1968年	2010年		
34	窓ガラスに絵をかく少女 (1少女)	1968年	2004年		
35	お母さんに抱きつく子	1968年	2008年		
36	汽車の窓から見る海	1973年	2010年		
37	鏡のなかの少女	1973年	2011年		
38	海の夕焼けと手紙をかく少女	1973年	2004年		
39	海とふたりの子ども	1973年	2004年	『ほちのきた うみ』	至光社
40	小犬を抱く少女	1973年	2007年		
41	海辺を走る少女と小犬	1973年	2004年		
42	うきふくろで泳ぐ少女	1973年	2008年		
<b>平和への祈り</b>					
43	見つめる少女	1967年	2004年		
44	「そのときぼくは」	1967年	2005年	『わたしが ちいさかった ときには』	童心社
45	焼け跡を見つめる少年	1967年	2005年		
46	死んだ子どもを抱く目の見えなくなった母親	1967年	2004年		
47	広島から八里の道を歩いて帰ってきた少女	1967年	2004年		
48	三人姉妹	1972年	2005年		
49	けんかをする姉と弟	1972年	2005年		
50	戦争ごっこ	1972年	2007年	『母さんは おるす』	新日本出版社
51	戦場から帰ってきた母親	1972年	2005年		
52	幼い兄弟を抱くお母さん	1972年	2005年		
53	シクラメンの花のなかの子どもたち	1973年	2004年		
54	焼け跡の姉弟	1973年	2004年		
55	たたずむ少年	1972年	2004年	『戦火のなかの 子どもたち』	岩崎書店
56	炎のなかの母と子	1973年	2004年		
57	戦火のなかの少女	1972年	2004年		
58	雨のなかにすわる少女	1972年	2005年		
59	ねむそうに電話をとる女の子	1970年	2009年	『もしもし おでんわ』	童心社
60	電話をするおひさま	1970年	2012年		
61	電話する女の子	1970年	2009年		

※当時のリストより「画材」欄は削除しています。

No.	タイトル	制作年 (原画)	制作年 (ピエゾグラフ)	初出	出版社
62	電話をするあひる	1970年	2012年		
63	タンボボ電話局	1970年	2012年	『もしもし おでんわ』	童心社
64	おさんぽ	1970年	2009年		
<b>■ 第二展示室</b>					
<b>ちひろの歩み</b>					
65	自画像	1945年 (26歳)	2016年	日記「草穂」	
66	自画像	1946年 9月11日 (27歳)	2016年	スケッチ	
67	屋根裏のアトリエで本を読む自画像	1947年頃 (28歳頃)	2012年	スケッチ	
68	顔をおおう自画像	1947年頃 (28歳頃)	2004年	スケッチ	
69	死神を追いかける母親	1947年頃	2008年	紙芝居「お母さんの 話」(習作)	日本紙芝居 幻灯(株)
70	神戸原より田園風景をのぞむ	1950年頃 (31歳頃)	2009年	スケッチ	
71	信州の父母	1951年 8月1日 (32歳)	2011年	スケッチ	
72	昼寝をする夫 善明	1950年 5月11日 (31歳)	2004年	スケッチ	
73	長男・猛	1951年 7月5日 (31歳)	2004年	スケッチ	
74	「いぬの あかちゃん」	1953年	2012年	「よいこのくに」 1953年9月号	学習研究社
75	「ほおずき きゅつ きゅつ」	1954年	2013年	「よいこのくに」 1954年9月号	学習研究社
76	「ちら ちら こゆき」	1954年	2010年	「よいこのくに」 1958年12月号	学習研究社
77	「あまやどり」	1958年	2006年	「キンダーブック」 フレーベル館 1958年6月号	絵雑誌
78	「ほうそうごっこ」	1958年	2014年	「キンダーブック」 フレーベル館 1958年9月号	絵雑誌
79	「ままごと」	1959年	2011年	「キンダーブック」 フレーベル館 1960年4月号	絵雑誌
80	「ロンドン橋おちる」	1966年	2004年	「あいえおブック 22」	世界文化社
<b>■ 第三展示室</b>					
<b>季節のなかの子どもたち</b>					
81	春の花と子どもたち	1965年頃	2009年		
82	バラにかくれる子ども	1972年	2004年	雑誌「子どものしあわせ」 1972年5月号	草土文化
83	わらびを持つ少女	1972年	2004年	『あかまんとううけ』	童心社
84	蝶と子どもたちの幻想	1970年	2006年	雑誌「子どものしあわせ」 1970年4月号	草土文化
85	チューリップと子ども	1970年頃	2010年	—	—
86	青い花と小鳥と子ども	1972年	2006年	雑誌「子どものしあわせ」 1972年4月号	草土文化
87	黄色い傘の少女	1969年	2004年	雑誌「子どものしあわせ」 1969年6月号	草土文化
88	海を見つめる少女	1973年	2004年	雑誌「子どものしあわせ」 1973年7月号	草土文化
89	青いつば広帽子を持つ少女	1969年	2006年	雑誌「子どものしあわせ」 1969年9月号	草土文化
90	貝がらと赤い帽子の少女	1967年	2006年	カレンダー-1968年版	
91	緑の風のなかの少女	1972年	2004年	絵雑誌「子どものせかい」 1972年2月号	至光社
92	ぶどうを持つ少女	1971年頃	2004年	絵雑誌「子どものせかい」 1973年10月号	至光社
93	十五夜の月(じゅうごやの つき)	1965年	2004年	「あいえおブック 6」	世界文化社
94	「かわいい かくれんぼ」	1965年	2011年	「こどものうた うた うた」	実業之日本社
95	雪のなかを走る子ども	1970年	2004年	雑誌「子どものしあわせ」 1971年1月号	草土文化
96	雪の幻想	1971年	2005年	雑誌「子どものしあわせ」 1972年2月号	草土文化
97	暖炉の前で猫を抱く少女	1971年	2004年	絵雑誌「子どものせかい」 1972年2月号	至光社
98	チューリップとあかちゃん	1971年	2004年	広告	—
99	湯あがりのあかちゃん	1971年	2004年	広告	
100	おつむてんてん	1971年	2004年	「あかちゃんのうた」(習作)	
101	あかちゃん(絶筆)	1974年	2004年	雑誌「子どものしあわせ」 1974年8月号	草土文化

# サカタアートマルシェ 「いいいろいろ展」

会期／令和2年9月15日(火)～9月27日(日)  
 会場／酒田市美術館 市民ギャラリー・中庭、出羽遊心館  
 主催／酒田市文化芸術推進プロジェクト会議・酒田市  
 共催／やまがたアートサポートセンター・ら・ら・ら、酒田市社会福祉協議会  
 協賛企業／東北エプソン株式会社、平田牧場グループ、株式会社荘内銀行、酒田金融  
     協会、加藤総業株式会社、株式会社小松写真印刷、進和ラベル印刷株式  
     会社、株式会社エルテック、国際ソロプロヂミスト酒田、酒田米菓株式会社  
 協力団体／生活介護センターふれあい、NPO法人あらた、障がい者支援施設 光風園、放課後等デイサービス事業所 ならはし、障がい者支援施設 和光園、多機能型事業所 ふれんず、山形県立酒田特別支援学校、酒田東病院 ディケア パレット、医療法人酒田東病院、多機能型事業所 さごし、就労継続支援B型事業所 まさーずはーと、障がい福祉サービス事業所 いっぽ、共同生活事業所 なごみ、共同生活事業所 仲町ホーム、福祉施設 ひょっこり島、酒田市障がい者福祉会、医療法人山容会山容病院  
 協力／株式会社ディスカバー・ジャパン、酒田市美術館  
 助成／一般財団法人地域創造  
 担当／学芸員 武内 治子  
 入場者数／1,714人



## ◎展覧会趣旨

今年で3回目を迎えるアートマルシェのテーマは、コロナ禍ゆえの「祈りと希望」～アートから祈りを～。

一人ひとりのカラフルな個性と可能性を感じていただくことにより、生きることの意味や共生社会を考える機会となりました。酒田市出身の画家 佐藤真生氏の作品、酒田市の障がいのある方から募集した作品、アマビエ公募作品を一つの企画展にしました。

## ◎イベント

### おとでアート! ワークショップ

#### ①光の箱をつくろう ②風の魚であそぼう

日時 9月21日(月・祝) 1回目 午前10時～、2回目 午後2時～  
 会場 酒田市美術館中庭  
 講師 松村泰三氏(東北芸術工科大学准教授)

### 風と光のコンサート

日時 9月21日(月・祝) 1回目 午前11時～11時45分  
     2回目 午後2時15分～3時  
 会場 酒田市美術館中庭  
 出演 山形交響楽団員

### よねさんの紙芝居

日時 1回目 9月21日(月・祝)午後1時～2時  
     2回目 9月22日(火・祝)午前10時～10時30分  
 会場 酒田市美術館中庭(1回目)、出羽遊心館(2回目)  
 出演 米田佐之助氏



# 1. 展覧会事業

(3) 常設展示／令和2(2020)年度

## 《エントランス》

1期 令和2年5月18日～7月12日

【収蔵品展】斎藤長三作品

## 《企画展示室》

1期 令和2年5月18日～7月12日

【収蔵品展】斎藤長三作品

## 《展示ホール》

1期 令和2年5月18日～7月12日

【収蔵品展】斎藤長三作品

## 《常設展示室Ⅰ》

1期 令和2年5月18日～7月12日

【収蔵品展】斎藤長三作品

2期 令和2年7月18日～8月30日

【常設企画展】荒生由美子作品

## 《常設展示室Ⅱ》

1期 令和2年3月7日～7月12日

【新田嘉一コレクション】 森田茂、福沢一郎 他

2期 令和2年7月18日～10月18日

【新田嘉一コレクション】 森田茂、藤田嗣治 他

3期 令和2年11月28日～3月14日

【新田嘉一コレクション】 森田茂、大内田茂士 他

## 《回廊》

1年を通して 令和2年4月1日～

【酒田市所蔵作品】 高橋剛作品



荒生由美子展



高橋剛作品

## 2. 教育普及事業 令和2(2020)年度

### ◇ワークショップ

展覧会名等	日 時	内 容	参加人数
サカタアートマルシェ 「いいいろいろいろいろ展」	9月21日(月・祝) ①午前10時 ②午後2時	『おとでアート!』 講師:松村泰三氏(東北芸術工科大学 准教授) 会場:美術館中庭	27人

### ◇ギャラリートーク

展覧会名等	日 時	内 容	参加人数
二つの東海道五拾三次 歌川広重展	9月19日(土) 午後2時	臨時「ギャラリートーク」 講師:熱海熱(学芸主幹) 会場:美術館内	16人
	9月20日(日) ①午前11時 ②午後2時		56人
	9月21日(月・祝) 午前11時		13人
	9月22日(火・祝) ①午前11時 ②午後2時		31人
	9月26日(土) 午後2時		25人
	9月29日(火) 午後2時		27人

### ◇その他企画

展覧会名等	日 時	内 容	参加人数
サカタアートマルシェ 「いいいろいろいろ展」	9月21日(月・祝) ①午前11時~11時45分 ②午後2時15分~3時	ミュージアムコンサート「風と光のコンサート」 演奏:山形交響楽団員8名 会場:美術館中庭	90人
	9月21日(月・祝) 午後1時~2時	「よねさんの紙芝居」 出演:米田佐之助氏 会場:美術館中庭	53人

### 【「教職員視察ウィーク」の実施】 (期間中の教職員に対する入館料減免とアンケートの記入)

展覧会名等	日 時	内 容	参加人数
二つの東海道五拾三次 歌川広重展	9月12日~9月18日	酒田市内の保育園・幼稚園・小中高等学校・特別支援学校・産業技術短期大学校庄内校・東北公益文科大学に勤務する教職員(臨時職員、講師でも可)の入館料を減免し、アンケートに答えてもらう。	14人
いわさきちひろ ピエゾグラフ展	令和3年1月30日~2月6日 休館日:2月1日		27人



『おとでアート!』ワークショップ完成品



『おとでアート!』ワークショップ風景

### 3. 市民ギャラリー利用状況 令和2(2020)年度

展覧会名	会期	会期日数	入館者数
第28回酒田如月水墨画会展	令和2年9月7日(月)～9月13日(日)	7日	501
サカタアートマルシェ「いいいろいろいろ展」	令和2年9月15日(火)～9月27日(日)	13日	1,714
第5回記念「美の会」現代書展・ジュニア書道展	令和2年10月15日(木)～10月18日(日)	4日	371
やまがた百名山写真展	令和3年2月17日(水)～2月26日(金)	9日	782
山岳写真家 白旗史郎「名峰鳥海山の四季セレクション」&鳥海山・飛島ジオパークの魅力	令和3年3月2日(火)～3月14日(日)	12日	1,964
茂木玲子写真展「魚と街」	令和3年3月27日(土)～3月31日(水)	4日	350
6展示		49日間	5,682人



第28回酒田如月水墨画会展



第28回酒田如月水墨画会展



第5回記念「美の会」  
現代書展・ジュニア書道展



第5回記念「美の会」  
現代書展・ジュニア書道展



やまがた百名山写真展



やまがた百名山写真展



山岳写真家 白旗史郎  
「名峰鳥海山の四季セレクション」&鳥海山・飛島ジオパークの魅力



山岳写真家 白旗史郎  
「名峰鳥海山の四季セレクション」&鳥海山・飛島ジオパークの魅力

## 4. 入館状況 令和2(2020)年度

展覧会名	会期	一般	高校生	小・中学生	会員券・招待 観察等	計 (人)
生誕100年 國領經郎展 —静寂なる砂の景—	令和2年3月7日～4月12日 4月8日より臨時休館	424	34	27	1,184	1,669
酒田市美術館収蔵品展 生誕110年 斎藤長三展	5月18日～7月12日	277	2	6	720	1,005
高砂淳二 写真展—Dear Earth—	7月18日～8月30日	2,739	52	221	2,179	5,191
二つの東海道五拾三次 歌川広重展	9月5日～10月18日	1,827	17	75	2,513	4,432
オードリー・ヘブバーン写真展	11月28日～令和3年1月22日	1,858	43	81	2,396	4,378
いわさきちひろ ピエゾグラフ展	1月30日～3月14日	1,840	37	212	2,913	5,002

「生誕100年 國領經郎展 一静寂なる砂の景—」のみ大学・専門学生は高校生料金で徴収。

### 公益財団法人士門拳記念館・ 公益財団法人酒田市美術館 合併調印式

日時 令和2年8月29日(土)午後2時  
会場 出羽遊心館



合併契約書調印



公益財団法人酒田市美術館理事長 丸山 至



合併契約書調印風景



公益財団法人士門拳記念館理事長 高橋 修

# アンティークドールの夢展 一児玉幸雄コレクション一

会 期／令和3年3月20日(土・祝)～5月16日(日)  
 催／公益財団法人酒田市美術館  
 共 催／酒田市・酒田市教育委員会  
 企画協力／公益財団法人日動美術財団  
 担 当／学芸主幹 热海 热  
 入場者数／2,655人

## ◎展覧会趣旨

本展で紹介するアンティークドールは、19世紀後半から20世紀初頭にかけ、フランスやドイツで制作されたビスクドールと呼ばれる人形です。やわらかな透明感のあるビスク（二度焼きした磁器）でつくられた顔、手彩色ガラスの神秘的な瞳、そして豪華なレースやシルクを使った手縫いの衣装。アンティークドールの黄金時代を築いたジュモーやアーモンド・マルセルをはじめとする名高い人形工房の精緻な技術は、現代においても美術品として高く評価されています。

本展では画家として活躍された児玉幸雄氏が生前に収集したコレクションからおよそ60点を紹介しました。



## ◎関連企画 コロナウイルス感染症対策により関連企画なし



## アンティークドールの夢展 一児玉幸雄コレクション 作品リスト

出品№	工房名	製造国	製造年	特徴 その他	サイズ(高さ)
<b>■ 第1展示室</b>					
1 ジュモー	フランス	1890年代		オープンマウス、ダークグレイアイ	h.52cm
2 ジュモー	フランス	1890年代		クローズドマウス、ブルーアイ、オリジナルボディ	h.44cm
3 ジュモー	フランス	1870年代		キッドボディ、ファッションドール	h.48cm
4 ジュモー	フランス	1890年代		クローズドマウス、オリジナル衣裳	h.48cm
5 ジュモー	フランス	不詳		ブルーアイ、オートマター	h.48cm
6 ジュモー	フランス	不詳		ブラウンアイ、オートマター〔聖書を持つ〕	h.48cm
7 F・ゴーチェ	フランス	1880年代		クローズドマウス、ブルーアイ	h.62cm
8 F・ゴーチェ	フランス	1870年代		クローズドマウス、ブルーアイ、ファッションドール	h.28cm
9 F・ゴーチェ	フランス	不詳		—	h.38cm
10 F・ゴーチェ	フランス	1870年代		キッドボディ、ファッションドール	h.42cm
11 F・ゴーチェ	フランス	1870年代		キッドボディ、ファッションドール	h.44cm
12 F・ゴーチェ	フランス	1870年代		木製ボディ	h.45cm
13 F・ゴーチェ	フランス	1870年代		ビスクハンド	h.47cm
14 F・ゴーチェ	フランス	1870年代		キッドボディ	h.44cm
15 F・ゴーチェ	フランス	不詳		キッドボディ	h.48cm
16 スタイネール	フランス	1880年代		クローズドマウス、ブルーアイ、木製ボディ	h.32cm
17 スタイネール	フランス	不詳		ブルーゴウンタイプ、オープンマウス、オートマター	h.48cm
18 リモージュ	フランス	不詳		オープンマウス、ブラックアイ	h.28cm
19 リモージュ	フランス	1900年代		オープンマウス、ブルーアイ	h.52cm
20 ロメーヌ	フランス	不詳		ブルーアイ、キッドボディ、ファッションドール	h.40cm
21 ロメーヌ	フランス	不詳		ブルーアイ、キッドボディ	h.36cm
22 E・ドナムール	フランス	1890年代		クローズドマウス、ブルーアイ	h.54cm
23 DEP	ドイツ	1900年代		オープンマウス、木製ボディ、スリービングアイ(ブルー)	h.36cm
24 DEP	ドイツ	1900年代		オープンマウス、スリービングアイ(ブルー)	h.64cm
25 DEP	ドイツ	1900年代		オープンマウス、ブルーアイ	h.58cm
26 DEP	ドイツ	1900年代		オープンマウス、ブルウンアイ	h.54cm
27 DEP	ドイツ	1900年代		オープンマウス、スリービングアイ(ブルウン)	h.56cm
28 DEP	ドイツ	1900年代		オープンマウス、スリービングアイ(ブルー)	h.44cm
29 DEP SFBJ	ドイツ	1900年代		オープンマウス、スリービングアイ(ブルー)	h.46cm
30 DEP ハンドヴェルク	ドイツ	1900年代		オープンマウス、スリービングアイ(ブルー)	h.54cm
31 H・ハンドヴェルク K&R	ドイツ	1900年代		オープンマウス、スリービングアイ(ブルウン)	h.38cm
32 H・ハンドヴェルク シモン&ハルビック	ドイツ	1900年代		オープンマウス、スリービングアイ(ブルー)	h.57cm
33 SFBJ	ドイツ	1910年代		オープンマウス、スリービングアイ(ブルー)	h.52cm
34 SFBJ	ドイツ	1900年代		オープンマウス、スリービングアイ(ブルー)	h.48cm
35 SFBJ	ドイツ	1900年代		オープンマウス、スリービングアイ(ブルー)	h.38cm
36 SFBJ	ドイツ	1900年代		オープンマウス、ブルーアイ	h.50cm
37 SH DEP	ドイツ	1900年代		オープンマウス、スリービングアイ(ブルウン)	h.32cm
38 アーモンド・マルセル	ドイツ	1900年代		オープンマウス、クロスボディ、スリービングアイ(ブルー)	h.46cm
39 アーモンド・マルセル	ドイツ	1900年代		オープンマウス、ブルウンアイ、木製ボディ、歩き人形	h.58cm
40 アーモンド・マルセル	ドイツ	1900年代		オープンマウス、スリービングアイ(ブルー)	h.52cm
41 アーモンド・マルセル	ドイツ	1900年代		オープンマウス、スリービングアイ(ブルー)	h.62cm
42 アーモンド・マルセル	ドイツ	1900年代		オープンマウス、スリービングアイ(ブルー)	h.53cm
43 アーモンド・マルセル	ドイツ	1900年代		オープンマウス、スリービングアイ(ブルー)	h.60cm
44 アーモンド・マルセル	ドイツ	1894年		オープンマウス、スリービングアイ(ブルー)	h.48cm
45 アーモンド・マルセル	DEP	ドイツ	1894年	オープンマウス、スリービングアイ(ブルー)	h.40cm
<b>■ 第2展示室</b>					
46 カマー＆ラインハルト	ドイツ	1900年代		オープンマウス、キッドボディ、スリービングアイ(ブルウン)	h.54cm
47 シモン&ハルビック	ドイツ	不詳		オープンマウス、ブルーアイ	h.52cm
48 シモン&ハルビック	ドイツ	1900年代		オープンマウス、スリービングアイ(ブルウン)	h.50cm
49 シモン&ハルビック	ドイツ	1900年代		オープンマウス、スリービングアイ(ブルウン)	h.41cm
50 シモン&ハルビック K&R	ドイツ	1900年代		オープンマウス、スリービングアイ(ブルー)	h.44cm
51 ハルビック K&R	ドイツ	1900年代		オープンマウス、スリービングアイ(ブルー)	h.38cm
52 ハンドヴェルク	ドイツ	1900年代		オープンマウス、スリービングアイ(ブルー)	h.60cm
53 ハンドヴェルク ハルビック	ドイツ	1900年代		オープンマウス、スリービングアイ(ブルウン)	h.32cm
54 ホイバッハ	ドイツ	不詳		オープンマウス、スリービングアイ(ブルウン)	h.63cm
55 不詳	ドイツ	1900年代		オープンマウス、ブルウンアイ	h.50cm
56 不詳	ドイツ	不詳		オープンマウス、ブルウンアイ	h.50cm
57 不詳	ドイツ	1900年代		オープンマウス、ブルーグレーアイ	h.48cm
58 不詳	ドイツ	1900年代		オープンマウス、ブルーアイ、キッドボディ、ビスクハンド	h.52cm
59 不詳	ドイツ	1900年代		オープンマウス、ブルーアイ	h.38cm
<b>■ 第3展示室</b>					
60 不詳	ドイツ	1900年代		オープンマウス、ブルーアイ	h.41cm
61 不詳	ドイツ	1900年代		オープンマウス、ブルーグレーアイ	h.62cm
62 不詳	ドイツ	1900年代		オープンマウス、ブルーアイ	h.34cm
63 不詳	ドイツ	1900年代		オープンマウス、ブルウンアイ	h.48cm
64 不詳	ドイツ	1900年代		オープンマウス、スリービングアイ(ブルー)	h.46cm
65 不詳	ドイツ	1900年代		オープンマウス、ブルウンアイ	h.42cm
66 不詳	ドイツ	1900年代		オープンマウス、スリービングアイ(ブルー)	h.44cm
67 不詳	ドイツ	不詳		オープンマウス、スリービングアイ(ブルウン)	h.34cm
68 不詳	不詳	不詳		オープンマウス、ブルウンアイ	h.68cm
69 不詳	不詳	不詳		オープンマウス、スリービングアイ(ブルウン)	h.41cm
70 不詳	不詳	不詳		紙粘土、キッドボディ	h.55cm
71 不詳	不詳	1900年代		民族衣装	h.40cm
<b>■ 絵画作品(児玉幸雄)</b>					
72 アルルの骨董市	—	1972年		油彩・キャンバス	162.0×130.3cm
73 パリの朝市	—	不詳		油彩・キャンバス 新田嘉一コレクション	22.2×27.4cm
74 ファッショングル人形	—	不詳		油彩・キャンバス 新田嘉一コレクション	53.3×45.5cm
75 パリ風景	—	不詳		油彩・キャンバス 新田嘉一コレクション	40.9×31.8cm

※SFBJ(フランス玩具人形製造協会 1899~1930)

# 酒田市美術館・土門拳記念館共同企画 今森光彦「自然と暮らす切り紙の世界」展

会 期／令和3年5月22日(土)～7月9日(金)  
主 催／酒田市美術館・土門拳記念館  
共 催／酒田市・酒田市教育委員会  
協 力／有限会社オーレリアンガーデン  
企画協力／クレヴィス  
担 当／学芸主任 武内 治子  
入場者数／4,061人

## ◎展覽會趣旨

幼い頃から“生きもの少年”として昆虫採集や魚釣りに熱中し、現在も、里山で田んぼや雑木林の手入れをしながら暮らす今森光彦さん。

人と自然が見事に共生する「里山」をテーマに独自の取材を続けており、2009年には第28回土門拳賞を受賞するなど、酒田市に所縁ある写真家です。また、今森さんは、蝶や鳥、植物をモチーフに、精緻で生き生きとした作品をつくる切り絵作家としても知られています。深い洞察力により、たった一本のはさみから生み出される作品には、植物の鮮やかさや昆虫の力強さが表現されています。

本展覧会は、酒田市美術館と土門拳記念館の共同企画展です。

酒田市美術館では、蝶々やカブトムシなどの昆虫をはじめ、今森さんの里山に棲む様々な生き物たちや植物、世界中を旅して出会った動物たちのシリーズなど、魅力あふれる切り紙の世界を紹介しました。

土門拳記念館では、四季折々のオーレリアンの庭の写真を中心に、今森さんの里山での暮らしの様子を紹介しました。また、第28回土門拳賞受賞作品『昆虫4億年の旅』のなかから、《メダマカレハカマキリ》や《ハラビロカマキリ》などの昆虫写真と、立体切り紙作品を同時展示しました。

### ◎関連企画

今森光彦 切り紙ワークショップ

日時 5月22日(土) 午前11時、午後2時

会場 市民ギャラリー

講師 今森光彦氏(写真家・切り絵作家)



## 今森光彦「自然と暮らす切り紙の世界」展 作品リスト

No	作品名	制作年代	材質	サイズ(cm)
<b>■ エントランス</b>				
1	今森光彦ポートレート	2011年	ラシャ紙	23×31
2	オナガタイマイ	2014年	ラシャ紙	49×64
3	タテハモドキ	2014年	ラシャ紙	49×64
4	ツマベニチョウ	2014年	ラシャ紙	49×64
5	モルフォチョウ	2014年	ラシャ紙	49×64
6	シジュウカラとカエデ	2009年	ラシャ紙	38×56
7	オニギモ	2011年	ラシャ紙	50×69
8	タシギとイグサ	2012年	ラシャ紙	53×68
9	アフリカカサリヘビ	2012年	ラシャ紙	52×76
10	メンブクロウとキマイラ	2013年	ラシャ紙	52×76

### ■ 第一展示室

11	オーレリアンの庭	2013年	ラシャ紙	56×75
12	コメント／キアゲハは、花が大好きだ。	-	写真	20×30
13	コメント／土手のノアザミを生けてみた。	-	写真	20×30
14	コメント／あちこちに新置き場がある。	-	写真	20×30
15	コメント／モナタは、収穫して干しておくととてもいい香りがする。	-	写真	20×30
16	コメント／セイヨウニシジンボクに巣をつくったモモ	-	写真	30×20
17	コメント／手作りのビザは、いつもマルゲリータ。	-	写真	20×30
18	コメント／窯は、ビザはじめ、いろいろなものに使う。	-	写真	20×30
19	コメント／9月になるとイネの穂がたれて、美しい風景をつくる。	-	写真	20×30
20	コメント／アトリエの雑木林で、アトリエの雑木林で、野鳥を観察する。	-	写真	20×30
21	コメント／土手には、カキの枯木があり、たわわに実る。	-	写真	20×30
22	コメント／雑木林の周辺には、センマイやワラビが顔を出す。	-	写真	20×30
23	コメント／窯に薪をいれる	-	写真	20×30
24	コメント／アトリエの雑木林で、野鳥を観察する。	-	写真	20×30
25	コメント／26年間、冬になると大活躍している薪ストーブ。	-	写真	30×20
26	カザリハチドリ	2011年	ラシャ紙	33×44
27	飛ぶカザリハチドリ	2011年	ラシャ紙	33×44
28	ラケットハチドリ	2011年	ラシャ紙	33×44
29	カケスとクロウメモドキ	2011年	ソリドグラフ	52×79
30	ワシミニミズクとヒマラヤスギ	2013年	ラシャ紙	54×71
31	ワシミニミズクとオークツリー	2013年	ソリドグラフ	54×83
32	走るワシミニミズク	2013年	ラシャ紙	56×78
33	オナガガモ	2012年	ソリドグラフ	52×85
34	杭にとまるコガモ	2013年	ソリドグラフ	68×102
35	ツクシ	2009年	ラシャ紙	14×18
36	ワラビ	2008年	ラシャ紙	14×18
37	戦国甲	2011年	ラシャ紙	14×22
38	鳴くアマガエル	2008年	ラシャ紙	14×23
39	アマガエル	2008年	ラシャ紙	13×25
40	カタツムリ	2009年	ラシャ紙	15×10
41	ケーキ	2009年	ラシャ紙	15×17
42	スミレ	2008年	ラシャ紙	15×17
43	コスモス	2009年	ラシャ紙	22×24
44	アサガオ	2009年	ラシャ紙	22×31
45	アジサイ	2008年	ラシャ紙	22×31
46	クリスマス	2009年	ラシャ紙	22×31
47	サクラ	2008年	ラシャ紙	23×33
48	ウメ	2010年	ラシャ紙	24×26
49	チューリップ	2011年	ラシャ紙	24×32
50	イチョウ	2011年	ラシャ紙	26×26
51	雪の結晶	2007年	ラシャ紙	58×74
52	乱舞するゲンジボタル	2007年	ラシャ紙	27×36
53	ヒマワリ	2009年	ラシャ紙	28×35
54	ひなまつり	2011年	ラシャ紙	29×45
55	ヨナグニサン	2012年	ラシャ紙	35×45
56	オオムラサキ	2011年	ラシャ紙	33×44
57	カギバアオシアク	2012年	ラシャ紙	33×44
58	キネヤガ	2013年	ラシャ紙	33×44
59	クマバチ	2012年	ラシャ紙	33×44
60	クロシタアオイラガ	2012年	ラシャ紙	33×44
61	ドクガ	2013年	ラシャ紙	33×44
62	トモエガ	2013年	ラシャ紙	33×44
63	トリバガ	2013年	ラシャ紙	33×44
64	ヒトリガ	2014年	ラシャ紙	33×44
65	アカオビズメ	2011年	ラシャ紙	33×44
66	ホタルガ	2012年	ラシャ紙	33×44
67	マダラモドキガ	2012年	ラシャ紙	33×44
68	メキシコフクロウチョウ表	2013年	ラシャ紙	33×44
69	メキシコフクロウチョウ裏	2013年	ラシャ紙	33×44
70	メスシリコキチョウ・オス	2011年	ラシャ紙	33×44
71	メスシリコキチョウ・メス	2011年	ラシャ紙	33×44

No	作品名	制作年代	材質	サイズ(cm)
72	オオクジャクヤママユ	2014年	ラシャ紙	33×44
73	どうぶつ島たんけんタイトル	2012年	ラシャ紙	19×29
74	どうぶつ島と船	2012年	ラシャ紙	40×53
75	シロナガスクジラ	2012年	ラシャ紙	31×43
76	どうぶつ島上陸	2012年	ラシャ紙	34×43
77	すべるツキノワグマ	2010年	ラシャ紙	26×38
78	ヤマアラシとバッタ	2011年	ラシャ紙	26×38
79	刺の森のライオン	2012年	ラシャ紙	29×41
80	戦うカンガルー	2012年	ラシャ紙	30×44
81	水を飲むキリン	2011年	ラシャ紙	26×41
82	カメレオン	2012年	ラシャ紙	27×32
83	ヤクの群れ	2013年	ラシャ紙	37×49
84	ペンギン	2011年	ラシャ紙	39×48
85	レッサーバンダ	2010年	ラシャ紙	19×24
86	ヤク	2011年	ラシャ紙	19×24
87	ホロホロチョウ	2012年	ラシャ紙	19×24
88	ハリネズミ	2011年	ラシャ紙	19×24
89	ジャガー	2010年	ラシャ紙	19×24
90	サイ	2011年	ラシャ紙	19×24
91	メガネザル	2012年	ラシャ紙	19×24
92	アフリカゾウ	2011年	ラシャ紙	19×24
93	コマフアザラシ	2010年	ラシャ紙	19×24
94	カモノハシ	2011年	ラシャ紙	19×24
95	イグアナ	2010年	ラシャ紙	19×24
96	アルマジロ	2012年	ラシャ紙	19×24
97	バク	2012年	ラシャ紙	19×24
98	カバ	2012年	ラシャ紙	19×24
99	シマリス	2011年	ラシャ紙	19×24
100	ミーアキャット	2010年	ラシャ紙	19×24
101	どうぶつ島パレード	2012年	ラシャ紙	44×54

### ■ 第二展示室

102	キマダラセセリとヒマワリ	2012年	ソリドグラフ	74×100
103	アレキサンドラトリバナアゲハとハイビスカス	2013年	ソリドグラフ	61×92
104	カワセミとヤマザクラ	2012年	ソリドグラフ	61×92
105	ウラモジタテハとカカオ	2012年	ソリドグラフ	63×98
106	ヤシオウムとユカリ	2011年	ソリドグラフ	66×90
107	コノハズクとニシキギ	2013年	ソリドグラフ	64×94
108	ハチドリとトケイソウ	2013年	ソリドグラフ	66×95
109	トビトカゲとバナナ	2014年	ソリドグラフ	71×103
110	アカカザリハチ	2013年	ソリドグラフ	62×92
111	ピクトリアトリバナアゲハとブルメリア	2014年	ソリドグラフ	63×98
112	ウソとコブシ	2014年	ソリドグラフ	96×108
113	トンボマダラとバイナップル	2013年	ソリドグラフ	76×104
114	オニオオハシ	2014年	ソリドグラフ	77×106
115	パンサーカメレオンとバキボディウム	2012年	ラシャ紙	71×93

### ■ 第三展示室

116	ニシキキンカメムシ	2014年	ラシャ紙	長辺12.7
117	ルリボシカミキリ	2014年	ラシャ紙	長辺25.3
118	タマムシ	2014年	ラシャ紙	長辺14
119	モンキチョウ オスとメス	2014年	ラシャ紙	長辺12
120	アカバナビハゴロモ	2014年	ラシャ紙	長辺19.8
121	アベキノハ	2014年	ラシャ紙	長辺25.4
122	アサギマダラ	2014年	ラシャ紙	長辺16
123	オオムラサキ	2014年	ラシャ紙	長辺19
124	オオミズアオ	2014年	ラシャ紙	長辺18
125	オニヤンマ	2014年	ラシャ紙	長辺18.2
126	ギンヤンマ	2014年	ラシャ紙	長辺15.4
127	キリギリス	2014年	ラシャ紙	長辺12.5
128	クルマバッタ	2014年	ラシャ紙	長辺16.5
129	タガメ	2014年	ラシャ紙	長辺19
130	ゲンゴロウ	2014年	ラシャ紙	長辺10.6
131	ミンミンゼミ	2014年	ラシャ紙	長辺14.5
132	カブトムシ	2014年	ラシャ紙	長辺15
133	ニジイロクワガタ	2014年	ラシャ紙	長辺18.7
134	ヨーロッパミヤマクワガタ	2014年	ラシャ紙	長辺18.7
135	オオキバウスバカミキリ	2014年	ラシャ紙	長辺22.5
136	コライアスオオツノハナムグリ	2014年	ラシャ紙	長辺26
137	オウゴンオニクワガタ	2014年	ラシャ紙	長辺13.5
138	アフリカメダマカマキリ	2014年	ラシャ紙	長辺12
139	ナナホシテントウ	2014年	ラシャ紙	長辺13.4
140	オトリシブミ	2014年	ラシャ紙	長辺12.8
141	ゴマダラオトリシブミ	2014年	ラシャ紙	長辺12.4
142	ハンミョウ	2014年	ラシャ紙	長辺15.6
143	ヒグメツキ	2014年	ラシャ紙	長辺19.7

ソリドグラフとは…今森光彦氏の切り紙作品を超高精細立体スキャナーによって、忠実に再現した複製原画のことです。23億画素からなる超高解像により、オリジナルの質感と立体感をそのまま表現しました。

# つくる展 —TASKOファクトリーのひらめきをかたちに—

会期／令和3年7月17日(土)～8月29日(日)  
主催／公益財団法人さかた文化財団 酒田市美術館、山形新聞・山形放送  
共催／酒田市・酒田市教育委員会  
協力／大人の科学、株式会社学研プラス  
企画制作／東映株式会社  
企画協力／株式会社TASKO  
担当／学芸主任 武内 治子  
入場者数／13,206人

## ◎展覧会趣旨

世界一、世界最強とも言われている日本のものづくりを、さらに元気にしているアートファクトリー「TASKO」。

彼らのユニークな発想力と優れた技術力は、これまで様々な企業やアーティスト、デザイナーとのアイデアをカタチに、幅広い分野で多くの作品を手がけてきました。

本展覧会では、現代アートとして見応え充分でありながら、ものづくりにおける「つくる」にスポットをあて、TASKOがこれまでに制作してきた作品に加えて、新たにオリジナルで制作したものなどを展示し、多様な視点でのものづくりの魅力を紹介しました。

TASKOの作品を通して、使われている部品、しくみやしかけ、「ひらめきをかたちに」えた背景、エピソードから感じるものづくりの不思議、おもしろさ、楽しさに興味関心を持つことで、想像力、発想力が刺激され、きっとワクワクしていたはずです。

「つくる」ってどういうことなのかを理解し、「どうつくる？」を考え、「つくりたくなる！」きっかけを見つける展覧会でした。

## ◎関連企画

### TASKOワークショップ「テンセグリティをつくろう！」

日時 8月7日(土) 午前10時～11時、午後2時～3時

※コロナウイルス感染防止対策により中止

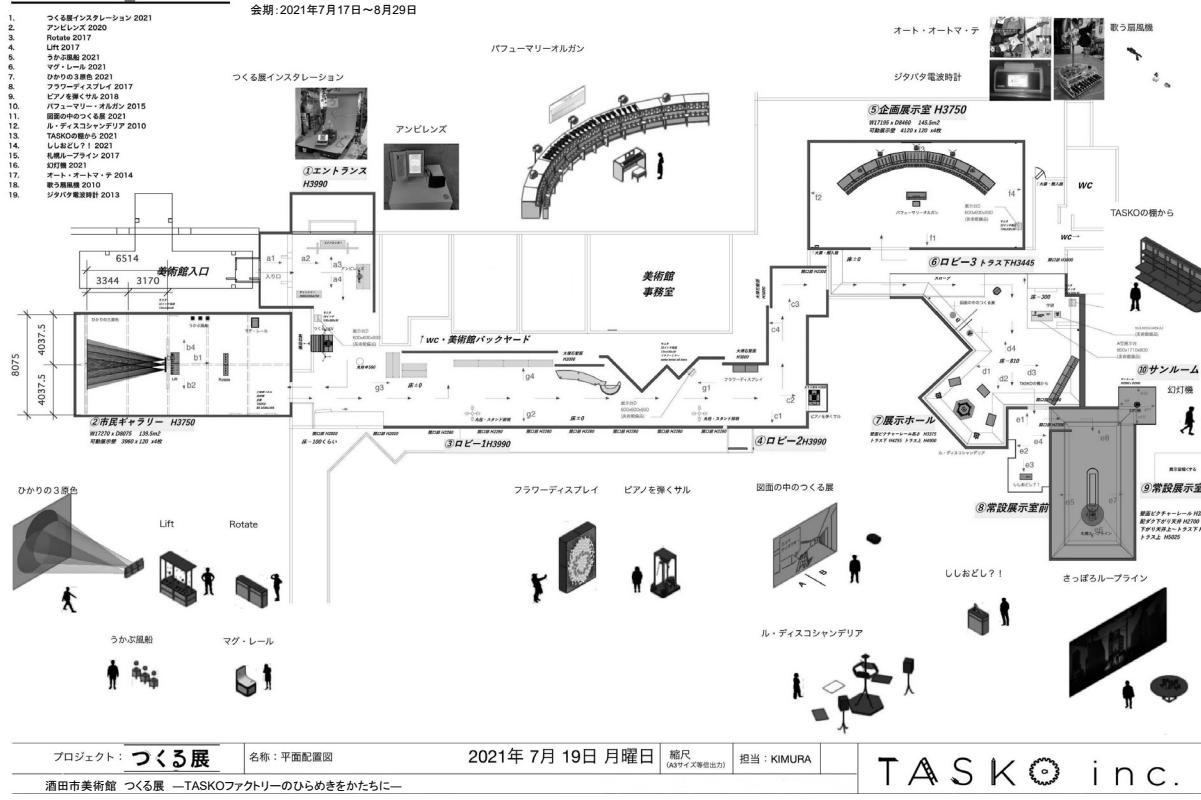


来場者数1万人記念セレモニー

# つくる展

酒田市美術館 つくる展 —TAKOファクトリーのひらめきをかたちに—

会期: 2021年7月17日～8月29日



プロジェクト: つくる展

名称: 平面配置図

2021年 7月 19日 月曜日

縮尺

(A3サイズ等)

担当: KIMURA

TAKO inc.

## ●主要作品紹介

### 1. つくる展インスタレーション

TASKOのものづくりの基本は、まず設計を行い、次にそれを立体にします。そこに機械を加えて最後にデジタルの力でその動きを制御します。このインスタレーションは、こうした4つの要素を用いて展覧会を表現した立体ロゴです。

### 2. アンビレンズ

室内の二酸化炭素濃度をセンサーで測り、感染症予防対策のための換気が必要かどうかを泡のようなグラフィックで表現する、シンプルで直感的な表示器です。

### 3. ROTATAE

回転というシンプルな動きでも、制御によって回転方向や速さ、停止のタイミングなどバリエーションを出すことができます。これらを組み合わせることでオブジェクトに様々な表情を生み出します。

### 4. LIFT

宙吊りになったオブジェクトは、モーター制御によって上下に動かすことができます。制御によって出来る緩急のある動きや、複数のオブジェクトの動きが連動することで宙を舞うような表現が生まれます。

### 5. うかぶ風船

サークュレーター上で落ちることなく宙に留まる風船。目に見えない空気の流れによって浮き続ける、無重力な姿を作り出します。

### 6. マグ・レール

何もない天板の上で動くオブジェクト。仕掛けがないように見えても、実は天板の下にある磁力の働きで動いています。目に見えない力で動いている不思議な様子を見せてください。

### 7. ひかりの3原色

白い壁の前に立つと、壁にはカラフルな七色の影が現れます。普段の影の色とは違う色の正体は、赤・緑・青の3色の光。壁には一見、白い光が照らされているように見えますが、この3色の光が混じることでできる白色なのです。光の三原色のしくみを体感できます。

### 8. FLOWER DISPLAY

「白い造花の中に混在している赤い造花が花開くことで図像を表示します。表示に合わせてダイナミックに開閉が移ろっていく様子が見所です。」

### 9. ピアノを弾くサル

糸を使って人形を操るマリオネット。手で操っていたものもコンピュータを使えば、音に合わせて自動的に動かすことができます。自動制御でも生き物のように演奏する様子をご覧ください。

### 10. パフューマリーオルガン

19世紀にイギリスの化学者セプティマス・ピエスにより考案された香りの音階「香階」からインスピライを受けた香りのオルガン。音と香りを同時に奏でる世界でも珍しい香楽器です。

### 11. 図面の中のつくる展

あの作品をどこに置こう、これを置いたらどんな空間になるんだろう。そんな展示の頭の中のイメージを、他の人に見せる形にするためのものが図面です。ここではつくる展の展示図面の中に入って、展示している作品のクイズに答えながらつくる展を巡っていきます。小ネタも満載！

□遊び方 <https://zumen-no-naka.tasko.jp/>

①ツアーアが始まつたら待機

②クイズが始まるので自分が考える答えの場所に移動する(地面にあるA、Bの位置)

### 12. ル・ディスコシャンデリア (Le Disco Chandelier Bonsoir)

PCのリズムマシンに連動して光るレトロな電球たち。点滅する光は目を引きつけ、音との組み合わせで視覚的にリズムを楽しむ表現になります。

### 13. TASKOの棚から

硬いものから柔らかいもの、自然物から工業製品まで、さまざまな種類の素材を使ってTASKOの作品はできています。ここでは作品になる前の素材感を見比べることができます。

### 14. ししおどし？！

ししおどしは元々、烟のけもの除けとして、身の回りにあるものを使って作られたものです。溜まる、溢れる、流れいく。ししおどしが生み出している緊張感のある流れの仕組みを、TASKOにあるもので作ってみると…水がなくても無限に楽しめる装置に変身。

### 15. 札幌ループライン

ジオラマで制作した街の中を、光源を付けた電車が走っていくことによって、影としてその街並みを壁に映し出します。壁いっぱいに広がる影の街並みの姿は、その街に迷い込んだような没入感を感じさせます。岸野雄一監修のもと、メディアアーティスト・クワクボリョウタと共同製作した札幌雪まつり出品作品です。

### 16. 幻灯機

幻灯機は17世紀半ばに登場した投影装置。光とレンズを使って、目の前にあるオブジェクトをスクリーンに映してみることが出来ます。オブジェクトから直接像を映しとるこの構造ならではの質感は、スマホやテレビで見る映像や画像とは異なる表情をみせてくれます。

※17.オート・オートマ・テ、18. 歌う扇風機、19.ジタバタ電波時計は、大人の科学マガジンの付録を改造したものです。

## 魔女がやってきた 角野栄子展

会 期／令和3年9月4日(土)～10月17日(日)  
主 催／公益財団法人さかた文化財団 酒田市美術館  
共 催／酒田市、酒田市教育委員会  
特別協力／角野栄子オフィス  
企画協力／こどもの広場、スペースポンド  
協 力／アリエスブックス、福音館書店、ポプラ社  
担 当／学芸員 井上 瑠菜  
入場者数／5,470人

## ◎展覽會趣旨

絵本から児童文学、自伝的小説などさまざまな作品を生み出してきた角野栄子さん。とくに『魔女の宅急便』や『アッチ・コッチ・ソッチの小さなおばけシリーズ』など、だれもが一度はあこがれる魔法の世界を舞台とした物語は、角野さんの代名詞ともいえるでしょう。2018年には、世界中の優れた児童文学の作家と画家に贈られる「国際アンデルセン賞」の作家賞に、日本人で3人目に選ばれました。角野さんの豊かな想像力からうまれる作品たちは、日本だけでなく世界中で翻訳され、多くの人に親しまれています。

本展覧会では、『魔女からの手紙』や『魔女の宅急便』、『アッチ・コッチ・ソッチの小さなおばけシリーズ』など、人気作品の原画を中心に展示しました。これらの原画は、荒井良二やディック・ブルーナ、林明子、佐々木洋子など多くの作家が手がけました。登場人物たちの細かな表情や物語の情景を伝える多彩な原画とともに、角野さんが書いた創作ノートや原稿をまじえて、作家として歩んできた道のりをたどり、多くの作品をうみだすきっかけの「想像の源」を追いかけた展覧会となりました。

## ◎関連企画

## ワークショップ「魔法をえがこうーおまじないお絵かきー」

日時 10月3日(日) 午後1時45分～4時  
会場 美術館内(市民ギャラリー・美術館中庭)  
講師 イシザワエリ氏(アートワークショップデザイナー)

## 臨時ギャラリートーク

日時 10月17日(日) 午後2時  
会場 展示室  
講師 当館学芸員

### ◎自由参加型関連企画

## みんなでつくろう「魔女の思い出ワンピース」

日時 9月4日(土)~10月17日(日)

## 「教えて! 叶えて! 見て聞いて! 魔女への手紙」

日時 9月4日(土)~10月17日(日)



## 子ども向けA5版チラシ

## 魔女がやってきた 角野栄子展 作品リスト

No.	作品名	作者	出版社	制作年	材質
■ エントランスホール					
序章 魔女に会った					
1	魔女に会った 表紙	撮影:角野栄子	福音館書店	1993年	写真パネル
2	魔女に会った p.26 地図(ルーマニア付近)	角野栄子	福音館書店	1993年	写真パネル
3	ニッツアの家の前で3人	撮影:みやこうせい	—	1992年	写真パネル
4	魔女に会った p.29上ニッツアの家	撮影:みやこうせい	福音館書店	1993年	写真パネル
5	メモを取る角野	撮影:みやこうせい	—	1992年	写真パネル
6	みやさん魔女の述懐	撮影:みやこうせい	—	1992年	写真パネル
7	魔女に会った p.30上 薬草にキス	撮影:みやこうせい	福音館書店	1993年	写真パネル
8	魔女に会った p.31・35 上 アヌツア 下 ニッツア	撮影:みやこうせい	福音館書店	1993年	写真パネル
9	角野さんが世界中で集めた魔女の人物20体	—	—	—	人形
10	魔女人形の集合写真	撮影:馬場わかな	—	—	タペストリー
11	魔女に会った p.5 地図(ドイツ付近)	角野栄子	福音館書店	1993年	写真パネル
12	魔女に会った p.8 プロインリンゲン	撮影:角野栄子	福音館書店	1993年	写真パネル
13	魔女に会った p.14 女神と悪魔	撮影:角野栄子	福音館書店	1993年	写真パネル
14	魔女に会った p.18・19 ベルギー猫祭り	撮影:角野栄子	福音館書店	1993年	写真パネル
■ 第一展示室					
第一章 魔女の世界					
15	魔女の宅急便を書くもとになった12歳の娘さんが描いた絵	くぼしまりお	—	1979年	色鉛筆、紙
16	魔女の宅急便 表紙	林明子	福音館書店	1985年	インク、紙
17	魔女の宅急便 扉:p.259 キキ	林明子	福音館書店	1985年	インク、紙
18	魔女の宅急便 p.4-5 ふるさと村	林明子	福音館書店	1985年	インク、紙
19	魔女の宅急便 p.23・26 魔女の洋服	林明子	福音館書店	1985年	インク、紙
20	魔女の宅急便 p.37・34 旅立ち	林明子	福音館書店	1985年	インク、紙
21	魔女の宅急便 p.70・57 看板	林明子	福音館書店	1985年	インク、紙
22	魔女の宅急便 p.109・104 海	林明子	福音館書店	1985年	インク、紙
23	魔女の宅急便 p.120・112 とんぼさん	林明子	福音館書店	1985年	インク、紙
24	魔女の宅急便 p.133・127 洗濯、絵	林明子	福音館書店	1985年	インク、紙
25	魔女の宅急便 p.169・145 少女	林明子	福音館書店	1985年	インク、紙
26	魔女の宅急便 p.159 手紙	林明子	福音館書店	1985年	インク、紙
27	魔女の宅急便 p.213・200 時計台	林明子	福音館書店	1985年	インク、紙
28	魔女の宅急便 p.224・218 列車、楽土	林明子	福音館書店	1985年	インク、紙
29	魔女の宅急便 p.242・229 楽器	林明子	福音館書店	1985年	インク、紙
30	魔女の宅急便 p.256・249 帰郷	林明子	福音館書店	1985年	インク、紙
31	魔女の宅急便 p.260 コリコの街	林明子	福音館書店	1985年	インク、紙
32	魔女の宅急便 もくじ	林明子	福音館書店	1985年	インク、紙
33	魔女の宅急便 p.13・141 幼いキキ・洗濯物	林明子	福音館書店	1985年	インク、紙
34	魔女の宅急便 p.177・185 編物・腹巻	林明子	福音館書店	1985年	インク、紙
35	魔女の宅急便 p.11・49 幼いキキ・降立つ	林明子	福音館書店	1985年	インク、紙
36	魔女の宅急便 p.98・87 水着・絵描き	林明子	福音館書店	1985年	インク、紙
37	魔女の宅急便 その2 キキと新しい魔法 表紙、扉	広野多珂子	福音館書店	1993年	インク、紙
38	魔女の宅急便 その2 キキと新しい魔法 p.18・37 再会・カバのマルコさん	広野多珂子	福音館書店	1993年	インク、紙
39	魔女の宅急便 その2 キキと新しい魔法 p.352・380 くすりぐさ	広野多珂子	福音館書店	1993年	インク、紙
40	魔女の宅急便 その3 キキともうひとりの魔女 表紙、扉	佐竹美保	福音館書店	2000年	インク、紙
41	魔女の宅急便 その3 キキともうひとりの魔女 p.63 杉並木のトンネル	佐竹美保	福音館書店	2000年	インク、紙
42	魔女の宅急便 その3 キキともうひとりの魔女 p.89 むかし屋	佐竹美保	福音館書店	2000年	インク、紙
43	魔女の宅急便 その3 キキともうひとりの魔女 p.294・295 コリコの街 夜	佐竹美保	福音館書店	2000年	インク、紙
44	魔女の宅急便 その4 キキの恋 表紙:p.98 宙返り	佐竹美保	福音館書店	2004年	インク、紙
45	魔女の宅急便 その4 キキの恋 p.48・72・283 ヤアくん・ミミさん・コキリさん	佐竹美保	福音館書店	2004年	インク、紙
46	魔女の宅急便 その5 魔法のとまり木 表紙:p.75 『大波商会さん』	佐竹美保	福音館書店	2007年	インク、紙
47	魔女の宅急便 その5 魔法のとまり木 p.13・30・31 スースーアメ・ライちゃん・「おきよめ」のうた	佐竹美保	福音館書店	2007年	インク、紙
48	魔女の宅急便 その5 魔法のとまり木 p.123 ウイさん	佐竹美保	福音館書店	2007年	インク、紙
49	魔女の宅急便 その5 魔法のとまり木 p.269 キキととんぼさん	佐竹美保	福音館書店	2007年	インク、紙
50	魔女の宅急便 その6 それぞれの旅立ち 表紙:p.332 ニニとブブ	佐竹美保	福音館書店	2009年	インク、紙
51	魔女の宅急便 その6 それぞれの旅立ち p.59・232・314 トトとニニ、ほうき楽器、おソロさんとニニ	佐竹美保	福音館書店	2009年	インク、紙
52	魔女の宅急便 その6 それぞれの旅立ち p.370 嵐のなかお産の馬を運ぶニニ	佐竹美保	福音館書店	2009年	インク、紙
53	魔女からの手紙 表紙・裏表紙・カバそで	荒井良二	ボプラ社	1997年	—
54	魔女からの手紙 見開き扉	荒井良二	ボプラ社	1997年	—
55	魔女からの手紙 見返し	荒井良二	ボプラ社	1997年	—
56	魔女からの手紙 もくじ	荒井良二	ボプラ社	1997年	—
57	魔女からの手紙 飾り書き	荒井良二	ボプラ社	1997年	—
58	魔女からの手紙 ミミちゃんまじょちゃんより	ディック・ブルーナ	ボプラ社	1997年	アクリルボスター、色紙
59	魔女からの手紙 ボウシちゃんより	いとうひろし	ボプラ社	1997年	アクリルガッシュ

No.	作品名	作者	出版社	制作年	材質
60	魔女からの手紙 ユーリより	大島妙子	ボプラ社	1997年	オイルパステル
61	魔女からの手紙 ドクター・ドールより	鴨沢祐仁	ボプラ社	1997年	-
62	魔女からの手紙 ワヤコより	和田誠	ボプラ社	1997年	ガッシュ
63	魔女からの手紙 ライより	市川里美	ボプラ社	1997年	水彩絵の具
64	魔女からの手紙 カラより	五味太郎	ボプラ社	1997年	カラーインク
65	魔女からの手紙 スープおばさんより	黒井健	ボプラ社	1997年	色鉛筆
66	魔女からの手紙 アリヤより	橋本淳子	ボプラ社	1997年	-
67	魔女からの手紙 オッしゃり	国井節	ボプラ社	1997年	-
68	魔女からの手紙 ビチカより	高林麻里	ボプラ社	1997年	水彩
69	魔女からの手紙 トンボリ工衆一同より	宇野亜喜良	ボプラ社	1997年	-
70	魔女からの手紙 イシコより	西巻茅子	ボプラ社	1997年	クレヨン
71	魔女からの手紙 うさぎより	杉浦範茂	ボプラ社	1997年	アクリル絵の具
72	魔女からの手紙 魔女屋からのおしらせ	スザン・バーレイ	ボプラ社	1997年	-
73	魔女からの手紙 金曜日連より	太田大八	ボプラ社	1997年	-
74	魔女からの手紙 ワレッカチャより	スズキコージ	ボプラ社	1997年	水彩ガッシュ
75	魔女からの手紙 おわりのはあさんより	長新太	ボプラ社	1997年	ガッシュ
76	サラダでけんき 12点	長新太	福音館書店	1981年頃	-
77	『魔女の宅急便』1～6巻テーマ別編集「キキ」の表情 『おしゃれしたい』	画:林明子・広野多珂子・ 佐竹美保 撮影:吉岡一生	福音館書店	-	複製原画
78	『魔女の宅急便』1～6巻テーマ別編集「キキ」の表情 『ゆれる心』	画:林明子・広野多珂子・ 佐竹美保 撮影:吉岡一生	福音館書店	-	複製原画
79	『魔女の宅急便』1～6巻テーマ別編集「キキ」の表情 『飛ぶ 跳ぶ 翔ぶ』	画:林明子・広野多珂子・ 佐竹美保 撮影:吉岡一生	福音館書店	-	複製原画
80	『魔女の宅急便』1～6巻テーマ別編集「キキ」の表情 『魔法はひとつ』	画:林明子・佐竹美保 撮影:吉岡一生	福音館書店	-	複製原画

## ■ 第二展示室

### 第二章 おばけの世界

81	スパゲッティがたべたいよう p33・16([角野栄子のちいさなうわたち1より])	佐々木洋子	ボプラ社	2007年	カラーインク、色鉛筆
82	おばけのアッチとドララちゃん 表紙 p.4・5	佐々木洋子	ボプラ社	2010年	カラーインク、色鉛筆
83	おばけのアッチとドララちゃん p.22・23・P.44・45	佐々木洋子	ボプラ社	2010年	カラーインク、色鉛筆
84	おばけのアッチとドララちゃん p.76-77	佐々木洋子	ボプラ社	2010年	カラーインク、色鉛筆
85	おばけのアッチとドラキュラスープ 表紙 p.22・23	佐々木洋子	ボプラ社	2013年	カラーインク、色鉛筆
86	おばけのアッチとドラキュラスープ p.41・48・44・45	佐々木洋子	ボプラ社	2013年	カラーインク、色鉛筆
87	おばけのアッチパン・パン・パンケーキ 表紙 p.2・3	佐々木洋子	ボプラ社	2015年	カラーインク、色鉛筆
88	おばけのアッチパン・パン・パンケーキ p.58-59・p.78・79	佐々木洋子	ボプラ社	2015年	カラーインク、色鉛筆
89	おばけのアッチとくものパンやさん 表紙 p.2・3	佐々木洋子	ボプラ社	2018年	カラーインク、色鉛筆
90	おばけのアッチとくものパンやさん p.34-35・p.70・71	佐々木洋子	ボプラ社	2018年	カラーインク、色鉛筆
91	おばけのアッチスパゲッティ・ノックダウン 表紙 裏表紙p.20・21	佐々木洋子	ボプラ社	2019年	カラーインク、色鉛筆
92	おばけのアッチスパゲッティ・ノックダウン p.44-45・p.60・61	佐々木洋子	ボプラ社	2019年	カラーインク、色鉛筆
93	アッチとドッチのフルーツポンチ 表紙 裏表紙 p.46-47	佐々木洋子	ボプラ社	2019年	カラーインク、色鉛筆
94	アッチとドッチのフルーツポンチ p.66-67・68-69	佐々木洋子	ボプラ社	2019年	カラーインク、色鉛筆
95	おばけのアッチおもっちでおめでとう 表紙 裏表紙 p.36-37	佐々木洋子	ボプラ社	2019年	カラーインク、色鉛筆
96	おばけのアッチおもっちでおめでとう p.50-51・69・71	佐々木洋子	ボプラ社	2019年	カラーインク、色鉛筆
97	おばけのアッチコロッケとうさん 表紙 裏表紙 p.30-31	佐々木洋子	ボプラ社	2020年	カラーインク、色鉛筆
98	おばけのアッチコロッケとうさん p.4・43・62-63	佐々木洋子	ボプラ社	2020年	カラーインク、色鉛筆
99	おばけのアッチコロッケとうさん p.78-79	佐々木洋子	ボプラ社	2020年	カラーインク、色鉛筆
100	お日さまいろのスパゲッティ	佐々木洋子	ボプラ社	-	食玩
101	いもむしグラタン	佐々木洋子	ボプラ社	-	食玩
102	もりもりパンケーキ	佐々木洋子	ボプラ社	-	食玩
103	国際アンデルセン賞受賞 メダル	-	-	2018年	-
104	国際アンデルセン賞受賞 賞状	-	-	2018年	-

## ■ 第三展示室

### 角野栄子 創作のひみつ

105	角野栄子自筆の絵 ホウキと少女	角野栄子	-	-	水彩
106	手紙類(ブラジル↔日本)	角野栄子	-	1959年	-
107	スケッチブック	角野栄子	-	-	-
108	黒革の手帖 「魔女の取材手帳」	角野栄子	-	1992年	-
109	黒革の手帖 「イギリス滞在記」	角野栄子	-	1986年	-
110	創作ノート 水玉模様	角野栄子	-	-	-
111	創作ノート 格子模様	角野栄子	-	-	-
112	生原稿 ルイジンニヨ少年 ブラジルをたずねて	角野栄子	ボプラ社	1970年	-
113	生原稿 魔女の宅急便	角野栄子	福音館書店	1985年	-
114	いろはにほほほ 48点	角野栄子	アリエス ブックス	2017年	カラーサインペン、 水性マーカー

## ～展示された角野さんの絵本のご紹介～

### 『魔女の宅急便』 福音館書店

魔女の世界のきまりに従い、13歳で両親のもとを旅立ったキキは、ほうきに乗って空を飛ぶという、自分にできる唯一の魔法を使い、相棒の黒猫ジジとともに宅急便の仕事をはじめます。海辺の大きな町・コリコでキキが運ぶのは、その〈もの〉に込められた、人の思いや記憶などで、贈る人、受け取る人、様々な人々に出会い、いろいろなことを経験しながら、自分の本当の気持ちやなりたい自分の姿を見つけていきます。

6巻にもおよぶ長い物語の中で、13歳の少女だったキキは、やがて結婚してふたりの子どもを持つ35歳の母親となり、その子どもたちが自立していく様子も描かれます。ファンタジーでありながら、仕事を楽しみ、時には自信をなくし、恋愛や生き方に悩みつつ前に進んで行くキキの姿は、読者に身近な存在として共感を集め、いまも愛され続けています。

### 『魔女からの手紙』 ポプラ社

ある女の子のもとに魔女たちが手紙を送った、という設定で作られた絵本です。

表紙の絵を手がけた荒井良二のほか、ディック・ブルーナ、スズキコージ、長新太、西巻茅子など、角野と交流のある20人の画家が、魔女をテーマに絵を描き、それぞれの絵のイメージに合わせて角野が手紙形式で物語を紡ぎました。普段の絵本作りではテキストを先に考えるため、絵が先になるのは珍しいとのことです。2008年にはシリーズの続編となる『ちいさな魔女からの手紙』が刊行され、新たに20人の画家が魔女を描きました。

### 『サラダでげんき』 福音館書店

病気になったおかあさんのために、主人公のりっちゃんがサラダを作っていると、ねこ、いぬ、すずめ、あり、うまが次々とやってきて、サラダ作りのアドバイスをします。ついには、北極からしろくまの電報が届き、最後にはぞうが飛行機でやってきます。みんなが手伝ってくれたおかげで、おいしいサラダが出来上がります。りっちゃんのおかあさんは、サラダを食べてたちまち元気になりました。

### 『アッチ・コッチ・ソッチの小さなおばけシリーズ』 ポプラ社

町一番のレストランの屋根裏に暮らす食いしん坊なおばけのアッチが、スパゲッティを作っていた女の子エッちゃんと出会い、作り方を教えてもらうところから物語ははじまります。

仲間の小さなおばけには床屋さんに住むおしゃれなコッチ、飴屋のおばあさんと暮らす歌の好きなソッチがいますが、これらの名前は角野の娘が小さい頃、自分が作ったお話を始める際に必ず「あっちにいってね、こっちにいってね、そっちにいってね」と口にしていたことと関係しています。ほかにも、食いしん坊なのらねこのボン、いたずら好きなネズミのチとキ、ドラキュラの孫娘のドララちゃんといった多彩なキャラクター、独特なオノマトペや楽しい歌とともに紹介される美味しいそうな料理などが子どもたちの心を掴み、作品は40年以上、世代を超えて愛され続けています。

### 『いろはにほほほ』 アリエスブックス

角野さんがはじめて文と作画どちらも手がけた、ことばあそび絵本です。

いぬはおしゃれさん。ろうそくのおばさんロックンローラー。はがわらったははははは。など、リズミカルで、思わず声に出したくなるようなことばと、いきいきとした絵がつまっています。こどもも大人もクスッと笑ってしまう、ユーモアあふれる作品です。



ワークショップ風景



ワークショップ風景



## 第76回県美展酒田巡回展・第63回こども県展

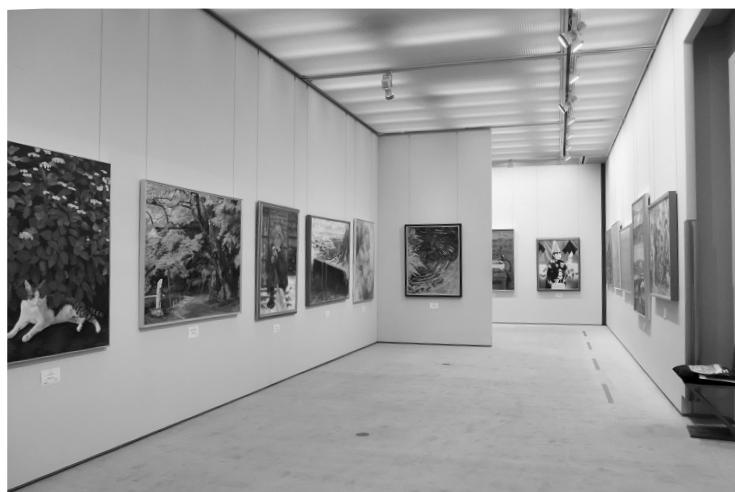
会 期／令和3年11月10日(水)～11月15日(月)  
主 催／公益財団法人さかた文化財団・山形新聞・  
山形放送・県美術連盟  
共 催／酒田市・酒田市教育委員会  
担 当／学芸主任 武内 治子  
入場者数／1,701人

## ◎展覽会趣旨

今年も「県美展」酒田巡回展の季節がやってまいりました。本展は今年で76回目をかぞえる県内では最大の公募展であり、県内在住の芸術家たちの創作発表の場として、長年地域の芸術文化の振興に大きな役割を果たしてきました。

庄内地方からも毎年多くの入選者が出ており、今年の酒田巡回展では、日本画・洋画・彫刻・工芸の4部門で、入賞7名、入選30名、無鑑査・委嘱9名の方々を含む、総点数138点が展示されました。

また、県美展と同時期に開催される「第63回こども県展」には、317点の作品が展示されました。



今年も「鹿児島」満田進回の季節がやってまいりました。本屋は今年で12回目をかぞえる県内では最大の書店であります。県内の在住者たちの新华書店の常連店として、長年地域の文化発展に貢献してきたお役割を果してきました。店舗内からも毎年多く人気講演が出来ます。今年の「鹿児島回」は、日本画・書道・形塑工芸の4部門で、入賞者名、入選30名、新進賞、最優秀賞等の名前を含め、総合138名が選出されました。また很美賞と時間帯に開催される「第85回ごくも県展」には、317点の作品が展示されます。県民がご来店して、ご家族おそろいでご覧ください。なおお問い合わせください。お問い合わせは「鹿児島」満田進回、「ごとも県展」として、巡回作品すべてを展示できませんことを

#### 本土地圖の出品作家

庄内地方の出品作家	
●美術	日本画
吳 堅 黃 延	常 勉 / 清田市
山形鶴賀 長川 錦	入 道 萩 澄子 / 清田市
入 道 阿木 順子 / 鶴岡市	入 道 萩 審喜 / 清田市
人 道 佐木 俊 / 清田市	入 道 正志 / 清田市
人 道 池田 俊 / 清田市	入 道 恵子 / 清田市
芸 瑶 金内 俊 / 鶴岡市	入 道 吉村 澄子 / 清田市
洋画	
吳 堅 黃 賴	伊藤 伊代 / 清田市
山形鶴賀 藤川 一 / 鶴岡市	佐藤 和子 / 清田市
人 道 ふじのり / 庄内町	佐藤 恒吉 / 清田市
人 道 佐藤 次郎 / 清田市	佐藤 嘉志 / 清田市
人 道 石田 俊 / 佐藤町	佐藤 俊子 / 清田市
人 道 鈴木 喜子 / 清田市	若生 久 / 清田市
人 道 今野 修 / 清田市	入 道 佐藤 澄子 / 清田市
人 道 佐藤 伸生 / 清田市	入 道 佐藤 修 / 清田市
人 道 佐藤 沂 / 清田市	入 道 佐藤 無量 / 清田市
人 道 伊藤 一征 / 清田市	入 道 佐藤 実誠 / 清田市
影刺	
吳 堅 黃 延	柿地 肇 / 清田市
山形鶴賀 長川 錦	池田 順 / 清田市
入 道 萩 審喜	山形放送局 紫 / 清田市
入 道 正志	土門 順 / 清田市
入 道 恵子	吉村 俊 / 清田市
入 道 吉村 澄子	安 勉 / 清田市
工芸	
吳 堅 黃 賴	柴田 真理子 / 清田市
人 道 大瀬 文代 / 鶴岡市	人 道 佐藤 修 / 清田市
人 道 佐藤 修 / 清田市	人 道 佐藤 伸子 / 清田市
人 道 佐藤 伸子 / 清田市	人 道 佐藤 章子 / 清田市
人 道 佐藤 章子 / 清田市	無 施 賀 / 清田市
人 道 佐藤 章子 / 清田市	中村 千秋 / 清田市
人 道 佐藤 千秋 / 清田市	人 道 安 勉 / 清田市

### ● こども図書

【こども奈良県】		【こども奈良県】		
波渡	塗田・由美・天美幼稚園四年生	佐藤	誠汰・近石立・新園小学校5年生	
福井	未羽・近石立四年生・五年生	池田	充希・済田立小学校4年生	
【こども興味賞】	加藤	悠乃・(3年)三つ巴・うるう子も園年生	萩原	英知・近石立・新園小学校4年生
	高橋	ゆい・(3年)三つ巴・うるう子も園年生	阿部	香穂・済田立四年生
	阿部	心香・済田立四年生	佐藤	舞・済田立小学校4年生
	佐藤	実穂・済田立五年生・6年生	阿部	未羽・済田立小学校4年生
	後藤	遼生・済田立五年生・6年生	ほか、入賞者	



# 令和2・3年度市町村立美術館活性化事業 第21回共同巡回展 板橋区立美術館・豊島区所蔵 池袋モンパルナス—画家たちの交差点—

会 期／令和3年11月20日(土)～令和4年1月10日(月・祝)

主 催／公益財団法人さかた文化財団 酒田市美術館

共 催／酒田市、酒田市教育委員会

特別協力／板橋区立美術館、豊島区

助 成／一般財団法人地域創造

協 力／今井アートギャラリー、東北芸術工科大学

担 当／学芸主任 武内 治子

入場者数／2,105人

## ◎展覧会趣旨

1920年代以降、池袋界隈には芸術家向けの安価なアトリエ付き住宅が建ち並び、そこには日本各地から上京した芸術家たちが集い、いくつかの「アトリエ村」と呼ばれる一画が形成されていきました。この地域では、芸術家同士の交流も盛んで、新たなアートシーンを生み出しました。その様子は、パリの芸術家の街になぞらえて「池袋モンパルナス」と呼ばれています。

板橋区立美術館と豊島区は池袋モンパルナスに関連する画家たちの作品を収集してきました。本展は、両館のコレクションで構成され、「池袋モンパルナス」と題した詩を書き、芸術家たちに多大な影響を与えた詩人・小熊秀雄の作品を皮切りに、画家たちが互いを描いた肖像画や自画像、また、アトリエ村周辺の風景画をとおして、池袋モンパルナスの全貌に迫りました。そして、池袋美術家クラブ、新人画会などに参加していた画家を中心に、彼らが会派を越えて切磋琢磨し、戦前から戦後の激動の時代の中で芸術に情熱を注いでいた様子を紹介しました。

また、池袋モンパルナスには全国各地から上京してきた画家たちが暮らしていたことが大きな特徴として挙げられます。彼らの中には、戦後も東京で制作した者もいれば、故郷に帰り活躍した者もいます。本展は、しかもだて美術館、瀬戸市美術館、そして酒田市美術館を巡回しました。開催館ごとにその地域に根差した池袋モンパルナスゆかりの作家を紹介しました。

## ◎関連企画

### 当館学芸員によるギャラリートーク

日時 11月20日(土) 午後1時

11月27日(土)、28日(日) 午前11時、午後2時

会場 展示室

講師 当館学芸員

### 高校生×劇団ワンライブによる詩の朗読会

日時 12月19日(日) 午後2時

会場 展示ホール

出演 酒田東高等学校、酒田西高等学校、酒田光陵高等学校、酒田南高等学校の生徒、劇団ワンライブ(代表 梅津一生氏ほか)

### 酒田市美術館 YouTubeチャンネルで「詩の朗読会」配信

視聴回数 140回(内高評価8件)



### ワークショップ「絵の具でトントン!ふしぎなせかい」

日時 12月5日(日) 午前10時30分、午後2時

会場 ミーティングルーム

講師 松村泰三氏(東北芸術工科大学准教授)

### 連携展示/東北芸術工科大学「東北画は可能か?」

日時 11月20日(土)～令和4年1月10日(月・祝)

会場 美術館彫刻回廊

## 池袋モンパルナスー画家たちの交差点ー 作品リスト

順路 No	作品名	作家名	制作年 (月日)	収蔵
----------	-----	-----	-------------	----

第1章 池袋モンパルナスと小熊秀雄				
1 夕陽の立教大学	小熊秀雄	1935年	豊島区	
2 すみれ	小熊秀雄	1930年代	豊島区	
3 長崎アトリエ村	小熊秀雄	1930年代	豊島区	
4 東長崎風景(電線のある風景)	小熊秀雄	1930年代	豊島区	
5 板橋風景	小熊秀雄	1937年	豊島区	
6 アトリエ村(1)	小熊秀雄	1930年代	豊島区	
7 アトリエ村(2)	小熊秀雄	1930年代	豊島区	
8 立教大学(2)	小熊秀雄	1937年	豊島区	
9 カフェ(2)	小熊秀雄	1936年	豊島区	
10 女給と学生	小熊秀雄	1930年代	豊島区	
11 ケンカ	小熊秀雄	1930年代	豊島区	

第2章 画家たちが描いた肖像画・風景画				
12 激情(自画像)	小熊秀雄	1930年代	豊島区	
13 寺田政明像(2)	小熊秀雄	1930年代	豊島区	
14 小熊秀雄像	寺田政明	1935年	豊島区	
15 自画像	寺田政明	1936年1月	豊島区	
16 寺田君	麻生三郎	1942年	板橋区立美術館	
17 自画像	麻生三郎	1934年	豊島区	
18 麻生三郎	平澤熊一	1945年4月5日	豊島区	
19 自画像	大野五郎	1928年	個人蔵(板橋区立美術館寄託)	
20 自画像	高山良策	1945年頃	板橋区立美術館	
21 長谷川利行	吉井忠	1968年	豊島区	
22 豊光像	長谷川利行	1928年	個人蔵(板橋区立美術館寄託)	
23 自画像	齋藤求	1941年	豊島区	
24 バルテノンへの道	齋藤求	1971年	豊島区	
25 東長崎付近	春日部たすく	1927年3月	豊島区	
26 池袋駅前豊島師範通り	春日部たすく	1928年	豊島区	
27 建物のある風景	田中佐一郎	1935年頃	板橋区立美術館	
28 風雨の朝(豊島長崎付近)	寺田政明	1940年代	板橋区立美術館	
29 長崎町のアトリエ	麻生三郎	1944年	豊島区	
30 池袋	田中佐一郎	1947年	板橋区立美術館	
31 池袋への道	鶴田吾郎	1946年	豊島区	
32 池袋駅東口	高山良策	1947年	豊島区	
33 1948年	高山良策	1949年3月	板橋区立美術館	
34 アトリエ村	博松正利	1960年	豊島区	

第3章 池袋モンパルナスの画家たち				
35 四人裸婦	長谷川利行	1935年	豊島区	
36 支那之白服	長谷川利行	1939年	板橋区立美術館	
37 水泳場	長谷川利行	1932年	板橋区立美術館	
38 職工	里見勝蔵	1917年	豊島区	

■池袋美術家クラブの結成				
39 黄衣の少女	田中佐一郎	1931年	板橋区立美術館	
40 雲湧く山	桑原実	1938年	豊島区	
41 ヴィナスと少年	難波田龍起	1936年	板橋区立美術館	
42 ニンフの踊り	難波田龍起	1936年	板橋区立美術館	
43 古代の人	難波田龍起	1940年	板橋区立美術館	
44 裸婦	竹中三郎	1934年頃 (1978年加筆)	板橋区立美術館	
45 男と女	吉原義彦	1926年	板橋区立美術館	
46 裸婦	田中佐一郎	1931年	豊島区	
47 海辺の花束	寺田政明	1936年	個人蔵(板橋区立美術館寄託)	
48 夜(眠れる丘)	寺田政明	1938年	板橋区立美術館	
49 蒼暮	古沢岩美	1937年 (1982年再制作)	板橋区立美術館	
50 夜の花	古沢岩美	1943年	板橋区立美術館	

■新人画家				
51 異国の子	大野五郎	1936年	板橋区立美術館	
52 鉄橋近く	松本俊介	1943年	板橋区立美術館	
53 りんご	松本俊介	1944年	個人蔵(板橋区立美術館寄託)	
54 一子像	麻生三郎	1944年	板橋区立美術館	
55 女	麻生三郎	1944年	板橋区立美術館	
56 たけのこ	寺田政明	1943年	板橋区立美術館	
57 風景(暮れる港)	寺田政明	1943年	豊島区	

■様々な団体の作家たち				
58 父と子	福沢一郎	1937年	板橋区立美術館	
59 静物(骨と布)	井上長三郎	1935年	板橋区立美術館	
60 トリオ	井上長三郎	1943年	板橋区立美術館	
61 上野山下風景	野田英夫	1938年	板橋区立美術館	
62 ノートルダム	吉井忠	1937年	豊島区	
63 祠	吉井忠	1928年	豊島区	
64 地割れのある風景(風景A)	大塚睦	1940年	板橋区立美術館	

順路 No	作品名	作家名	制作年 (月日)	収蔵
----------	-----	-----	-------------	----

65 歩兵(エスキース)	柿手春三	1936年	板橋区立美術館	
66 水辺	眞鍋(金子)英雄	1941年	板橋区立美術館	
67 カーネーション	小川原脩	1941年	板橋区立美術館	
68 ヴィナス	小川原脩	1939年	板橋区立美術館	
69 夢	博松正利	1940年	豊島区	
70 市の女達(海南島)	齋藤求	1943年	豊島区	
71 ウエイター	齋藤求	1931年	豊島区	
72 黄昏の憂鬱	浜松小源太	1941年	板橋区立美術館	
73 世纪の系図	浜松小源太	1938年	板橋区立美術館	
74 廃墟	佐田勝	1945年	板橋区立美術館	
75 废砲A(戦利品A)	佐田勝	1939年	板橋区立美術館	

■戦後の池袋モンパルナス				
76 そこあさり	山下菊二	1955年	豊島区	
77 才時間デスヨ	山下菊二	1950年	板橋区立美術館	
78 孤児	大塚睦	1946年	豊島区	
79 ハンスト	大塚睦	1949年	板橋区立美術館	
80 囂	大塚睦	1949年	板橋区立美術館	
81 ガラス工場	高山良策	1957年	板橋区立美術館	
82 帰る	高山良策	1955年	板橋区立美術館	
83 煙突にわとり	桂川寛	1958年	豊島区	
84 開花期	桂川寛	1950年	豊島区	
85 薪炭(戦時配給)	入江比呂	1942年	板橋区立美術館	
86 群(米よせ)	入江比呂	1946年	板橋区立美術館	

第4章 池袋モンパルナスと開催館(酒田市美術館)ゆかりの画家				
87 冬景色	斎藤長三	1942年	酒田市美術館	
88 酒田港口	斎藤長三	1951年	酒田市美術館	
89 秋・収穫	斎藤長三	1944年	酒田市美術館	
90 秋・野の食事	斎藤長三	1944年	酒田市美術館	
91 変電所附近	斎藤長三	1949年	酒田市美術館	
92 国電池袋駅	斎藤長三	1953年	酒田市美術館	
93 飢餓	今井繁三郎	1985年	今井アートギャラリー	
94 鳥と遊ぶ	今井繁三郎	1974年	今井アートギャラリー	
95 稲田	今井繁三郎	1978年	今井アートギャラリー	
96 田園	今井繁三郎	1978年	今井アートギャラリー	
97 野仏	今井繁三郎	制作年不詳	今井アートギャラリー	

資料 No	作品名	作家名	制作年 (月日)	収蔵
1 さくらが丘バルテノン		博松正利氏提供		
2 番地界入東京府北豊嶋郡長崎町全図		1929年	豊島区立郷土資料館	
3 写真／左から井上長三郎、松本俊介、麻生三郎、園田謙、眞鍋(金子)英雄(麻生三郎のアトリエ前にて)		1944年	板橋区立美術館	
4 小熊秀雄遭作展覧会案内パンフレット		1941年	板橋区立美術館	
5 第1回池袋美術家クラブ展覧会 目録		1936年	板橋区立美術館	
6 池袋美術研究所 ポスター		1951年	板橋区立美術館	
7 美術文化協会第1回展 集写真(『美術文化』4月号より)		1940年	板橋区立美術館	
8 美術文化協会二千六百年奉祝展案内状(美術文化協会)		1940年	板橋区立美術館	
9 豊光さんのオブジェ		1935年	板橋区立美術館	
10 写真／左から井上長三郎、寺田政明、豊光		不詳	板橋区立美術館	
11 写真／左から鶴見一郎、寺田政明(酒田一部前にて吉井の撮影)		不詳	板橋区立美術館	
12 第1回新人画会展 案内はがき		1943年	板橋区立美術館	
13 第2回新人画会展 案内はがき		1943年	板橋区立美術館	
14 4人展 案内はがき		1955年	板橋区立美術館	
15 4人展 作品目録		1955年	板橋区立美術館	

No	作品名	作家名	制作年 (月日)	収蔵
連携展示 東北芸術工科大学 「東北画は可能か?」				
98 山麓	白幡進	2017年	東北芸術工科大学	
99 瑞雲たびく美しき神の山 出羽三山	佐藤定雄	2017年	東北芸術工科大学	
100 獅子とひょっことこ	小泉洋	2017年	東北芸術工科大学	
101 黒川能神事豆腐焼き	牧小静	2017年	東北芸術工科大学	
102 春を待つ	小玉とみ子	2017年	東北芸術工科大学	
103 生きる力	今野いづみ	2017年	東北芸術工科大学	
104 祈りと信仰のはじまり	佐藤芳子	2017年	東北芸術工科大学	
105 子供達の黒森歌舞伎	志田永子	2017年	東北芸術工科大学	
106 依雪	小澤紀美	2017年	東北芸術工科大学	
107 遠かなる記憶	菅進	2017年	東北芸術工科大学	
108 そして、明けゆく	山田雄輝	2017年	東北芸術工科大学	
109 道をたどる	川合南菜子	2017年	今井アートギャラリー	
110 遠歩荷	かちにいづ	2019年	東北芸術工科大学	



ギャラリートーク



ギャラリートーク



展示風景



ワークショップ風景



展示風景



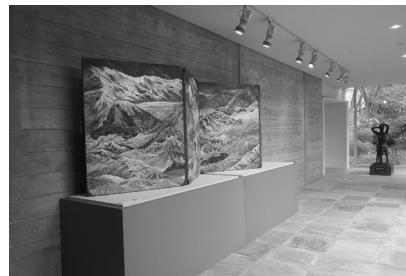
詩の朗読会



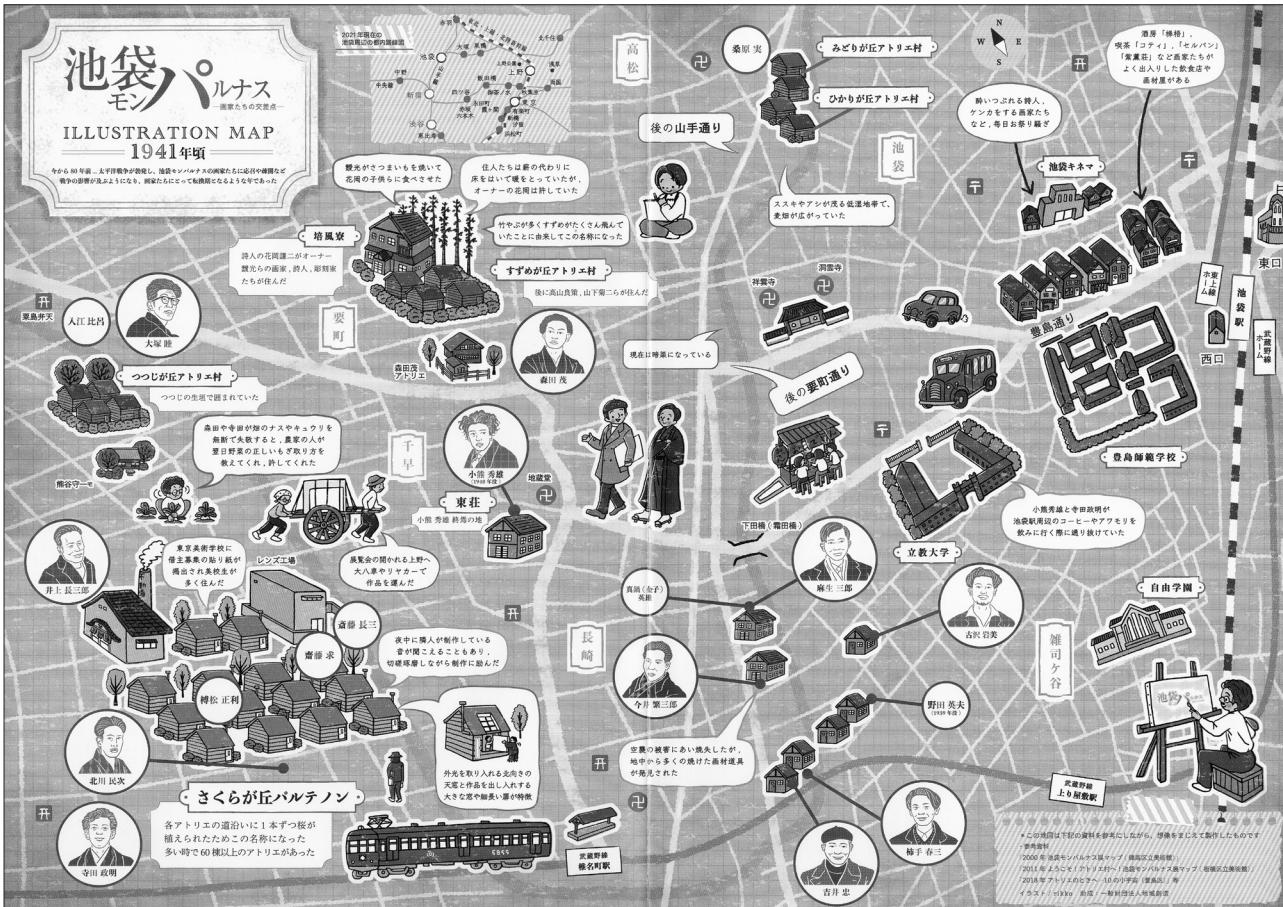
展示風景



詩の朗読会展示



東北画は可能か？



# サカタアートマルシェ 「佐藤タカヒロ漫画原画展 ～デビュー作品からバチバチシリーズ『鮫島、最後の十五日』まで～」

会 期／令和3年9月14日(火)～9月26日(日)  
会 場／酒田市美術館 市民ギャラリー  
主 催／酒田市・酒田市教育委員会・酒田市文化芸術推進プロジェクト会議  
協 力／株式会社 秋田書店  
担 当／学芸員 井上 瑠菜  
入場者数／1,640人

## ◎展覽会趣旨

佐藤タカヒロは1976年、山形県酒田市に生まれました（享年41歳）。父の勧めで、小学校3年生で柔道を始めた。邁進するが、ケガの為、高校1年生の時に断念。仙台デザイン専門学校を卒業後、首都圏で絵を描き続け、職場の先輩の勧めでマンガを描き始め、漫画家のアシスタントをしながら、自身も漫画を描き、2000年に第54回週刊少年チャンピオン新人まんが賞準入選を果たしました。2001年にデビュー作『シンクマネー』が同誌に掲載され、その後、2004年から柔道漫画『いっぽん！』を2年間連載。この頃から、故郷である酒田市に拠点を移して執筆活動に打ち込みました。

2009年、同誌で相撲漫画『バチバチ』の連載が決まり、2012年まで続きました。同年、続編『バチバチBURST』の連載が始まり、2014年にはバチバチシリーズ最終章の『鮫島、最後の十五日』が連載。バチバチシリーズは、手描きにこだわり続けた迫力ある取組シーン、主人公の熱血さ、登場人物のキャラクターなどが相撲ファンだけでなく幅広い層から愛され、人気となり、9年以上の長期連載となりました。

本展では、漫画家としてのデビュー作品からバチバチシリーズ『鮫島最後の十五日』まで原画約90点を展示し、また、ご遺族の協力のもと再現した佐藤夕カヒロのアトリエを公開しました。

## ◎イベント

## トークイベント「漫画家 佐藤タカヒロを語る」

日時 9月19日(日) 午後2時～午後3時30分  
会場 酒田市公益研修センター公益ホール  
出演 松岡秀和氏(株式会社秋田書店 週刊少年チャンピオン編集部)



# サカタアートマルシェ 「いいいろいろいろいろ展」

会 期／令和3年9月18日(土)～9月26日(日)  
会 場／出羽遊心館  
主 催／酒田市・酒田市教育委員会・酒田市文化芸術推進プロジェクト会議  
共 催／やまがたアートサポートセンター ら・ら・ら、社会福祉法人  
酒田市社会福祉協議会

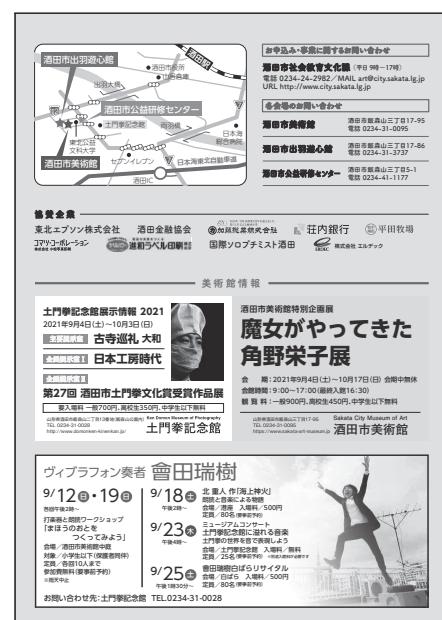
協力団体／医療法人酒田東病院、NPO法人あらた、共同生活事業所 仲町ホーム、NPO法人 酒田市障がい者福祉会、NPO法人 みらいす、障がい者支援施設 光風園、障がい者支援施設 和光園、障がい福祉サービス事業所 いっぽ、庄内障害者就業・生活支援センター サポートセンターかでる、生活介護センターふれあい、多機能型事業所 くじら、多機能型事業所 ふれんず、福祉施設 ひよっこり島、放課後等デイサービス事業所 ならはし、山形県立酒田特別支援学校

担当／学芸主任 武内 治子

入場者数／652人

## ◎展覽會趣旨

酒田市の障がいのある方のアート作品122点と、酒田市出身の作家佐藤真生氏と市民との共同作品「夢傘福」を展示しました。作者の思い・作品の魅力を伝えることを大切にしながら、出展団体の皆さんと一緒に作品展を作り上げました。



# 1. 展覧会事業

(3) 常設展示／令和3(2021)年度

## 《市民ギャラリー》

1期 令和4年1月26日～2月6日 酒田飽海地区子ども美術展

## 《エントランス》

1期 令和4年1月15日～2月6日 【収蔵品展】高橋剛作品

2期 令和4年2月11日～3月13日 【収蔵品展】佐藤昌祐作品

## 《企画展示室》

1期 令和4年1月15日～2月6日 【収蔵品展】高橋剛作品

2期 令和4年2月11日～3月13日 【収蔵品展】佐藤昌祐作品

## 《展示ホール》

1期 令和4年1月15日～2月6日 【収蔵品展】高橋剛作品

2期 令和4年2月11日～3月13日 【収蔵品展】佐藤昌祐作品

## 《常設展示室Ⅰ》

1期 令和4年1月15日～2月6日 【収蔵品展】佐藤公紀作品、伊藤喜久井作品 他

2期 令和4年2月11日～3月13日 【収蔵品展】今井繁三郎作品、國領經郎作品 他

## 《常設展示室Ⅱ》

1期 令和3年3月20日～7月9日 【新田嘉一コレクション】 森田茂、小林功 他

2期 令和3年7月17日～10月17日 【新田嘉一コレクション】 森田茂、加山又造 他

3期 令和3年10月24日～令和4年1月10日 【新田嘉一コレクション】 森田茂、丸木位里 他

4期 令和4年1月15日～3月13日 【新田嘉一コレクション】 森田茂、鈴木シン一 他

## 《回廊》

1年を通して 令和3年4月1日～ 【酒田市所蔵作品】高橋剛作品

令和4年1月15日～2月6日 【収蔵品展】ひろし高橋作品



収蔵品展Ⅰ



収蔵品展Ⅰ デッサン会



収蔵品展Ⅱ

## 2. 教育普及事業 令和3(2021)年度

### ◇ワークショップ

展覧会名等	日 時	内 容	参加人数
今森光彦「自然と暮らす切り紙の世界」展	5月22日(土) ①午前11時 ②午後2時	『今森光彦 切り紙ワークショップ』 講師:今森光彦氏(写真家、切り絵作家) 会場:市民ギャラリー	47人
魔女がやってきた 角野栄子展	10月3日(日) 午後1時45分～4時	『魔法をえがこう-おまじないお絵かき-』 講師:イシザワエリ氏 (アートワークショップデザイナー) 会場:市民ギャラリー、美術館中庭	10人
板橋区立美術館・豊島区所蔵 池袋モンバルナス —画家たちの交差点—	12月5日(日) ①午前10時30分 ②午後2時	『絵の具でトントン!ふしぎなせかい』 講師:松村泰三氏(東北芸術工科大学准教授) 会場:ミーティングルーム	32人
酒田市美術館収蔵品 生誕100年高橋剛展	1月30日(日) 午後1時30分～4時	『冬の酒美でデッサン会』 会場:美術館内	2人
	2月6日(日) 午後1時30分～4時		2人

### ◇ギャラリートーク

展覧会名等	日 時	内 容	参加人数
魔女がやってきた 角野栄子展	10月17日(日) 午後2時	臨時「ギャラリートーク」 講師:井上瑠菜(学芸員) 会場:美術館内	25人
板橋区立美術館・豊島区所蔵 池袋モンバルナス —画家たちの交差点—	11月20日(土) 午後1時	「ギャラリートーク」 講師:武内治子(学芸主任) 会場:美術館内	10人
	11月27日(土)、28日(日) ①午前11時 ②午後2時		12人(27日) 19人(28日)
酒田市美術館収蔵品 生誕100年佐藤昌祐展	3月12日(土) 午後2時～3時	「ギャラリートーク」 講師:川島崇史氏(酒田市社会教育文化課) 会場:美術館内	14人

### ◇その他企画

展覧会名等	日 時	内 容	参加人数
つくる展 —TASKOファクトリーの ひらめきをかたちに—	8月18日(水)	つくる展 入館者数1万人達成記念	-
魔女がやってきた 角野栄子展	9月4日(土)～ 10月17日(日)	自由参加型ワークショップ みんなでつくろう『魔女の思い出ワンピース』	-
	9月4日(土)～ 10月17日(日)	自由参加型ワークショップ 『教えて!叶えて!見て聞いて!魔女への手紙』	-
板橋区立美術館・豊島区所蔵 池袋モンバルナス —画家たちの交差点—	12月19日(日) 午後2時	高校生×劇団ワンライヴによる詩の朗読会	22人
公益財団法人 さかた文化財団設立記念 講演会	12月19日(日) 午後2時～3時30分	松戸市戸定歴史館名誉館長・齊藤洋一氏による講演会 「渋沢栄一の視点から見るもう一つの幕末明治 —敗者となった将軍と幕臣たちの奮闘—」	100人
酒田市美術館収蔵品 生誕100年佐藤昌祐展	2月27日(日) 午後2時～3時	修復家・米田奈美子氏による講演会	17人

## 【「教職員視察ウィーク」の実施】（期間中の教職員に対する入館料減免とアンケートの記入）

展覧会名等	日 時	内 容	参加人数
今森光彦「自然と暮らす切り紙の世界」展	5月22日～5月28日	酒田市内の保育園・幼稚園・小中高等学校・特別支援学校・産業技術短期大学校庄内校・東北公益文科大学に勤務する教職員（臨時職員、講師でも可）の入館料を減免し、アンケートに答えてもらう。	9人
魔女がやってきた 角野栄子展	9月4日～9月10日		16人
板橋区立美術館・豊島区所蔵 池袋モンパルナス —画家たちの交差点—	11月20日～11月26日		2人

## ◇スクールプログラム/主催:酒田市教育委員会（29回、777名）

展覧会名等	日 時	内 容	参加人数
今森光彦「自然と暮らす 切り紙の世界」展	亀ヶ崎小学校・2年	6月3日(木)9:35～10:20	28名
	黒森小学校・1、2年	6月7日(月)10:00～11:00	16名
	亀ヶ崎小学校・2年	6月10日(木)9:35～10:20	25名
	平田小学校・2年	6月10日(木)10:50～11:40	21名
	亀ヶ崎小学校・2年	6月17日(木)9:25～10:10	29名
	南平田小学校・2年	6月17日(木)10:40～11:25	39名
	西荒瀬小学校・1年	6月24日(木)10:50～11:20	21名
	一條小学校・2年	6月29日(火)10:00～10:45	11名
	西荒瀬小学校・2年	6月30日(水)10:50～11:20	29名
	琢成小学校・2年	7月1日(木)10:30～11:30	32名
魔女がやってきた 角野栄子展	南平田小学校・4年	9月15日(水)9:00～9:45	36名
	八幡小学校・4年	9月16日(木)9:00～9:45	22名
	西荒瀬小学校・4年	9月16日(木)10:40～11:25	18名
	西荒瀬小学校・3年	9月17日(金)10:50～11:20	27名
	平田小学校・3年	9月24日(金)10:00～11:00	21名
	琢成小学校・4年	10月4日(月)10:30～11:40	29名
	琢成小学校・3年	10月5日(火)10:30～11:40	21名
	黒森小学校・3、4年	10月7日(木)9:50～11:10	18名
	浜中小学校・3、4年	10月11日(月)10:00～11:00	17名
	浜中小学校・5、6年	10月13日(水)10:00～11:00	23名
板橋区立美術館・豊島区所蔵 池袋モンパルナス —画家たちの交差点—	琢成小学校・5年	11月24日(水)10:30～11:50	31名
	第六中学校・1年	11月25日(木)9:00～10:15	30名
	第六中学校・1年	11月25日(木)11:00～12:15	29名
	西荒瀬小学校・6年	11月26日(金)10:40～11:25	18名
	南平田小学校・6年	12月2日(木)10:35～11:20	53名
	十坂小学校・6年	12月8日(水)10:00～11:00	37名
	第六中学校・1年	12月9日(木)9:00～10:15	34名
	第六中学校・1年	12月9日(木)11:00～12:15	39名
	西荒瀬小学校・5年	12月16日(木)10:40～11:25	23名



スクールプログラム風景（今森光彦展）



スクールプログラム風景（角野栄子展）



スクールプログラム風景（角野栄子展）



ワークショップ風景（角野栄子展）



スクールプログラム風景  
(池袋モンパルナス展)



スクールプログラム風景  
(池袋モンパルナス展)



ワークショップ風景  
(池袋モンパルナス展)



飽海地区子ども美術展展示風景



飽海地区子ども美術展展示風景



ワークショップ完成作品  
(池袋モンパルナス展)



詩の朗読会本番当日  
(池袋モンパルナス展)



詩の朗読会練習風景  
(池袋モンパルナス展)

### 3. 市民ギャラリー利用状況 令和3(2021)年度

展覧会名	会期	会期日数	入館者数
茂木玲子写真展「魚と街」	令和3年4月1日(木)～4月4日(日)	4日	233
第18回菅原真理子キルトスクエア展	令和3年4月19日(月)～4月25日(日)	7日	822
アトリ絵の会作品展「ジオパークを描く」	令和3年4月26日(月)～5月2日(日)	7日	490
菅原雪嶺書作展【書の楽しさを追い続ける】	令和3年5月3日(月)～5月6日(木)	4日	380
岸洋子回顧展～生誕88年・30回忌～	令和3年5月24日(月)～5月30日(日)	7日	838
第25回篁翠会会員展	令和3年6月21日(月)～6月27日(日)	7日	417
第20回東邦書道会庄内支部会展	令和3年6月30日(水)～7月4日(日)	5日	403
第29回酒田如月水墨画会展	令和3年9月6日(月)～9月12日(日)	7日	453
佐藤夕カヒロ漫画原画展	令和3年9月14日(火)～9月26日(日)	13日	1,640
第65回酒田市民美術展	令和3年10月24日(日)～10月30日(土)	7日	681
山岳写真家 白旗史朗「名峰鳥海山の四季」セレクション&鳥海山・飛島ジオパークの魅力展	令和4年3月1日(火)～3月13日(日)	12日	333
11展示		80日間	6,690人

R  
3



茂木玲子写真展「魚と街」



第18回菅原真理子キルトスクエア展



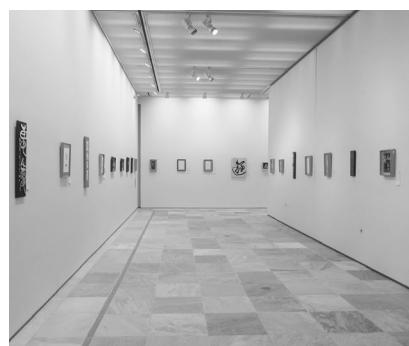
アトリ絵の会作品展「ジオパークを描く」



菅原雪嶺書作展【書の楽しさを追い続ける】



岸洋子回顧展～生誕88年・30回忌～



第25回篁翠会会員展

## 4. 入館状況 令和3(2021)年度

展覧会名	会期	一般	高・大学生	小・中学生	会員券・招待 観察等	計	(人)
アンティークドールの夢展	令和3年3月20日～5月16日	744	17	75	1,819	2,655	
今森光彦 「自然と暮らす切り紙の世界」展	5月22日～7月9日	1,121	7	239	2,694	4,061	
つくる展 —TASKOファクトリーの ひらめきをかたちに—	7月17日～8月29日	6,216	155	2,936	3,899	13,206	
魔女がやってきた 角野栄子展	9月4日～10月17日	1,964	41	344	3,121	5,470	
第76回県美展酒田巡回展・ 第63回こども県展	11月10日～11月15日	657	10	164	870	1,701	
令和2・3年度市町村立美術館活性化事業 第21回共同巡回展 板橋区立美術館・ 豊島区所蔵 池袋モンパルナス —画家たちの交差点—	11月20日～令和4年1月10日	572	4	46	1,483	2,105	
酒田市美術館収蔵品 生誕100年高橋剛展	1月15日～2月6日	116	3	11	939	1,069	
酒田市美術館収蔵品 生誕100年佐藤昌祐展	2月11日～3月13日	187	4	12	506	709	



第20回東邦書道会庄内支部会展



第29回酒田如月水墨画会展



市民美術展展示風景



山岳写真家 白旗史朗「名峰鳥海山の四季」  
セレクション&鳥海山・飛島ジオパーク  
の魅力展

2020 2021  
令和2年度～令和3年度

# 展覧会ポスター

## 令和2(2020)年度 特別展



生誕100年

### 國領經郎展

— 静寂なる砂の景 —

2020年3月7日(土)～4月12日(日)

休館日：3月月中旬は曜日休館。4月からは無休

時 間：午前9時～午後5時（最終入館は午後4時30分）

観覧料：一般900円（800円）、大学・高校生450円（400円）、中学生以下無料

※（ ）内は20名以上の团体料金。

※お子様会員料は、2,400円で2名まで（年間何回でもご利用できます（3月末まで購入分）。

※月1回購入する会員料は、3,000円で3名まで（年間何回でもご利用できます）。

主 催：公益財団法人酒田市美術館、茨壳新聞社、美術館連絡協議会

共 催：酒田市、酒田市教育委員会

協 力：フジオム、大日本印刷、損保ジャパン日本興亜

特別協力：横浜美術館、國領經郎攝影会

酒田市美術館 [www.saikata-art-museum.jp](http://www.saikata-art-museum.jp)

KOKURYŌ Tsunērō : Commemorating the 100th Anniversary of His Birth — The Quiet Scenery with Sand —

生誕100年 國領經郎展 —静寂なる砂の景—

砂上の旅人。

関連企画

国領經郎展（日曜会員・国連関連企画会員）による  
オンライン講座  
「国連の持続可能な開発目標（SDGs）の実現に向けた  
国連の取り組みとその意義」

日 時：3月7日(土)  
10：30～11：30、14：00～15：00

申込方法  
オンラインチケット

（100円）、料金・料金・支払方法、施設・施設開設会員、  
10分、DVD形式

講師：国連の持続可能な開発目標（SDGs）の実現に向けた  
国連の取り組みとその意義

（「SDGs」は、国連の国連開発計画として実施

日 時：3月7日(土)～8日(日) 10：30～11：30

場 所：オンライン

申込料：各回100円（料金は別途料金を收取します）

申込方法  
オンラインチケット

日 時：3月12日(木)～13日(金)、21日(木)、4月12日(日)

11：00～12：00

申込方法  
オンラインチケット

日 時：3月12日(木)～13日(金)、21日(木)、4月12日(日)

14：00～15：00

申込方法  
オンラインチケット

日 時：3月8日(日) 午後2時から開設受付

（020-731-0460）

※お子様会員料は2,400円で2名まで（年間何回でもご利用できます）。

※月1回購入する会員料は3,000円で3名まで（年間何回でもご利用できます）。

※（ ）内は20名以上の团体料金。

※お子様会員料は、2,400円で2名まで（年間何回でもご利用できます（3月末まで購入分）。

※月1回購入する会員料は、3,000円で3名まで（年間何回でもご利用できます）。

主 催：公益財団法人酒田市美術館、茨壳新聞社、美術館連絡協議会

共 催：酒田市、酒田市教育委員会

協 力：フジオム、大日本印刷、損保ジャパン日本興亜

特別協力：横浜美術館、國領經郎攝影会

酒田市美術館 [www.saikata-art-museum.jp](http://www.saikata-art-museum.jp)

国連開設によるオンライン講座

料金：100円、料金・料金・支払方法、施設・施設開設会員、  
10分、DVD形式

講師：国連の持続可能な開発目標（SDGs）の実現に向けた  
国連の取り組みとその意義

（「SDGs」は、国連の国連開発計画として実施

日 時：3月7日(土)～8日(日) 10：30～11：30

場 所：オンライン

申込料：各回100円（料金は別途料金を收取します）

申込方法  
オンラインチケット

日 時：3月12日(木)～13日(金)、21日(木)、4月12日(日)

11：00～12：00

申込方法  
オンラインチケット

日 時：3月12日(木)～13日(金)、21日(木)、4月12日(日)

14：00～15：00

申込方法  
オンラインチケット

日 時：3月8日(日) 午後2時から開設受付

（020-731-0460）

※お子様会員料は2,400円で2名まで（年間何回でもご利用できます）。

※月1回購入する会員料は3,000円で3名まで（年間何回でもご利用できます）。

※（ ）内は20名以上の团体料金。

※お子様会員料は、2,400円で2名まで（年間何回でもご利用できます（3月末まで購入分）。

※月1回購入する会員料は、3,000円で3名まで（年間何回でもご利用できます）。

主 催：公益財団法人酒田市美術館、茨壳新聞社、美術館連絡協議会

共 催：酒田市、酒田市教育委員会

協 力：フジオム、大日本印刷、損保ジャパン日本興亜

特別協力：横浜美術館、國領經郎攝影会

酒田市美術館 [www.saikata-art-museum.jp](http://www.saikata-art-museum.jp)

国連開設によるオンライン講座

料金：100円、料金・料金・支払方法、施設・施設開設会員、  
10分、DVD形式

講師：国連の持続可能な開発目標（SDGs）の実現に向けた  
国連の取り組みとその意義

（「SDGs」は、国連の国連開発計画として実施

日 時：3月7日(土)～8日(日) 10：30～11：30

場 所：オンライン

申込料：各回100円（料金は別途料金を收取します）

申込方法  
オンラインチケット

日 時：3月12日(木)～13日(金)、21日(木)、4月12日(日)

11：00～12：00

申込方法  
オンラインチケット

日 時：3月12日(木)～13日(金)、21日(木)、4月12日(日)

14：00～15：00

申込方法  
オンラインチケット

日 時：3月8日(日) 午後2時から開設受付

（020-731-0460）

※お子様会員料は2,400円で2名まで（年間何回でもご利用できます）。

※月1回購入する会員料は3,000円で3名まで（年間何回でもご利用できます）。

※（ ）内は20名以上の团体料金。

※お子様会員料は、2,400円で2名まで（年間何回でもご利用できます（3月末まで購入分）。

※月1回購入する会員料は、3,000円で3名まで（年間何回でもご利用できます）。

主 催：公益財団法人酒田市美術館、茨壳新聞社、美術館連絡協議会

共 催：酒田市、酒田市教育委員会

協 力：フジオム、大日本印刷、損保ジャパン日本興亜

特別協力：横浜美術館、國領經郎攝影会

酒田市美術館 [www.saikata-art-museum.jp](http://www.saikata-art-museum.jp)

国連開設によるオンライン講座

料金：100円、料金・料金・支払方法、施設・施設開設会員、  
10分、DVD形式

講師：国連の持続可能な開発目標（SDGs）の実現に向けた  
国連の取り組みとその意義

（「SDGs」は、国連の国連開発計画として実施

日 時：3月7日(土)～8日(日) 10：30～11：30

場 所：オンライン

申込料：各回100円（料金は別途料金を收取します）

申込方法  
オンラインチケット

日 時：3月12日(木)～13日(金)、21日(木)、4月12日(日)

11：00～12：00

申込方法  
オンラインチケット

日 時：3月12日(木)～13日(金)、21日(木)、4月12日(日)

14：00～15：00

申込方法  
オンラインチケット

日 時：3月8日(日) 午後2時から開設受付

（020-731-0460）

※お子様会員料は2,400円で2名まで（年間何回でもご利用できます）。

※月1回購入する会員料は3,000円で3名まで（年間何回でもご利用できます）。

※（ ）内は20名以上の团体料金。

※お子様会員料は、2,400円で2名まで（年間何回でもご利用できます（3月末まで購入分）。

※月1回購入する会員料は、3,000円で3名まで（年間何回でもご利用できます）。

主 催：公益財団法人酒田市美術館、茨壳新聞社、美術館連絡協議会

共 催：酒田市、酒田市教育委員会

協 力：フジオム、大日本印刷、損保ジャパン日本興亜

特別協力：横浜美術館、國領經郎攝影会

酒田市美術館 [www.saikata-art-museum.jp](http://www.saikata-art-museum.jp)

国連開設によるオンライン講座

料金：100円、料金・料金・支払方法、施設・施設開設会員、  
10分、DVD形式

講師：国連の持続可能な開発目標（SDGs）の実現に向けた  
国連の取り組みとその意義

（「SDGs」は、国連の国連開発計画として実施

日 時：3月7日(土)～8日(日) 10：30～11：30

場 所：オンライン

申込料：各回100円（料金は別途料金を收取します）

申込方法  
オンラインチケット

日 時：3月12日(木)～13日(金)、21日(木)、4月12日(日)

11：00～12：00

申込方法  
オンラインチケット

日 時：3月12日(木)～13日(金)、21日(木)、4月12日(日)

14：00～15：00

申込方法  
オンラインチケット

日 時：3月8日(日) 午後2時から開設受付

（020-731-0460）

※お子様会員料は2,400円で2名まで（年間何回でもご利用できます）。

※月1回購入する会員料は3,000円で3名まで（年間何回でもご利用できます）。

※（ ）内は20名以上の团体料金。

※お子様会員料は、2,400円で2名まで（年間何回でもご利用できます（3月末まで購入分）。

※月1回購入する会員料は、3,000円で3名まで（年間何回でもご利用できます）。

主 催：公益財団法人酒田市美術館、茨壳新聞社、美術館連絡協議会

共 催：酒田市、酒田市教育委員会

協 力：フジオム、大日本印刷、損保ジャパン日本興亜

特別協力：横浜美術館、國領經郎攝影会

酒田市美術館 [www.saikata-art-museum.jp](http://www.saikata-art-museum.jp)

国連開設によるオンライン講座

料金：100円、料金・料金・支払方法、施設・施設開設会員、  
10分、DVD形式

講師：国連の持続可能な開発目標（SDGs）の実現に向けた  
国連の取り組みとその意義

（「SDGs」は、国連の国連開発計画として実施

日 時：3月7日(土)～8日(日) 10：30～11：30

場 所：オンライン

申込料：各回100円（料金は別途料金を收取します）

申込方法  
オンラインチケット

日 時：3月12日(木)～13日(金)、21日(木)、4月12日(日)

11：00～12：00

申込方法  
オンラインチケット

日 時：3月12日(木)～13日(金)、21日(木)、4月12日(日)

14：00～15：00

申込方法  
オンラインチケット

日 時：3月8日(日) 午後2時から開設受付

（020-731-0460）

※お子様会員料は2,400円で2名まで（年間何回でもご利用できます）。

※月1回購入する会員料は3,000円で3名まで（年間何回でもご利用できます）。

※（ ）内は20名以上の团体料金。

※お子様会員料は、2,400円で2名まで（年間何回でもご利用できます（3月末まで購入分）。

※月1回購入する会員料は、3,000円で3名まで（年間何回でもご利用できます）。

主 催：公益財団法人酒田市美術館、茨壳新聞社、美術館連絡協議会

共 催：酒田市、酒田市教育委員会

協 力：フジオム、大日本印刷、損保ジャパン日本興亜

特別協力：横浜美術館、國領經郎攝影会

酒田市美術館 [www.saikata-art-museum.jp](http://www.saikata-art-museum.jp)

国連開設によるオンライン講座

料金：100円、料金・料金・支払方法、施設・施設開設会員、  
10分、DVD形式

講師：国連の持続可能な開発目標（SDGs）の実現に向けた  
国連の取り組みとその意義

（「SDGs」は、国連の国連開発計画として実施

日 時：3月7日(土)～8日(日) 10：30～11：30

場 所：オンライン

申込料：各回100円（料金は別途料金を收取します）

申込方法  
オンラインチケット

日 時：3月12日(木)～13日(金)、21日(木)、4月12日(日)

11：00～12：00

申込方法  
オンラインチケット

日 時：3月12日(木)～13日(金)、21日(木)、4月12日(日)

14：00～15：00

申込方法  
オンラインチケット

日 時：3月8日(日) 午後2時から開設受付

（020-731-0460）

※お子様会員料は2,400円で2名まで（年間何回でもご利用できます）。

※月1回購入する会員料は3,000円で3名まで（年間何回でもご利用できます）。

※（ ）内は20名以上の团体料金。

※お子様会員料は、2,400円で

令和2(2020)年度 収蔵品展



## いわさきちひろ ピエゾグラフ展



## 生誕110年 斎藤長三展

## 山村・村落を描いたふる里の画家

酒田市美術館収蔵品展 |

## 生誕 110 年 斎藤長三展

会期: 5月18日(月)~7月12日(日)

時間:9:00~17:00(最終入館は16:30)

観覧料:一般700円、高校生350円、中学生以下無料

公益財団法人

# 酒田市美術館

〒998-0055

山形県酒田市飯森山3丁目17-95  
電話0234(21)9005

電話0234(31)0095

## 令和3(2021)年度 特別展



アンティークドールの夢展 一児玉幸雄コレクション



酒田市美術館・土門拳記念館共同企画  
今森光彦「自然と暮らす切り紙の世界」展



つくる展 一TASKOファクトリーのひらめきをかたちに



魔女がやってきた 角野栄子展

## 令和3(2021)年度 収蔵品展



第76回県美展酒田巡回展・第63回こども県展



生誕100年 高橋剛展

令和2・3年度市町村立美術館活性化事業 第21回共同巡回展  
橋本区立美術館・豊島区所蔵 池袋モンパルナス—画家たちの交差点—

生誕100年 佐藤昌祐展



令和2年度▶令和3年度

# 学芸員研究紀要

2020~2021

## はじめに

これまで美術評論家や学芸員が國領經郎の芸術を語る時、『砂の風景』(國領經郎、學習研究社、1985年)をはじめとする著書や、雑誌や新聞、テレビでのインタビューなど、画家自身から発せられる言葉を頼りに論考されてきた。没後20年となり、國領が自身の芸術論を語ることが出来なくなつた今、國領が残した数多くの文章は、國領の絵画世界を紐解くための大きな手掛かりとなつてゐる。

一方で、國領は文章のほかにも貴重な資料を多く残した。それは、スケッチブックやエスキース、砂丘の取材で撮った写真などである。主なエスキースや素描は、横浜美術館、酒田市美術館、横浜国立大学に収蔵されている。これらの資料に加え、2020年に鳥取県立博物館(鳥取県)、酒田市美術館(山形県)、茅ヶ崎市美術館(神奈川県)を巡回した『生誕100年 國領經郎展－静寂なる砂の景』の展覧会開催準備にあたり、遺族よりスケッチブックや写真なども提供された。また、國領は、『6月10日の自画像』(1987年)の制作過程の密着取材を受け、自身の技法について詳しく説明している(『特集 國領經郎：東洋的絵画空間を油絵に求めて－砂の風景を描く－CREATORS IN JAPAN』、『アトリエ』、第732号、2月号、1988年2月1日、41-56頁)。本論では、國領が残したこれらの資料を参考に、國領の絵画がどのような工程を辿つて構築されていったのかを検証する。

## 1. スケッチや写真資料から —視覚的経験の断片を集めて—

國領は、鳥取砂丘、庄内砂丘、中田島砂丘、湘南砂丘、浜岡砂丘など、全国各地の砂丘を取材で訪れ、スケッチし、資料として多くの写真を撮っていた。長期の旅行では、スケッチの紙を300枚ほどまとめて先に旅行先の宿へ郵送してしまうほど、スケッチすることは絵画制作の準備段階として、必要不可欠であった。

國領は著書『砂の風景』で次のように述べている。

最近の私は、好んで風景を描くが、それとて、絵具箱やキャンバスをかかえて現場にのぞむことをしない。描く時間より眺める時間の方が多く、脳裏のテープに記憶させるという姿勢をとっている。もちろん、スケッチブックはつねに身から離さない。そのようにして蓄積された視覚的経験が、ある時、ある対象に直面して呼び醒され、一つの風景が構成される。それは多くの場合、現実のままの風景ではなく、私の風景であり、視覚的経験として記憶された素材が重なり合っているのである。<sup>(註1)</sup>

國領は、砂丘や海岸に月に一度は足しげく通い、スケッチをしながら、目の前に広がる砂丘を眺め、心の中にその風景を焼き付けていたのである。

國領の「砂の風景」との出会いは、新人教師として赴任した柏崎時代であったが、この砂のイメージが國領の絵画世界に投影されるまでには、点描の時代を経て約30年の月日を要している。長い歳月が実際に見たであろう風景を少しづつ濾過し、日常生活の体験や、心情の変化と混ざり合って、いつしか國領の心象風景と変化する。そして、来るべき時に、その心象風景は画家の手によって一つの作品へと昇華される。國領の旅先でのスケッチや写真、若しくはエスキースは、画家がこれまで心の中にインプットしてきた数々の視覚的経験の断片だと言えるだろう。私達はこれらの資料、言い換えれば「画家の視覚的経験の断片」をかき集め、重ねたり、組み合わせることによって、國領の絵画世界の静かな始まりを知ることができ

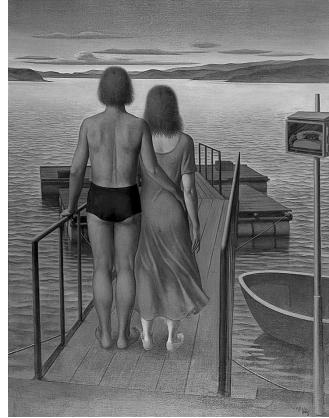


fig.1) 『暁色』、1986年、油彩、  
酒田市美術館収蔵



fig.2) 『暁色』のためのスケッチ  
1985年頃、鉛筆、酒田市美術館収蔵



fig.3) 船乗り場に立つ昭子夫人



fig.4) 船乗り場に立つ國領經郎

るのではないだろうか。

作品調査の中で、『暁色』(fig.1)について新たな発見があったことから本作を中心検証していく。まず、本作のスケッチは2枚あり、そのうちの1枚は『暁色』のためのスケッチ(fig.2)である。残り1枚のスケッチもほぼ同じ構図で描かれている。國領にしては珍しく『砂の風景』ではなく、船乗り場に佇む男女を描いた作品である。スケッチと比較すると、タブローに描かれた『暁色』は、乗り場にあったストライプ柄の屋根や、左側にあった乗り場、さらに後方にある建物などが省かれ、反対に、男女の立つ右側に1隻のボートと電話ボックスが加えられている。また、スケッチからは、描かれた場所を特定することは出来なかった。

筆者は当初、タブローとスケッチからどこか湖のボート乗り場だと推測していた。今回、遺族である成田篤彦氏より、國領が撮影した大量の写真を提供していただいた。その中に、『暁色』の場所と推測される写真が31枚も発見された。

筆者は、写真に写っていた船の上の案内板に航路が掲示されていることを見つけ、その航路から、三重県英虞湾周辺の定期船乗り場ということを特定した。基となった風景は湖ではなく、リアス海岸の船乗り場だったことが判明した。写真の多さやスケッチが2枚あることから、國領はこの場所に立った時点で作品にしたいという強い衝動に駆られたと推測する。

また、31枚の写真の中には、船乗り場で昭子夫人を後ろ向きに立たせた写真(fig.3)や、國領自身が船乗り場に立つ写真や後ろ向きに立つ写真があり(fig.4)、『暁色』に描かれた男女の姿勢に非常に酷似していた。このことから、描かれた後ろ向きの男女は、國領夫妻をモデルにした可能性が高く、本作は夫妻の肖像画の作品と位置づけられる。これまで、國領作品の中でも昭

#### 凡例

\* 本論は、武内治子「國領經郎の制作過程を探って」『生誕100年 國領經郎展 - 静寂なる砂の景 -』図録、鳥取県立博物館、公益財団法人酒田市美術館、公益財団法人茅ヶ崎市文化・スポーツ振興財団、2020年、p.124-125をもとに加筆・修正を加えたものである。

子夫人をモデルにした作品は『絵のある座像』(1953年)や『赤い服のA子』(1954年)があり、また『遙眺』(1992年)のように画家の自画像とも言える作品は確認できる。しかし、夫妻の姿が同時に描かれた作品は希少である。

ここで注意したいことは、國領は夫妻の姿をあるがままに描いたわけではないということである。撮影された年もスケッチと同じとするならば1985年頃となり、この時國領は66歳でとうに還暦を過ぎている。一方で、タブローに描かれた男女は、男性は水着、女性も紫色のワンピースを着て、2人とも肌の質感や身体の量感から若々しい印象を受ける。國領は、1970年代から若者の群像を描いているが、それは若者たちの内面に宿る孤独や孤立感を表現するためであった。本作の若い男女の姿が、國領夫妻を投影させて描いた作品であるならば、國領自身もまた若者たちの姿を借りて、若者と同じような孤独や孤立感を生涯持ち合わせていたということであろう。

## 2. 絵画制作の工程について

月刊雑誌『アトリエ』の特集で、國領は『6月10日の自画像』(1987年)の下地から完成まで全工程の密着取材を受けている。今後の國領芸術の研究において、画家の制作過程を知る上での貴重な手掛かりとなるため、この特集を基に1970年代以降から描かれた『砂の風景』の絵画制作プロセスについて紹介していく。

國領絵画の特徴として、最初に挙げられるのは、独特の砂色と空や海といった「國領ブルー」である。國領独特的色彩は、國領が絵画世界で常に追求してきた「孤独」や「孤愁」などの情感を醸し出す重要な要素の一つである。

まず、國領はこの色彩を表現する上で二つの工程を踏んでいる。一つは、絵の具づくりである。國領の微妙な色彩は既成の絵の具では表現できない。特に砂色は、画面の半分以上を占める重要な色のため、画家自身が絵の具を調合する必要があった。國領のアトリエには特注で作った道具箱があり、道具箱の上は大理石がはめ込まれていて、その上で絵の具を丁寧に練り合わせる。砂色はイエローオーカーとグレイ・オブ・グレイを同量、そして國領の目分量でホワイトを加え、リンシードオイル(乾性油)を少量混ぜ合わせる。完成した絵の具は、特別に発注した空の絵の具チューブに詰めて使用した。



fig.5)『海の風景(絶筆)』1999年、油彩、酒田市美術館収蔵

(fig.5)は、未完作であるので確認しやすい。勿論、國領もライトレッドは、上に別の色を塗り重ねても表面に出やすい色だと自覚していたが、それがかえって砂色や空の色に深みを与える効果があると考えていた。

次にエスキースを基に、カンヴァスに水性ペンで下書きをする。水性ペンであれば、後から消したい線が出てきても、濡れた布で拭き取ることができ、また、絵の具を上に乗せても油に溶けないので染み出す懼れもない。下書きを終えたら、下地の色が見えなくなるまで、3~4回程度、色を塗り重ねていく。砂丘の特徴である風紋は、スケッチや写真を参考にしながら、グレイの絵の具で砂の影を

描いていく。細部を描き込んだら、仕上げとして、溶き油(リンシードオイルとテレピンを混合したもの)でぼかした絵の具を刷毛で薄く掃くようにして塗っていく<sup>(註2)</sup>。



fig.6)色紙を切り取った鳥のシルエット  
(酒田巡回展での展示風景)

國領は、納得がいくまで画面の構図を変えていくタイプの画家で、例えば、制作過程で鳥をつけ足したり、その逆に消したりする場合もある。國領の絵画に頻繁に登場する鳥のモチーフは、紙で切り取った鳥のシルエットを何パターンも作り、それをカンヴァスの上に何度も置いて構図や形を決め

ていった(fig.6)。また、実際に模型を作って、モチーフのイメージを把握する手法も取り入れた。陰影や角度の研究のため、翼の立体模型を作って検証してみたり、無人のボートも國領の絵画に欠かせないモチーフであるが、全長1mの模型を船大工に特注で作らせたりしている。対象のイメージを自身の中で落とし込むまで徹底的に観察しデッサンを重ねる。こうした日々の積み重ねにより、國領の絵画世界は形成されていった。

これまで述べてきた月刊雑誌『アトリエ』の特集では、國領の絵画世界を構築していく上で重要な絵の具の調合、下地の塗り、そして、画面を構成するモチーフへの徹底した研究の姿勢を見せる國領の姿を紹介している。國領がスケッチブックに記したメモには、「絵画空間の性格は選択する材料(特に絵具)によって限定されるところが大きい。<sup>(註3)</sup>」「材料における純粋とは何か。画家は材料について貪欲でなければならない<sup>(註4)</sup>」と度々絵画制作に使用する材料の重要性について指摘している。國領は、絵の具の特性を十分理解し、見極めて材料を選定することで、微妙なニュアンスの色彩を作ることに成功した。また、國領の絵画世界は時として超現実的だと言われ、自身も意識していたに違いない。しかし、制作過程をたどっていくと、鳥やボートなどを徹底して観察する姿勢から、リアルな自然、リアルな現実が國領絵画の根底にあることが分かるだろう。

## 3. おわりに

スケッチや写真などの資料から國領が絵画を描くまでの構想の経緯を巡り、さらにタブローを描き始めて完成までの工程を紹介した。國領は、自身のイメージをカンヴァスに描き込むまで、全国の砂丘を取材し続け、スケッチをし、写真資料を貯め込んだ。そう考えると、現場主義の画家とも言える。また、砂の上の若者たちの群像は、彼らの孤独を表現している。さらに、『潮溜』(1996年)のように環境問題を想定させる作品も描いており、画中に描かれている投棄された自転車の実際の写真も今回の調査で発見している。常に現代の社会問題を冷静な視点で観察する画家でもあった。

國領の絵画世界は常に現実世界の延長線上にあったのではないか。國領の絵画は、単に幻想に満ちた世界ではなく、実証に基づいた鳥やボート、廃棄された自転車といったモチーフや風景が根底にある。だからこそ、私たちは絵画に込められた國領の孤独を読み取り、共感し画家の描く絵画世界に心惹かれて続けるのである。

(註1) 國領經郎「風景のなかの人物」「砂の風景」、学習研究社、1985年、p.121

(註2) 國領の場合、溶き油の割合はリンシードとベネチアテレピンを2:1の割合で調合し、さらにテレピンを1:4の割合で混ぜ合わせている。調合の割合によって、絵の具の透明性が変わる。

(註3) 前掲書、「スケッチブックのメモ」p.148

(註4) 前掲書、p.148

# 庄内の画家たちと 池袋モンパルナスの繋がり

学芸主任 武内 治子

## はじめに

1920年代以降、現在の池袋を中心とする地域に芸術家向けのアトリエ付き住宅が次々と建ち始めた。これらの物件は家賃が安かつたために、日本各地より上京した画学生、画家、彫刻家、詩人、評論家などの芸術家たちが集い、いくつかの「アトリエ村」と呼ばれる一画が形成されていった。アトリエ村は「さくらが丘パルテノン」、「つつじが丘アトリエ村」、「すずめが丘アトリエ村」など称され、1930～40年代の最盛期には数百人の芸術家たちが住んでいたと言われている。この界隈では、芸術家が暮らし、制作し、そして互いの家を行き来しながら時には熱い芸術論を交わすなど、会派を超えた繋がりによって、新たなアートシーンを生み出す場となっていた。アトリエ付き住宅が建ち並ぶこの様子は、芸術の都パリになぞらえて「池袋モンパルナス」と呼ばれていた。

さて、庄内地域は、鶴岡市と酒田市を核とした2市3町で構成され、山形県の日本海側に位置し、海と山に囲まれた広大な平野が広がる自然豊かなエリアである。東京から遠く離れた庄内地域と池袋モンパルナスが一体どんな繋がりがあるのか——と、疑問に思う方も多いのではないだろうか。実は、池袋界隈に住んでいた画家の中には、庄内地域出身の画家がいる。鶴岡市出身の斎藤求と今井繁三郎、酒田市出身の小野幸吉と斎藤長三である。アトリエ村の画家たちは、北海道や沖縄など各地から上京してきた者が多く集まっていたが、東北の庄内地域という限られた範囲で、4人の画家を輩出したことは特筆すべき事柄である。また、彼らが池袋モンパルナスの画家たちと交流したこと、庄内地域の芸術・文化にどのような作用がもたらせたのかについては、これまで検証されて来なかつた。

本稿では、池袋モンパルナスの画家たちと庄内の関わり合いについて、彼らの残した交流の痕跡を辿り、郷土の美術団体である白堜社の活動や、東北出身者で結成された「東北生活美術研究会」の活動にも触れながら明らかにしたい。

## 1. 小野幸吉と大野五郎の青春

庄内地域出身の画家で初めてアトリエ村に住んだのは「酒田のゴッホ」と称された小野幸吉である。小野幸吉は1909（明治42）年、酒田市に生まれ、酒田中学校（現・県立酒田東高等学校）で、油彩を描きはじめるが、ほとんど独学で習得する。小野は、画家を志して1925年に上京、太平洋画会研究所に通い、翌年には川端絵画研究所で、親友となる大野五郎と出会う。1926（大正15）年頃に、小野は長崎にある林武の家の隣へ移り住む。しばらくして、林が引つ越す際、絵具で畳が汚れていたため、大家から畳を取り換えるよう請求されたが、年下の絵書きである小野を住まわせることによって、畳の弁償を免れたと林は後に回想している<sup>(1)</sup>。小野は、1928（昭和3）年に一九三〇年協会が設立されると大野とともに通い、里見勝蔵、林武らに師事し、田中佐一郎や峰村リツ子らと親交を深めながら、制作に励む日々を送った。小野は1928年と1929年、一九三〇年協会展に連続で出品している。体の弱かった彼はまさに命を削りながら精力的に作品を描き、1930年1月8日、20歳の若さでこの世を去った。同年、一九三〇年協会展に小野の遺作3点が黒いリボンを添えられ、特別陳列された。

画家の大野五郎は小野との出会った頃のことを次のように回想している。

雨のどしゃぶりに降った春先の寒い頃、水道橋駅のプラットホームで彼と最初に話した。その頃、彼も私も川端研究所に通っていたが、お互い知らん顔していたので口を開くことはなかった。その

研究所の帰り、紺の詰襟を不器用に着た彼が大きな目玉をくりくりさせて、私の肩をきまり悪そうに叩いた。「俺の友達にならんか」と言うので、私はうんと答えた。私は彼より一つ年下だった。立て続けに彼は饒舌<sup>しゃべ</sup>り出した。「俺は十九で小野って者だ。故郷は酒田で恋人がいるんだ。」（中略）彼は、何枚か自分の絵を示して批評しようと責めた。あまりに美しい、強烈な小野の色彩に驚いて、私はなんにも言わないのでいた。彼は不平そうな顔つきで、「こんな絵びら」とかなんとか、ぶりぶり呟きながら、引込まれてしまった。彼の顔はだんだん蒼褪めてきた。「もう君帰ってくれないか」と突然せわしく言いだして、鼻の先に手をあげたら、真っ赤な鼻血が紺の服にどくどく流れ落ちた。私は不愉快な気持ちで雨の中を帰った。

私は彼を好きになった。それから四年友情を熱くしてきた。一緒に酒を飲んだ。喧嘩もした。街から街へと夜遅くまで彷徨いたことも度々だった。彼の故郷に旅行した夏の記録も、今となれば楽しく悲しい。（中略）懐かしいものだ。想い出すことは沢山あるが私には何も書けない。小野も絵が描けないで淋しからう。<sup>(ii)</sup>



fig.1)写真「小野幸吉」  
撮影：大野五郎

二人の青春の日々が熱く語られたこの回想から分かるように、大野と小野は互いに生涯の友として認め合っていた。

小野幸吉の画集や雑誌の特集で必ず掲載される肖像写真がある（fig.1）。この写真は、大野が1927年6月15日に撮影した小野の姿である。場所は温海温泉で、二人で小野の酒田の実家へ一泊した後に、鶴岡へ移動し滝野屋旅館別館に一か月、スケッチをするため滞在している。大野の夏の旅行の思い出はこの時のことを指している。

二人の師である里見勝蔵は、一九三〇年協会の研究所での彼らの様子について、「一枚の絵で、大野君が手古ずると小野君が描き、小野君が休んだ日は大野君がそれを描いていたのもその頃だ。」と後に回想している。里見は、二人が共作で作品を描くことを咎めるよりもむしろ彼らの友情の証として好意的に見守っていたようだ。また、里見は二人が描く絵は全然違っていたとも証言している。

二人の友情を示す1枚の絵がある。



fig.2) 表：小野幸吉《Aの顔》、油彩、1929年  
裏：大野五郎《無題》

小野幸吉の作品「Aの顔」（fig.2）の裏には、大野五郎が描いた男の肖像が残されている<sup>(iii)</sup>。目を伏せた男を描いた大野に対し、小

## 凡例

\* 本論は、武内治子「庄内の画家たちと池袋モンパルナスの繋がり」『令和2・3年度市町村立美術館活性化事業 第21回共同巡回展 板橋区立美術館・豊島区所蔵 池袋モンパルナス 一画家たちの交差点』図録、第21回共同巡回展実行委員会、2021年、p.126-128をもとに加筆・修正を加えたものである。



fig.3) 小野幸吉《八丈島 三根港》  
1927年、油彩、木、  
八王子市夢美術館蔵(大野五郎旧蔵)

現在八王子夢美術館に収蔵されている (fig.3)。小野の旅行歴から1927年に八丈島へ写生旅行をした時に描いたものだと推測される<sup>(v)</sup>。大野が直接小野から渡されたものなのかは定かではないが、若き日の青春を共にした親友の作品を手元に置いていた大野の想いは計り知れない。

小野が亡き後の1932年、佐藤三郎（本間美術館元館長）の声掛けで、『小野幸吉画集』（金星堂）が300部限定で自費出版された。そこに、池袋モンパルナス周辺の画家たち——師である林武、里見勝藏、そして大野五郎ら友人たち——の追悼文が掲載されたことで、当時無名であった小野の作品が、時を経て美術評論家の洲之内徹の目にとまる。彼は、美術雑誌の編集者から『小野幸吉画集』を借り、実際の絵を見るため1937年に酒田を訪れ、小野作品と対面をする。翌年、自身の運営する現代画廊において、「小野幸吉遺作油絵展」を開催、その後も美術雑誌のエッセー「気まぐれ美術館」でも取り上げ、一気に小野幸吉の作品の評価は高まったのである。

小野の作品を後世に残そうと画集を出版した酒田の人々と、大野五郎をはじめとした池袋モンパルナス周辺の画家たちが繋がり、小野幸吉は死後、「酒田のゴッホ」として全国でも評価される夭折の画家となつたのである。

## 2. 今井繁三郎が繋いだ 白堀社と中央画壇の交流について

色彩の画家とも評される庄内の画家・今井繁三郎は、池袋モンパルナス周辺の画家たちと交流を深めた。そして、故郷の美術団体・白堀社の会員たちの育成及び庄内地域の芸術振興のため、中央画壇で活躍する池袋モンパルナスの画家たちの作品を白堀社展に特別陳列するという画期的な企画を立ち上げた人物である。本章では、今井が繋いだ白堀社と中央画壇の交流について考えていく。

今井繁三郎は1910年、鶴岡市に生まれ、鶴岡中学校（現・山形県立鶴岡南高等学校）を卒業した1927年に、画家を志して上京する。1936年、洋画家・鶴田新太の誘いにより美之國に入社し、美術雑誌『美之國』の編集に携わる。『美之國』の取材で、会派を問わず様々な画家たちと親睦を深めたことは、後に庄内地域の美術団体・白堀社に、大きな影響を及ぼすことになる。1937年頃、今井は豊島区長崎一丁目19番地に転居した<sup>(vi)</sup>。

鶴岡市の美術団体・白堀社は、1924年に創設され、庄内では歴史の長い美術団体である。1924年、当時鶴岡では手薄だった洋画の研究と地方美術の振興を目的として、鶴岡中学校の生徒であった18歳の星川清健（野坂貞勇）が、斎藤求ら6名の同志とともに、白堀社の前身となる「白虹社」を創立した。翌年には「白堀社」に改名し、鶴岡中学校の在校生が中心となり活動するが、酒田中学校（現・山形県立酒田東高等学校）の小野幸吉と佐藤三郎が第1回展、第2回展に出品している。白堀社はその後も、I部（鶴岡中学校在校

野は、まっすぐ前を見つめる成端な顔つきの男の肖像を描いている。二人は当時、新しい表現方法であったフォーヴィズムに傾倒していたが、大野の方が漆黒の太い輪郭線と激しい筆致で描いている。二人の作品は全然違うと評価した里見の証言のとおりである。

大野が晩年まで大切にしていた小野の作品が、

生)、II部（卒業生）を同人とし、さらに一般人も1931年より出品できるように開放する。1937年には、II部同人の中から、中央画壇の美術団体に入選する者もいて、斎藤求（独立展、日本水彩展）、今井繁三郎（自由美術展）、山本甚作（朔月会）らがその後同団体を牽引していく。

このように、1920年代から庄内地域には、学生の創作発表の場があったことにより、同年代の画家を志す若者を多く輩出する土壤が既に出来ていた。

1938年、今井は画期的な企画を立ち上げる。第24回白堀社展において、池袋モンパルナス界隈の画家たちをはじめとする中央画壇の作家8名の作品20点を特別陳列するのである。出品作家は、北川民次、難波田龍起、藤田嗣治、山口薰、三岸節子、向井潤吉、猪熊源一郎、山崎省三である。

今井は、その後も出品作家を変えながら、1940年まで中央画壇で活躍する作家の作品を特別陳列する。

1939年の第25回展による特別陳列作家は、福沢一郎、海老原喜之助、安井曾太郎、野田英夫（故）、木村莊八、中川紀元、伊勢正義、矢橋六郎、内田巖の9名で、計12点の作品が展示された。

1940年は皇紀2600年奉祝第26回記念に先駆け、北川民次を招き、講演会及び実技講習会が行われた。参加者は教員や学生、同行者50名余りが参加した。第26回展での特別陳列作家は、23名で43点の作品展示という大規模なものであった (fig.4)。

なお、同展の目録では25回と記載されているが、前後の目録により、正しくは26回である。特別陳列された中央画壇の作家は、

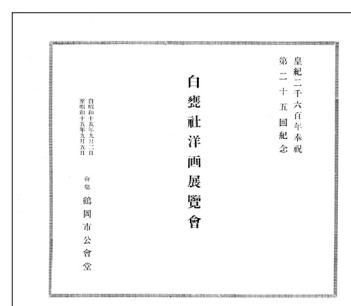


fig.4) 「皇紀2600年奉祝第25回紀念  
白堀社洋画展覧会」目録、表紙

地域の小学生が大勢鑑賞した。興味深いことに、今井繁三郎や斎藤求も当時から自由美術家協会や独立展でそれぞれ活躍していたが、特別陳列には並ばずに、あくまでも白堀社側の一員として陳列されている。一方で、斎藤長三は酒田の生まれだが、独立展で活躍する中央画壇の作家として特別陳列枠で紹介されている。

1945年、今井は、長崎の自宅が空襲で全焼し、自らの作品とこれまでの取材資料を失った。友人で画家の吉井忠の日記にこの日の今井の自宅の様子が克明に記されている。

14日／（中略）東の空、煙で被われ、余燐收まらぬ中に西の空から夜明けが来る。血の色をした太陽。静かな夜明け、全く変わり果てた風景。芝居の舞台が一転したやうだ。見渡すかぎりの焼け野。顔が熱い。目が痛い。口の中がチャリチャリする。今井氏のアトリエに行ってみた。風呂屋の辺から焼け残ってゐるので大丈夫かと思ったが丸焼け。今井氏の所蔵本、ヤキモノ、作品他、全滅に比べれば小生の本、コーモリ、ナベ、ハンゴ等何でもない。いたる所に焼夷弾の筒、畠の大根のやうに突きささってゐる。焼け跡の生活はじまる<sup>(vii)</sup>。

作品や取材資料を全て失った今井は、1945年鶴岡に帰郷し、同じく帰郷した斎藤求らとともに、敗戦の混乱のさなか、第31回展を開催する。翌年、白堜社は帰郷した作家らを中心に、庄内の美術団体としての方向性を話し合い、大きな決断をする。これまで、鶴岡中学校を中心とした伝統を変え、より広く同好者に呼び掛けられるようI部、II部制を廃止し、新たに彫刻部門も設置した。1957年、今井は白堜社委員長に就任し、以後斎藤求らと交互に会長・委員長を務めるようになる。

今井は戦中、中央画壇の作家たちと庄内地域の美術界を繋ぐパイプ役として、大きな役割を果たしていた。戦後も、今井は白堜社の会員に対し、自宅で画談会を開催したり、中央の美術団体へ積極的に出品をすすめたりと、会員たちの成長を切に願っていた。また、今井のほか、斎藤求や山本甚作らが中央画壇で制作活動を続ける一方で、白堜社の活動に積極的に関わり、地方の美術を盛り上げていった功績は大きく、今日の庄内地域の芸術の基盤となっている。今井や斎藤、その他多くの先人たちが築き上げた白堜社は、今年で創立97年を迎え、会員数104名の庄内地域最大規模の美術団体へと成長している。

### 3. 東北生活美術研究会について

東北生活美術研究会は、福島県出身の吉井忠が今井繁三郎に結成を持ちかけたことから始まった。メンバーは吉井忠（福島）、今井繁三郎（山形）、斎藤長三（山形）、福田豊四郎（秋田）、勝平得之（秋田）の5名である。吉井の日記によってその経緯は明らかになっており、今回は吉井の日記と同会の第1回、第2回の展覧会目録を合わせてどのような会だったのか検証したい。

同会は、1943年3月9日に吉井が今井の自宅を訪ね、「東北出身の有能且つ志を同じくする作家を集め年に一度『東北の生活を描く』展を銀座でやらう」と持ち掛け、それに今井が応じ、二人でメンバーを人選して4月13日に結成された。同会では、秋田北部を取材し、課題を「家」として第1回展の準備を進める。吉井の日記では6月18日より秋田へ向かい、翌19日に大館へ入り25日まで秋田に滞在している。秋田に入る前日17日に、斎藤と出発の打ち合わせをしているため、会の皆で秋田へ向かった可能性がある。同年、第1回展が銀座資生堂にて、9月20日から22日まで開催されるが、その目録には副題として、「秋田県北秋田郡、角館郡地方採集」とある。今井は不出品で、吉井が7点、福田が5点、斎藤が6点出品している。尚、勝平の氏名は掲載されていない。目録には曲田部落、別所部落、宮野平部落など描いた場所も記載されている。

1944年3月6日から8日まで第2回展が銀座資生堂にて開催される。同展目録によれば、今井が8点、吉井が5点、福田が8点である。斎藤は風邪で出品が叶わなかった<sup>(x)</sup>。今回、副題は無いが、描いた場所は、藤島、京田村、莊内、鶴岡、温海町暮坪、秋田裏日本と記載されており、鶴岡（庄内地域）を中心としたテーマで描いている。2月12日から吉井は、秋田行の汽車に乗って、翌13日温海、14日五十川と鶴岡、16日には月山、羽黒へ滞在している。恐らく、制作のための取材を行ったと思われる。また、興味深いことに、展覧会最終日に酒田市出身の写真家・土門拳が会場に来て、「次回から一緒にやりたい」と吉井に申し出ている<sup>(x)</sup>。

吉井の日記から同会は吉井と今井が中心となって計画しており、今井は第2回展後の10月7日に吉井を訪ねて、同会のリーフレットを作成しようと持ち掛け、福田への原稿執筆の打診を吉井に依頼している。このことから、二人は同会をさらに充実したものにしようとしていたことが分かる。また、1944年は第2回展以後も、7月10日から7月12日、9月12日から9月14日、10月29日から10月31日と1年間で4回開催されており、吉井はじめ同会メンバー

が精力的に制作に励み、発表した充実の年であった。

東北美術研究会は、5回の展覧会を開催して活動を終えることになるが、目録から推測するに、毎回東北の特定の地域を決め、取材旅行に出かけ、同じ課題で制作する方針があった。

吉井は1943年1月13日の日記に「地方の人々の生活を通して自然を通して何かその辺に流れてる、新しい人間精神と云ふか歴史的精神をつかんでみたい<sup>(xi)</sup>。」と記している。吉井の思いは参加するメンバーに共通したものだったのではないだろうか。

同会のメンバーは洋画、日本画、そして版画と分野が異なっており、また第3回展では写真家の土門拳も加わる計画もあった。会派どころか分野を越えて、東北出身という共通点により結束し、新しいムーブメントを起こそうとしていたのである。

今後の課題として、中央画壇では同会の評価がどのようなものであったのか、また、その後の彼らの作品に何らかの影響があったのか、さらに検証する必要がある。

### おわりに

庄内の画家たちがアトリエ村で暮らし、各地から集まつた画家たちと交流することで、地方美術の活性化に繋がったり、また小野幸吉のように死後池袋モンパルナスの画家たちの証言がきっかけで再評価されたりと、様々な効果をもたらしたことが分かる。そして、戦局が悪化するなかでも、展覧会を開催し、芸術の発展を目指して奔走していた彼らの姿を忘れてはならない。東北地方から上京した彼らは中央画壇で活躍しながら、東北人として何を描き、どう表現していくのかを模索していた姿も東北生活美術研究会の活動を通して僅かながらに見えてきた。2021年に当館で開催された『令和2・3年度市町村立美術館活性化事業 第21回共同巡回展 板橋区立美術館・豊島区所蔵 池袋モンパルナス－画家たちの交差点－』では、洋画の作家中心の展示構成となつたが、アトリエ村には日本画、彫刻、詩人など様々な分野の芸術家が集つておらず、彼らは会派も分野も越えて自由に交流していたのである。

- (i) 林武「小野幸吉を憶ふ」『小野幸吉全画集』、本の会、1987年、p.141
- (ii) 大野五郎「小野幸吉のこと」、前掲書、p.145
- (iii) 里見勝蔵「回想」、前掲書、p.137
- (iv) 1998年に酒田市美術館で開催された『小野幸吉展』の準備のため、備前健吾学芸員が大野五郎に直接確認している。
- (v) 1927年、八丈島の写生旅行では2か月滞在し、友人の堀田清治が同行している。
- (vi) 今井の長女・廣瀬木ノ芽氏によると、1937～1938年頃に長崎に引っ越ししたが、詳細な時期は不明である。
- (vii) 「吉井の日記（1936-1945）書起こし」「池袋モンパルナス展 ようこそ、アトリエ村へ」図録、2011年、板橋区立美術館、p.150
- (viii) 前掲書、p.142
- (ix) 前掲書、p.146
- (x) 前掲書、p.146
- (xi) 前掲書、p.148
- (xii) 前掲書、p.141

### 【参考文献】

図録「創立81周年白堜社美術展 鶴岡アートフォーラム開館記念」  
白堜社、2005年  
「資生堂ギャラリー七十五年史：一九一九～一九九四」  
資生堂、1995年

\*引用部分で原文の旧字・旧仮名遣い箇所については適宜現行のものに改めた。

平成9年度▶令和3年度

# 参考資料

1997~2021

# 沿革

酒田市美術館建設計画推進の経過

平成4年度	<ul style="list-style-type: none"><li>・酒田市民美術館(仮称)建設計画策定協議会設置(以後平成5年5月まで10回にわたり協議)</li><li>・酒田市民美術館整備基金設置(平成4年度から6年度までの3カ年に各1億円ずつ、計3億円を積立て)</li></ul>
平成5年度	<ul style="list-style-type: none"><li>・酒田市民美術館(仮称)建設計画策定協議会から提言提出。</li></ul>
平成6年度	<ul style="list-style-type: none"><li>・設計業務委託(～平成7年7月31日)／用地取得11,135.98m<sup>2</sup>／立木調査業務委託／地盤調査業務委託</li></ul>
平成7年度	<ul style="list-style-type: none"><li>・酒田市民美術館(仮称)建築・機械設備・電気設備工事着手／用地取得11,248.59m<sup>2</sup></li><li>・建設用地縦横断測量及び設計業務委託／建設用地造成工事(造成・土留・既存林補植)</li></ul>
平成8年度	<ul style="list-style-type: none"><li>・酒田市民美術館(仮称)独立壁築造・植栽・外構・外構機械及び外構電気設備工事着手</li><li>・用地最終取得9,131.45m<sup>2</sup></li><li>・酒田市美術館の竣工(3月20日)／管理運営組織「財団法人 酒田市美術館」設立(3月21日)</li></ul>
平成9年度	<ul style="list-style-type: none"><li>・酒田市美術館設置管理条例の施行(4月1日)／酒田市美術館開館式典の開催(10月2日)</li><li>・酒田市美術館開館記念特別展「一卒寿記念—森田茂展」開会式(10月3日)</li></ul>
平成25年度	<ul style="list-style-type: none"><li>・平成25年4月1日 公益財団法人に移行</li></ul>

## 酒田市美術館 受賞記録

- ◆第8回 公共建築賞／平成14年11月28日 国土交通大臣 扇千景
- ◆第5回 やまがた景観デザイン賞 山形県知事賞／平成9年11月14日 山形県知事 高橋和雄
- ◆第39回 建築業協会賞／平成10年11月18日 社団法人 建築業協会 会長 今村治輔
- ◆照明普及賞 優秀施設賞／平成10年5月22日 社団法人 照明学会 照明普及協会 会長 坂田眞



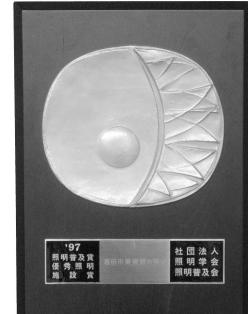
第8回 公共建築賞



第5回 やまがた景観デザイン賞



第39回 建築業協会賞



照明普及賞 優秀施設賞

# 施設概要

整備面積	31,516.0m <sup>2</sup>
総床面積	2,982.54m <sup>2</sup>
建築構造	鉄筋コンクリート造(小屋組一部鉄骨造)／地上1階
駐車場	110台
施工期間	平成7年12月21日～平成9年3月20日(建築工事)
建築設計及び設計管理	酒田市建設部建築課／(株)池原義郎・建築設計事務所
施工	竹中工務店・フジタ・大場建設共同企業体 [建築・独立壁築造その他・外構]
	日立プラント建設・弘栄設備工業共同企業体 [機械設備・外構機械設備]
	東北電化工業(株) [電気設備・外構電気設備]
	庄内園芸緑化(株) [植栽]
美術館建設費	25億9千2百万円(用地取得・造成工事・設計及び設計管理・建築工事・設備工事・周辺整備工事・備品購入費)

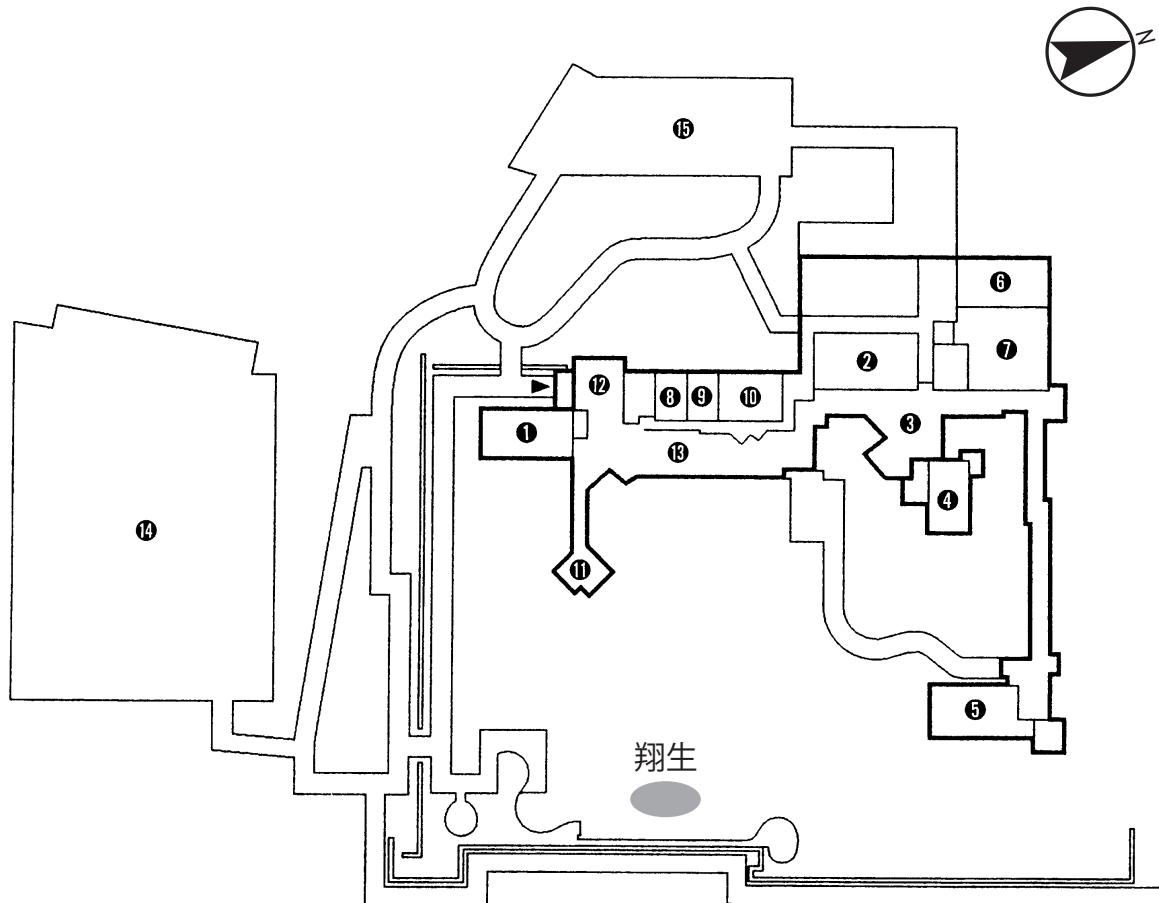
## 各室別面積表

①市民ギャラリー	172.00m <sup>2</sup>	⑨館長室	43.08m <sup>2</sup>
②企画展示室	162.00m <sup>2</sup>	⑩事務室	86.16m <sup>2</sup>
③展示ホール	222.00m <sup>2</sup>	⑪喫茶「モンマルトル」	116.00m <sup>2</sup>
④常設展示室Ⅰ	119.79m <sup>2</sup>	⑫エントランス	62.98m <sup>2</sup>
⑤常設展示室Ⅱ	182.00m <sup>2</sup>	⑬ロビー・ショップ	342.25m <sup>2</sup>
⑥収蔵庫(彫刻)	267.00m <sup>2</sup>	⑭来客用駐車場	86台
⑦収蔵庫(絵画)	242.60m <sup>2</sup>	⑮管理用駐車場	24台
⑧ミーティングルーム	43.08m <sup>2</sup>		

※市民ギャラリーには空調室含む

※収蔵庫(彫刻)は2階部分を含む

※収蔵庫(絵画)には前室を含む



# 酒田市美術館

## (1) 法人設立の目的(当初財団法人設立趣意書より)

この美術館は、酒田市はじめ庄内地域全体の美術館として、近代及び現代美術作品を中心とする収集・展示や、市民の創作活動の発表の場の提供などを通じ、将来にわたり市民の芸術文化の向上に寄与することを目的とする。

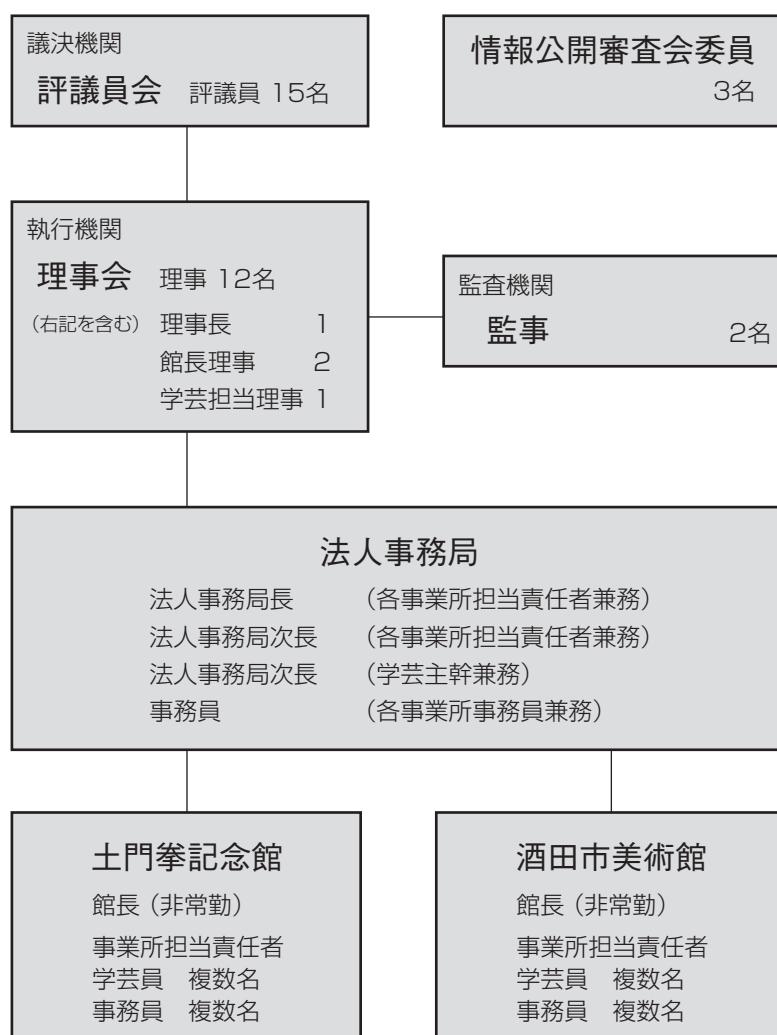
## (2) 美術館の管理・運営

平成9年4月1日 管理・運営を受託

平成18年4月1日～ 現在 指定管理者として管理・運営を受託

令和3年6月1日～ 公益財団法人大門拳記念館と統合し、公益財団法人さかた文化財団となり、新財団が指定管理者として管理・運営を受託。

## (3) 公益財団法人さかた文化財団 組織図



## (4) 役職員簿

理事長(代表理事)	1名
館長理事(業務執行理事)	1名
理 事	12名
監 事	2名
評 議 員	15名
情報公開審査会委員 (酒田市美術館)	3名
事務局長	1名
学芸主幹	1名
総務主査	1名
学芸主任	1名
学芸員	1名
事務員	1名

# 特別企画展一覧

(平成9年度～令和3年度)

年度	展覧会名	開会日	閉会日	観覧者数
9-01	卒寿記念森田茂展	H9.10.3	～ H9.11.3	9,898
9-02	世界の文化遺跡を描く平山郁夫展	H9.11.8	～ H9.11.30	<b>10,322</b>
10-01	池田あきこ原画展	H10.3.20	～ H10.4.19	7,161
10-02	中国現代画家黄胄とその作品	H10.4.24	～ H10.5.17	4,741
10-03	ミレーとバルビゾン派の画家たち	H10.6.19	～ H10.7.20	8,471
10-04	時代を駆け抜けた、鮮烈の青春小野幸吉展	H10.8.28	～ H10.9.27	5,606
10-05	人間国宝奥山峰石金工展	H10.9.30	～ H10.11.16	3,037
10-06	第53回県美展酒田巡回展・第40回こども県展	H10.11.11	～ H10.11.16	1,492
10-07	写真家岩合光昭の「スノーモンキー」	H10.11.20	～ H10.12.20	3,568
11-01	版と炎の造形池田満寿夫と安倍安人展	H11.4.23	～ H11.5.23	5,105
11-02	女性のいる風景—近世ヨーロッパの絵画の流れ—	H11.6.11	～ H11.7.26	6,696
11-03	全国高等学校総合文化祭	H11.7.30	～ H11.8.3	1,751
11-04	写真家青野恭典展—みちのく彩時季—	H11.8.6	～ H11.8.30	4,104
11-05	ポーランドクラクフ国立博物館浮世絵名品展	H11.9.3	～ H11.10.3	6,308
11-06	第54回県美展酒田巡回展・第41回こども県展	H11.11.10	～ H11.11.15	2,024
11-07	佐藤時啓のまなざし「光—呼吸」	H11.11.19	～ H12.1.16	4,014
12-01	わくわくアニメワールド	H12.3.18	～ H12.4.16	8,906
12-02	悠久のときを超えていまよみがえる始皇帝の銅車馬展—中川コレクション展	H12.4.21	～ H12.5.21	7,327
12-03	自然、風景との対話松本哲男展	H12.5.26	～ H12.6.23	3,306
12-04	東京国立近代美術館所蔵近代の名作展	H12.6.28	～ H12.7.30	<b>14,479</b>
12-05	日本のふるさとを描く原田泰治の世界展	H12.8.3	～ H12.8.27	<b>16,450</b>
12-06	カナダモントリオール美術館所蔵クレマンソー・コレクションより「香合の美」展	H12.8.31	～ H12.10.10	7,813
12-07	第55回県美展酒田巡回展・第42回こども県展	H12.10.26	～ H12.10.30	2,349
12-08	20世紀の巨匠梅原龍三郎展	H12.11.3	～ H12.11.26	6,545
13-01	第45回現代書道二十人展	H13.3.16	～ H13.4.15	4,403
13-02	これでいいのだ! 赤塚不二夫展	H13.4.20	～ H13.5.20	8,236
13-03	没後10年—高橋剛彫刻展	H13.5.25	～ H13.7.1	4,384
13-04	高橋由一から藤島武二まで山岡コレクションを中心に日本近代洋画への道展	H13.7.6	～ H13.8.19	7,415
13-05	大正の面影と抒情を誘って中右コレクションと酒田の夢二竹久夢二展	H13.8.25	～ H13.9.30	<b>10,347</b>
13-06	第56回県美展酒田巡回展・第43回こども県展	H13.10.25	～ H13.10.29	2,129
13-07	農民を描き続けた沈默の画家—常田健展	H13.11.2	～ H13.12.2	4,803
14-01	谷内六郎の世界展 忘れ得ぬこころの風景	H14.3.21	～ H14.5.5	<b>10,774</b>
14-02	井上靖展—文学の軌跡と美へのまなざし—	H14.5.10	～ H14.6.9	5,200
14-03	つちだよしはるのくまくん美術館	H14.6.13	～ H14.6.30	8,875
14-04	砂の世界を旅した画家—國領經郎展	H14.7.5	～ H14.7.28	2,940
14-05	開館5周年特別企画 近代絵画の巨匠たち—印象派からエコール・ド・パリ展	H14.8.2	～ H14.9.1	<b>10,232</b>

年度	展覧会名	開会日	閉会日	観覧者数
14-06	色彩の詩人ピエール・ルシユール展	H14.9.6	～ H14.9.29	4,440
14-07	片岡鶴太郎展 一花音色一	H14.10.11	～ H14.11.4	<b>17,623</b>
14-08	第57回県美展酒田巡回展・第44回こども県展	H14.11.8	～ H14.11.12	1,618
14-09	渡邊榮一銅版画・油彩画作品展	H14.11.14	～ H14.12.23	3,068
15-01	河井リツコ子「とっこハム太郎」の原画初公開とっこハム太郎美術館展	H15.3.21	～ H15.4.20	<b>10,075</b>
15-02	中島潔が描く金子みすゞ まなざし	H15.4.25	～ H15.5.25	8,785
15-03	カッセル グリム兄弟博物館所蔵 永遠のグリム童話展	H15.5.30	～ H15.7.6	6,712
15-04	華々しくメルヘンの世界へ 辻村寿三郎人形展	H15.7.11	～ H15.8.17	<b>17,565</b>
15-05	林功展 その人と作品	H15.8.22	～ H15.9.28	6,226
15-06	国民文化祭写真部門	H15.10.4	～ H15.10.13	3,047
15-07	第58回県美展酒田巡回展・第45回こども県展	H15.10.17	～ H15.10.21	1,947
15-09	ロバートハインデル展 ～舞台のダンサーに魅せられて～	H15.11.2	～ H15.12.7	5,017
15-10	アルバースのいろとかたち展	H15.12.12	～ H16.3.14	3,556
16-01	いわむらかすお 絵本の世界展	H16.3.19	～ H16.4.18	9,002
16-02	魯山人の宇宙展	H16.4.24	～ H16.5.30	<b>10,314</b>
16-03	ジュディ・オング 木版画の世界展	H16.6.5	～ H16.7.19	<b>13,863</b>
16-04	没後10年 斎藤長三展	H16.7.25	～ H16.8.15	2,735
16-05	東山魁夷展 冬の旅	H16.8.21	～ H16.9.26	<b>12,349</b>
16-06	傳益瑠(フイーヤオ)墨画と寺宝展	H16.10.1	～ H16.11.4	5,752
16-07	第59回県美展酒田巡回展・第46回こども県展	H16.11.10	～ H16.11.16	2,610
16-09	つちだよしはるの冬のくまくん美術館	H17.1.18	～ H17.1.30	3,775
17-01	光と影のシンフォニー藤城清治の世界展	H17.3.19	～ H17.5.8	<b>21,170</b>
17-02	佐藤昌祐油絵展	H17.5.15	～ H17.6.12	4,890
17-03	オードリー・ヘップバーン展	H17.6.19	～ H17.7.31	<b>18,600</b>
17-04	吟遊詩想画人早川義孝展	H17.8.7	～ H17.9.11	5,262
17-05	京の四季展 ～絵画でたどる京都の美～	H17.9.17	～ H17.10.23	6,671
17-07	第60回県美展酒田巡回展・第47回こども県展	H17.11.9	～ H17.11.15	2,174
17-08	宮崎進展 ～シベリアからサンパウロまで～	H17.11.21	～ H17.12.18	2,049
18-01	つちだよしはるのくまくん美術館 ～くまくんパリへいく～	H18.3.18	～ H18.4.23	9,252
18-02	～こころの詩～ 八代亜紀絵画展	H18.4.29	～ H18.6.11	<b>16,773</b>
18-03	假屋崎省吾の世界展 ～語り継がれる、新たな美の歴史～	H18.6.17	～ H18.7.23	<b>12,475</b>
18-04	～竜宮伝説～ 伊東昭義	H18.7.29	～ H18.9.3	6,067
18-05	～ジャポニスムへの旅～ 平松礼二展	H18.9.9	～ H18.10.22	6,041
18-07	第61回県美展酒田巡回展・第48回こども県展	H18.11.8	～ H18.11.13	2,128
18-08	世界遺産写真展Ⅲ ～映像と写真でつづる、地球の記憶～	H18.11.19	～ H18.12.24	9,343
19-01	やなせたかしの世界展	H19.3.17	～ H19.5.6	<b>13,739</b>

年度	展覧会名	開会日	閉会日	観覧者数
19-03	故郷からのおくりもの ～高橋まゆみ創作人形展～	H19.5.12	～ H19.6.17	<b>25,642</b>
19-04	アーミッシュの世界 松下麻里・菅原千代志・菅原真理子展	H19.6.23	～ H19.7.16	6,138
19-05	新田嘉一コレクション展 ～美に魅せられ、美と生きる～	H19.7.22	～ H19.8.20	<b>10,873</b>
19-06	相田みつを全貌展 ～相田みつを美術館開館10周年記念～	H19.8.26	～ H19.9.26	<b>18,010</b>
19-07	生誕100年 森田茂展 ～酒田市美術館開館10周年記念～	H19.10.3	～ H19.10.23	2,635
19-09	第62回県美展酒田巡回展・第49回こども県展	H19.11.7	～ H19.11.12	2,250
20-01	池田あきこ原画展「ダヤンのおいしいゆめ」から20年	H20.3.15	～ H20.5.6	9,403
20-02	柳澤紀子 永遠の瞬間 越境する身体	H20.5.11	～ H20.6.8	2,828
20-03	～池田理代子～ 永遠のベルサイユのばら展	H20.6.14	～ H20.7.21	8,482
20-04	娘とその父 工藤静香展	H20.7.27	～ H20.9.7	<b>14,763</b>
20-05	～巨匠も描いた! クレバースっておもしろい!～ クレバース画名作展	H20.9.13	～ H20.10.22	4,543
20-07	第63回県美展酒田巡回展・第50回こども県展	H20.11.5	～ H20.11.10	2,174
20-08	小磯良平 聖書装画展	H20.11.16	～ H20.12.25	2,898
21-01	旭山動物園の物語 あべ弘士絵本原画展 動物たちが集まつた!	H21.3.20	～ H21.4.19	4,142
21-02	ベスト・オブ・世界遺産展	H21.4.25	～ H21.6.7	8,875
21-03	故郷からのおくりもの ふたたび 高橋まゆみ創作人形展	H21.6.14	～ H21.7.26	<b>20,593</b>
21-04	パリを愛した画家たち展	H21.8.2	～ H21.9.13	9,373
21-05	染色家 芹沢鉢介の世界展	H21.9.19	～ H21.10.20	4,589
21-07	第64回県美展酒田巡回展・第51回こども県展	H21.11.13	～ H21.11.18	1,653
21-08	キャシーズキルトワールド展	H21.11.23	～ H21.12.25	<b>10,266</b>
21-09	新田嘉一コレクション 陶芸作品展	H22.2.3	～ H22.2.28	2,059
22-01	市原基写真展「ヒマラヤ水系」	H22.3.20	～ H22.4.23	3,247
22-02	きりえの魅力 滝平二郎遺作展	H22.4.29	～ H22.6.13	8,263
22-03	近くで懐かしい昭和展	H22.6.19	～ H22.7.25	9,448
22-04	戦没画学生遺作「無言館」祈りの絵展	H22.7.31	～ H22.9.9	5,044
22-05	榎木孝明 水彩紀行展 ～景色は私の心の窓～	H22.9.15	～ H22.10.24	7,599
22-07	第65回県美展酒田巡回展・第52回こども県展	H22.11.10	～ H22.11.15	2,043
22-08	ちばてつや漫画原画展	H22.11.21	～ H22.12.23	3,468
22-09	～酒田市寄贈記念～ 洋画家 真下慶治展	H23.1.22	～ H23.2.20	2,174
23-01	ハイチの素朴な絵画展	H23.4.1	～ H23.4.25	2,478
23-02	片岡鶴太郎展 艷葉樹 ～つやばき～	H23.5.1	～ H23.6.12	<b>12,350</b>
23-03	葦崎大森美術館所蔵 女流画家の世界展	H23.6.18	～ H23.7.24	4,505
23-05	佐川美術館所蔵 平山郁夫展 ～大唐西域画への道～	H23.7.30	～ H23.9.19	<b>10,479</b>
23-06	安部朱美 創作人形展「昭和の家族」きずな	H23.9.25	～ H23.10.25	9,709
23-08	第66回県美展酒田巡回展・第53回こども県展	H23.11.9	～ H23.11.14	2,009
24-01	江成常夫写真展「昭和史のかたち」	H24.3.18	～ H24.4.22	2,075

年度	展覧会名	開会日	閉会日	観覧者数
24-02	細密画家 熊田千佳慕展	H24.4.28	～ H24.6.3	5,769
24-03	美しく生きる 中原淳一展	H24.6.9	～ H24.7.22	5,919
24-04	PLAY THE GLASS 増田洋美 ガラスの世界展	H24.8.1	～ H24.9.2	6,481
24-05	孤高の旅人 堀文子展	H24.9.9	～ H24.10.23	7,195
24-07	第67回県美展酒田巡回展・第54回こども県展	H24.11.7	～ H24.11.12	1,981
24-08	岩合光昭 どうぶつ写真展 地球の宝石 × B.T.グリーヴ／文	H24.11.18	～ H25.1.31	6,628
24-09	國領經郎展	H25.2.6	～ H25.3.10	3,003
25-01	ハローキティアート展	H25.3.16	～ H25.4.22	<b>11,331</b>
25-02	一人形・動物・革絵一本池秀夫 革の世界展	H25.4.27	～ H25.6.2	6,517
25-03	ともに生きる NHKハート展	H25.6.8	～ H25.7.15	8,137
25-04	あべとしゆき水彩画展(市民ギャラリー)	H25.6.12	～ H25.7.15	7,564
25-05	ルーヴル美術館の銅版画展 カルコグラフィーコレクション	H25.7.21	～ H25.9.1	5,618
25-06	画家たちの自画像展 一日本洋画の近代から現代まで一	H25.9.7	～ H25.10.21	3,669
25-08	第68回県美展酒田巡回展・第55回こども県展	H25.11.6	～ H25.11.11	2,005
26-01	アトリエの巨匠100人 南川三治郎写真展	H26.3.15	～ H26.4.14	1,883
26-02	安野光雅「旅の絵本」の世界展 ～風景と街並に隠されたユーモア～	H26.4.20	～ H26.6.1	5,107
26-03	放浪の天才画家 山下清展	H26.6.7	～ H26.7.21	<b>10,749</b>
26-04	文化人・芸能人の多才な美術展2014	H26.7.27	～ H26.9.7	6,329
26-05	メキシコの大地生命への賛歌 竹田鎮三郎展	H26.9.13	～ H26.10.19	2,707
26-07	第69回県美展酒田巡回展・第56回こども県展	H26.11.5	～ H26.11.10	1,761
26-08	大滝博子創作人形の世界展 ～作者の言葉と書で綴る～	H26.11.16	～ H26.12.21	5,844
27-01	時空を超えて遊ぶ 川岸富士男の世界展 ～椿と四季の草花譜～	H27.3.15	～ H27.4.19	4,424
27-02	有元利夫展 一天空の音楽一	H27.4.25	～ H27.5.31	3,308
27-04	くまのブーさん展	H27.6.6	～ H27.7.12	<b>15,002</b>
27-05	ダンボール遊園地	H27.7.18	～ H27.9.6	<b>18,359</b>
27-06	挑戦する現代ガラス '15日本のガラス展	H27.9.12	～ H27.10.18	5,924
27-08	第70回県美展酒田巡回展・第57回こども県展	H27.11.4	～ H27.11.9	1,580
27-09	池田修三木版画展 ～センチメンタル・メルヘンの世界～	H27.11.15	～ H27.12.23	3,315
27-10	早川俊二の世界 遥かな風景への旅	H28.1.5	～ H28.1.26	1,143
27-14	青野恭典追悼展	H28.3.1	～ H28.3.10	248
28-01	宮竹真澄・心のふる里人形展	H28.3.19	～ H28.4.17	5,668
28-02	～夢見る色彩の詩人～ マリーローランサン展	H28.4.23	～ H28.6.12	5,607
28-03	今にも動き出しそうな動物たち 中山みどりフェルトアート展	H28.6.18	～ H28.7.24	<b>11,221</b>
28-05	佐藤真生の世界展「間(Ma)」	H28.7.30	～ H28.9.4	4,615
28-06	鉄道写真家中井精也写真展 1日1鉄!	H28.9.10	～ H28.10.23	5,575
28-08	第71回県美展酒田巡回展・第58回こども県展	H28.11.9	～ H28.11.14	1,600

年度	展覧会名	開会日	閉会日	観覧者数
28-09	マイメロディ♡キキ&ララ☆展	H28.11.19	～ H28.12.23	8,223
29-01	酒田市美術館収蔵品展～生誕110年森田茂と新田嘉一コレクション～	H29.3.18	～ H29.4.16	1,775
29-02	アルフォンス・ミュシャ展	H29.4.22	～ H29.5.28	<b>10,002</b>
29-03	昭和の洋画を切り拓いた若き情熱 1930年協会から独立へ	H29.6.3	～ H29.7.9	2,208
29-04	ダンボール遊園地 しんかいせいぶつたんけんたい	H29.7.15	～ H29.8.27	<b>17,235</b>
29-05	リマスター・アートによる 19世紀のパリ、色彩の時代展	H29.9.2	～ H29.10.9	4,539
29-07	第72回県美展酒田巡回展・第59回こども県展	H29.11.8	～ H29.11.13	1,513
29-08	興福寺の柱絵と畠中光享展	H29.11.18	～ H29.12.24	2,661
30-01	どうぶつたちの棲む森 はしもとみお木彫りの世界展	H30.3.17	～ H30.4.22	8,405
30-02	培広庵コレクション 華麗なる美人画展	H30.4.28	～ H30.5.27	4,377
30-03	女性像にみるフォルム/現実/夢 描かれた女たち展	H30.6.2	～ H30.7.16	3,067
30-04	写真家たちの世界遺産展	H30.7.21	～ H30.9.2	4,969
30-05	リ・クリエイトでよみがえるフェルメール・光の王国展	H30.9.8	～ H30.10.14	9,288
30-07	第73回県美展酒田巡回展・第60回記念こども県展	H30.11.7	～ H30.11.12	1,733
31-01	ねこ写真家 関由香写真展 ねこうらら	H31.3.16	～ H31.4.14	5,099
31-02	ピアトリクス・ポター生誕150周年記念 ピーターラビットの世界展	H31.4.20	～ R1.5.26	7,767
31-03	ホキ美術館名品展～心ゆさぶる写実絵画～	R1.6.1	～ R1.7.15	7,606
31-04	遊びごころの「か・た・ち」展	R1.7.21	～ R1.9.1	5,702
31-05	キルトに魅せられて展	R1.9.7	～ R1.10.20	5,403
31-07	第74回県美展酒田巡回展・第61回こども県展	R1.11.6	～ R1.11.11	2,002
2-01	生誕100年 國領經郎展 ～静寂なる砂の景～	R2.3.7	～ R2.4.7	1,669
2-03	高砂淳二写真展 ～Dear Earth～	R2.7.18	～ R2.8.30	5,191
2-04	二つの東海道五拾三次 歌川広重展	R2.9.5	～ R2.10.18	4,432
2-05	オードリー・ヘプバーン写真展	R2.11.28	～ R3.1.22	4,378
2-06	いわさきちひろ ピエゾグラフ展	R3.1.30	～ R3.3.14	5,002
3-01	アンティークドールの夢展 ～児玉幸雄コレクション～	R3.3.20	～ R3.5.16	2,655
3-02	酒田市美術館・土門拳記念館共同企画 今森光彦「自然と暮らす切り紙の世界」展	R3.5.22	～ R3.7.9	4,061
3-03	つくる展 ～TASKOファクトリーのひらめきをかたちに～	R3.7.17	～ R3.8.29	<b>13,206</b>
3-04	魔女がやってきた 角野栄子展	R3.9.4	～ R3.10.17	5,470
3-05	第76回県美展酒田巡回展・第63回こども県展	R3.11.10	～ R3.11.15	1,701
3-06	令和2・3年度市町村立美術館活性化事業 第21回共同巡回展 板橋区立美術館・豊島区所蔵 池袋モンパルナスー画家たちの交差点ー	R3.11.20	～ R4.1.10	2,105

# 年度別入館状況\*

(平成9年度～令和3年度)

(人)

区分		9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
展覧会	一般	19,409	20,529	15,835	23,865	15,010	19,523	15,798	15,525	14,060	15,406	25,740	12,379
	大学生・高校生	533	1,247	648	983	912	1,154	805	633	916	645	746	745
	中学生・小学生	1,289	1,957	1,251	2,514	1,454	1,822	2,164	1,904	2,091	1,741	1,541	1,205
	会員券・招待・視察等	8,814	21,701	24,744	43,256	33,881	48,676	43,878	43,941	46,774	48,801	57,058	32,508
観覧者数 小計		30,045	45,434	42,478	70,618	51,257	71,175	62,645	62,003	63,841	66,593	85,085	46,837
市民ギャラリー入場者数		6,182	24,375	14,337	35,418	20,093	17,715	24,221	17,859	12,435	15,859	9,011	12,891
喫茶利用者数		11,301	20,201	15,943	22,034	15,129	17,845	16,247	15,840	14,294	13,581	15,165	9,883
入館者数 計		47,528	90,010	72,758	128,070	86,479	106,735	103,113	95,702	90,570	96,033	109,261	69,611

(人)

区分		21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年	令和2年
展覧会	一般	21,413	10,308	13,841	12,603	8,197	12,022	17,710	14,265	16,206	12,826	12,163	8,725
	大学生・高校生	667	374	377	611	338	451	688	522	518	444	454	159
	中学生・小学生	896	743	650	1,819	1,195	1,140	6,049	2,557	4,560	1,354	1,924	621
	会員券・招待・視察等	40,117	30,351	31,431	29,926	37,522	26,224	34,733	27,528	24,269	21,195	21,404	11,346
観覧者数 小計		63,093	41,776	46,299	44,959	47,252	39,837	59,180	44,872	45,553	35,819	35,945	20,851
市民ギャラリー入場者数		12,610	8,744	11,483	7,883	9,241	7,873	10,447	7,177	8,648	5,955	7,150	5,682
喫茶利用者数		12,051	7,866	9,019	8,490	7,206	7,270	6,053	5,158	4,658	4,987	6,101	4,432
入館者数 計		87,754	58,386	66,801	61,332	63,699	54,980	75,680	57,207	58,859	46,761	49,196	30,965

(人)

区分		令和3年	開館以来累計
展覧会	一般	11,609	384,967
	大学生・高校生	236	15,806
	中学生・小学生	3,820	48,261
	会員券・招待・視察等	15,264	805,342
観覧者数 小計		30,929	1,254,376
市民ギャラリー入場者数		6,690	319,979
喫茶利用者数		5,134	275,888
入館者数 計		42,753	1,850,243

※4月1日～3月31日



# 利用案内

## ■開館案内

午前9時から午後5時まで(入館は午後4時30分まで)

## ■休館日

4月～11月／無休

12月～3月／月曜日休館(祝日の場合は翌日)

年末年始休館／12月29日～1月3日

※但し、年間を通じて展示替等による休館あり

## ■観覧料

区分	一般展		特別展	年間券(1年間有効)	
	個人	団体		3名まで	10名まで
一般	700円	560円	展覧会によって 異なります。	3名まで	10名まで
高校生	350円	280円		3,300円	16,500円
中学生	無料	無料			

※料金の一般に、大学・専門学生も含まれます。

## ■市民ギャラリー使用料

区分	全 面	半 面
全 日	5,500円	2,750円
半 日	2,750円	1,370円

※酒田市外の団体、個人は倍額とします。受付は6ヶ月前より。

※冬期間(12月～3月)は半額となります。

## ■案内図



### [交通のご案内]

◆JR東日本酒田駅／るんるんバス 20分 タクシー 約10分

◆庄内空港／タクシー 約20分

◇駐車場 美術館無料駐車場有(110台収容)



# 酒田市美術館年報

[令和2年度——令和3年度]



令和5年3月

編集・発行 酒田市美術館

〒998-0055 山形県酒田市飯森山三丁目17-95

TEL 0234-31-0095

FAX 0234-31-0094

<http://www.sakata-art-museum.jp>

印刷所 株式会社小松写真印刷



酒田市美術館

Sakata City Museum of Art